

令和2年度

障害者芸術文化活動  
普及支援事業報告書

Annual Report

令和2年度  
障害者芸術文化活動  
普及支援事業報告書

# 目次

## 3 はじめに

## 4 「障害者芸術文化活動普及支援事業」とは

## 5 支援センター・広域センター 一覧

## 6 事業の実施状況について

## 7 支援センター・広域センターの取り組み

8 **青森県** 青森アール・ブリュットサポートセンター（AASC）

10 **岩手県** 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

12 **宮城県** 障害者芸術活動支援センター@宮城（SOUP）

14 **山形県** やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

16 **福島県** はじまりの美術館

18 **栃木県** とちぎアートサポートセンターTAM（タム）

20 **埼玉県** アートセンター集

22 **埼玉県** ART(s) さいほく

24 **千葉県** 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

26 **東京都** 東京アール・ブリュットサポートセンターRights（ライツ）

28 **神奈川県** 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

30 **山梨県** YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

32 **新潟県** 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

34 **富山県** 富山県障害者芸術活動支援センター  
ばーと◎とやま（BE=ART◎TOYAMA）

36 **石川県** 文化・芸術活動支援センターかける

38 **岐阜県** 岐阜県障がい者芸術文化支援センター（TASCぎふ）

40 **静岡県** 静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと

42 **愛知県** Aichi Artbrut Network Center（AANC）

44 **三重県** 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

46 **滋賀県** アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター（アイサ）

48 **京都府** art space co-jin

50 **大阪府** 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

52 **兵庫県** ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

54 **和歌山県** 和歌山県企画部 紀の国わかやま文化祭推進局事業推進課

56 **和歌山県** 和歌山県障害者芸術文化活動支援センターわがらあと

58 **鳥取県** あいサポート・アートセンター

60 **島根県** 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

62 **広島県** 広島県アートサポートセンター

64 **徳島県** 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

66 **愛媛県** 愛媛県障がい者アートサポートセンター

68 **高知県** 薬工ミュージアム 分室

70 **福岡県** FACT（福岡県障がい者芸術文化活動支援センター）

72 **佐賀県** Saga ArtBrut Network Center（SANC）

74 **長崎県** 長崎県障害者社会参加推進センター 芸術文化活動支援事務局

76 **熊本県** 障害者芸術文化活動支援センター@熊本 愛隣館

78 **大分県** おおいた障がい者芸術文化支援センター

80 **宮崎県** 宮崎県障がい者芸術文化支援センター

82 **北海道・北東北ブロック** アールブリュット推進センターGently（ジェントリー）

84 **南関東・甲信ブロック** ART(s) さいほく

86 **東海・北陸ブロック** 東海・北陸ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター

88 **近畿ブロック** 障害とアートの相談室

90 **中国・四国ブロック** 中国・四国 Artbrut Support Center passerelle（パスレル）

92 **九州ブロック** 九州障害者アートサポートセンター

## 95 連携事務局の取り組み

96 連携事務局の紹介

100 連携事務局の年間の取り組み

103 南東北・北関東ブロックのフォロー

## 104 数値で見る実績

## 107 全国の障害者数データ

# はじめに

「障害者芸術文化活動普及支援事業」は、2017（平成29）年度からスタートして、今年度で4年目の実施となりました。

初年度は各都道府県で本事業を実施する「障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）」20カ所、それら支援センターをブロック単位でサポートする「障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）」3カ所からのスタートでしたが、年度を重ねるごとにセンターが増加し、今年度は支援センター37カ所、広域センター6カ所で事業を実施しました。

連携事務局では、厚生労働省と打ち合わせを重ね、各センターからの事業報告を集約し、今年度の事業成果とする本報告書をまとめました。各センターが対象とするエリアの現状と課題、課題解決に向けた目標、実現をめざして実施した事業内容、事業を通じた成果を見渡せる構成としました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大という困難な状況下における各センターの工夫もうかがえるものとなりました。

本書が、本事業の取り組みを知っていただくきっかけになるとともに、各地での障害のある人の芸術文化活動支援の参考になれば幸いです。

最後になりましたが、本書の発行にご協力をいただいたすべてのみなさまへお礼を申し上げます。

2021（令和3）年3月  
社会福祉法人 グロー（GLOW）～生きることが光になる～  
社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会

# 「障害者芸術文化活動普及支援事業」とは

障害のある人が芸術文化を享受し、多様な芸術文化活動を行うことができるように、地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することをねらいとした事業です。

2014（平成26）年度から3年間を通じて全国12カ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに、2017（平成29）年度から支援の対象を「絵画や陶芸などの美術分野」に加えて、「演劇や音楽、舞踊などの舞台芸術分野」にも広げ、2020（令和2）年度からは「美術、音楽、演劇、舞踊などの多様な芸術文化活動」を対象として実施しています。

活動地域に応じて、都道府県「障害者芸術文化活動支援センター（支援センター）」、ブロック「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」、全国「連携事務局」といった支援拠点を設置しています（P.5参照）。

同時に、これらの支援センター、広域センター、連携事務局のネットワークを構築し、県境を越えて広域でも連携しつつ、地域での振興を図りながら全国規模で本事業を推進しています。

また、毎年都道府県が持ち回りで開催する「全国障害者芸術・文化祭」や、同芸術・文化祭と連携する各自治体の「障害者芸術・文化祭のサテライト開催事業」といった厚生労働省事業との連携で、相乗的に障害のある人の芸術文化活動の振興を図っています。

## 主な事業内容

### ① 都道府県における活動支援「障害者芸術文化活動支援センター（支援センター）」

- ア| 都道府県内における相談支援
- イ| 芸術文化活動を支援する人材の育成等
- ウ| 関係者のネットワークづくり
- エ| 発表の機会の確保
- オ| 情報収集・発信
- カ| 事業評価及び成果報告のとりまとめ

### ② ブロックにおける活動支援「障害者芸術文化活動広域支援センター（広域センター）」

- ア| 都道府県の支援センターに対する支援
- イ| 支援センター未設置の都道府県の事業所等に対する支援
- ウ| 芸術文化活動に関するブロック研修の開催
- エ| ブロック内の連携の推進
- オ| 発表の機会の確保
- カ| 自治体における基本計画策定の推進
- キ| 事業評価及び成果報告のとりまとめ

### ③ 全国レベルにおける活動支援「連携事務局」

- ア| 広域センター等に対する支援
- イ| 全国連絡会議の実施
- ウ| 全国の情報収集・発信
- エ| 全国のネットワーク体制の構築、成果のとりまとめ、公表等
- オ| 障害者団体、芸術団体等との連携

## 支援センター・広域センター 一覧

連携事務局 | グロー（美術）、大阪障害者自立支援協会（舞台芸術）

●「★」は広域センター ●「南東北・北関東」ブロックには広域センターが設置されていないため、連携事務局がブロックへの支援を行いました



# 事業の実施状況について

厚生労働省で実施した「障害者の芸術活動支援モデル事業」(2014[平成26]~2016[平成28]年度)、「障害者芸術文化活動普及支援事業」(2017[平成29]~2020[令和2]年度)の実施状況です。

ブロック	都道府県	障害者の芸術活動支援モデル事業				障害者芸術文化活動普及支援事業			
		2014(平成26)年度	2015(平成27)年度	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	
1 北海道・北東北	広域センター								
	北海道								
	青森県								
	岩手県								
2 南東北・北関東	広域センター								
	宮城県								
	山形県								
	福島県								
	茨城県								
	栃木県								
3 南関東・甲信	広域センター								
	埼玉県								
	千葉県								
	東京都								
	神奈川県								
	山梨県								
	長野県								
4 東海・北陸	広域センター								
	新潟県								
	富山県								
	石川県								
	福井県								
	岐阜県								
	静岡県								
	愛知県								
	三重県								
5 近畿	広域センター								
	滋賀県								
	京都府								
	大阪府								
	兵庫県								
	奈良県								
6 中国・四国	広域センター								
	鳥取県								
	島根県								
	岡山県								
	広島県								
	山口県								
	徳島県								
	香川県								
	愛媛県								
7 九州	広域センター								
	福岡県								
	佐賀県								
	長崎県								
	熊本県								
	大分県								
	宮崎県								
	鹿児島県								
沖縄県									
連携事務局	1カ所	1カ所	1カ所	2カ所	2カ所	2カ所	2カ所		

※2017(平成29)年度までは都道府県、ブロック、全国のすべてのレベルは民間団体が実施主体であったが、2018(平成30)年度より都道府県レベルの実施主体は各自治体となり、各都道府県において支援センターの運営方法が異なる(自治体による直営、民間団体への補助・委託など)。  
 ※本表において支援センター、広域センター、連携事務局が複数年継続して設置されている場合も、補助・委託先が変更している場合もあるため、本書の各団体のページに記載のある実績年数と必ずしも一致するとは限らない。

# 支援センター 広域センターの 取り組み

「障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）」では、都道府県の支援拠点として相談支援や人材育成、関係者のネットワークづくり、発表の機会の確保、情報収集・発信など多様な支援事業を展開しています。「障害者芸術文化活動広域支援センター（以下、広域センター）」では、全国を7つのブロックに分け、ブロック内の支援センターのサポートや支援センターが設置されていない都道府県の事業所などに支援事業を展開しています。ここでは支援センターと広域センターの今年度の取り組みを紹介します。

## 青森アール・ブリュットサポートセンター（AASC）

〒037-0017 青森県五所川原市漆川字鍋懸147-2

TEL 0173-26-1021 FAX 0173-26-1021 MAIL aasc.aorid@gmail.com URL https://www.aasc.jp



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 あーんど

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 4年/2017(平成29)年度より開始

支援センター実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

## 都道府県内の状況

県内の年目障害者による芸術創作活動は、主に障害者支援施設や病院の日中活動として実施されています。しかし、芸術として捉えられた実績が少なく、「指導する」という概念が根強いので、作家がもつ世界観や感性の素晴らしさを引き出せていない現状がありました。当センターは3年に渡り、弘前市でアール・ブリュット公募展、青森市で企画展や合同展、五所川原市・平川市・八戸市で美術創

作活動や権利保護に関するセミナーを開催してきました。それらの後押しによって、関心が低い団体や施設にも展覧会などの取り組みに興味をもってもらうことができているものの、事業所単位での活動につなげていく動きは停滞しています。その理由として、近年の福祉現場における人材不足などにより、創作活動にまで手を回すことが難しいといった声がありました。

## 今年度の目標

最終的には県内の障害者の芸術創作活動の活性化を目標に、県内の福祉事業所で芸術創作活動が自主的かつ持続可能に取り組みされるなど、より発展することをめざし、現場の動きに直結する支援者の育成が必要だと考え、支援者養成巡回プログラムを柱として事業を進めていくことを計画しました。障害者の芸術文化活動に長年携わってき

た岩手県の「るんびにい美術館」アートディレクターの板垣崇志氏をコンサルタントとして招聘し、県内複数の福祉事業所を訪問指導することを企画。コンサルティングや講義、ワークショップを通じて、現場での支援の考え方を深めることをねらいました。目標達成は、各事業所の支援員へのアンケート結果の感想から判断することにしました。

## 取り組み内容

福祉事業所1カ所に対して2回の訪問指導（1回につき、コンサルティング1.5時間、講義・ワークショップ2.5時間）を実施。1回目は、芸術創作活動の様子を見学し、利用者の生活や人生に対する想像力をもつなど支援に大切な視点をアドバイス。現状を受けて、必要な講義・ワークショップを実施（例/重度障害のある人が多く、言葉でのコミュニケーションが難しい状況を踏まえ、職員3人1組で1人が障害のある人、残り2人が支援員となって、支援の方法を考える）。1カ月以上経っ

てから実施する2回目では、1回目の訪問を踏まえ、支援方法や芸術創作活動の取り組みへの変化はあったのかなど、利用者や支援員からヒアリング。講義・ワークショップでは、利用者の生活や人生にアートが加わることの意義について考えを深める内容にしました。同プログラムは、障害者の芸術創作活動に積極的に取り組む福祉事業所5カ所に連絡して、実施可能な2カ所の事業所で行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成	支援者養成巡回プログラム(全2事業所に対して2回ずつ訪問)											
関係者のネットワークづくり					第1回協力委員会(事業実施計画、意見交換など)		ブロック連絡会議参加					第2回協力委員会(事業実施報告、来年度事業の意見聴取など)ブロック連絡会議参加
発表の機会の確保							「青森ありのままの表現」展事前準備			ブロック合同展(札幌展)共催 1月20日(水)~24日(日)	「青森ありのままの表現」展主催 ブロック合同展(青森展)共催 ともに、2月13日(土)~20日(土)	
情報収集・発信	ウェブサイト・SNS更新				福祉施設訪問①(支援者養成巡回プログラム実施に向けた訪問)		福祉施設訪問②(支援者養成巡回プログラム実施に向けた訪問)		福祉施設訪問③(支援者養成巡回プログラム実施に向けた訪問)			
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



コンサルティングの様子(平川市での事例)



講義の様子(平川市での事例)



ワークショップの様子(五所川原市での事例)

## 成果の達成度、今後の展望について

コンサルタントの板垣氏から、岩手県内の福祉事業所での取り組み事例の紹介をはじめ、作品の見せ方や芸術創作活動を基軸に支援活動をどう広げていくのかなどのお話のほかに、「支援者は、表現の誕生に立ち会おういわば『助産師』。生まれる作品の色も形も変えることはできない(変えてはいけない)」「『良い作品』がもしあるとしたら、作者が自分を正しく表現できた作品のこと以外にない。それを結果的に、他人も喜ぶかもしれないが、本人が満たされなくては意味がない」といった深い話まで聞くことができました。参加者からのアンケートでは、「支援者が目に見える『作品』や『展覧会』といった成果や結果に囚われ、『アートとはこうあるべき』といった概念に何の疑問

をもつこともなく、いつのまにか『作品をつくること』が目的化していた」「特に印象深いのは、『すべてを受け入れること』を体現されている先生がいることで、事業所の空気が変わった感覚」「アートとは絵を描くことや像をつくることといった創作活動に留まらない、その方の人生そのものであり、私たちの支援はその価値を認めることから始まるのではないかと考えるようになった」といった声が寄せられ、現場での支援の考え方を深めることができたと考えられます。しかし、あくまで県内の障害者の芸術創作活動の活性化に向けた第一歩であるため、来年度も引き続き、同プログラムを行う予定です。

# 岩手県障がい者芸術活動支援センター かだあると

〒020-0114 岩手県盛岡市高松3-7-33

TEL 019-656-7081 FAX 019-662-8044 MAIL kadarto@iwate-fukushi.or.jp URL http://www.iwate-fukushi.or.jp/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 岩手県社会福祉事業団

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 4年 / 2017(平成29)年度より開始

支援センター実績 モデル事業 /  2014  2015  2016  
本事業 /  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

岩手県では民間団体が主催する公募展が20年以上開催され、その広がりから障がいのある人の創作・表現活動で先駆的な取り組みを行う障害福祉サービス事業所が複数存在し、ネットワークが構築されています。一方で「創作・表現活動を始めて数年」「活動を検討中」「関心はあるが、実施できていない」という障害福祉サービス事業所、精神科病院が多く、活動の始め方や進め方がわからず、模索されている現状があります。2019(令和元)年度

に実施した「岩手県障がい者芸術取組実態調査」では、「創作・表現活動支援を実施している」「現在実施できていない」と回答した障害福祉サービス事業所、精神科病院で「支援する人材がいない、少ない」という課題が上位に挙げられ、人材育成に関するニーズが高いことがわかりました。幅広い研修の機会と創作・表現活動にかかわる支援者や関心をもつ支援者が互いに学び合えるネットワークの形成が求められていました。

### 今年度の目標

障がいのある人の「創作・表現活動支援を実施している」「関心はあるが、実施できていない」と回答した障害福祉サービス事業所、精神科病院ともに人材育成が上位のニーズであるため、福祉・教育・医療など幅広い分野の支援者が障がいのある人の創作・表現活動支援に関するさまざまな知識や技術を獲得することを目標としました。目標達成の指標として、①獲得をめざす知識や技術を「創作・表現活動支援に関する知識・技術」「先進事例か

らの学び」「著作権などの権利についての知識」「創作・表現活動による社会的なつながり」の4つに定め、アンケートで理解度や今後の各現場での活動への反映の可能性を示す回答が70%を超えること、②参加者の所属を福祉・教育・医療・その他の4つに分け、その比率を幅広い分野からの参加を測る基準とし、福祉分野以外の各分野の参加者が10%を超えることを設定しました。

### 取り組み内容

自身や所属する障害福祉サービス事業所、精神科病院に必要な知識や技術を主体的に選択し学ぶ機会とするため、「創作・表現活動支援に関する知識・技術の獲得を目的とした研修会」2回、「先進事例からの学びを目的とした研修会」1回、「著作権などの権利についての知識の習得を目的とした研修会」2回、「創作・表現活動による社会的なつながりについて考える研修会」1回と、幅広い内容の研修会を計6回開催。「創作・表現活動支援に関する

知識・技術の獲得を目的とした研修会」に関しては毎年、講師に「るるびにい美術館」アートディレクター・板垣崇志氏を迎えて開催しています。例年通りの「①作者の気持ちを考えるペアワーク+②作品展示に関する実習」を行う日中4時間の通常回に加え、「①」に内容を絞った夜間2時間の短縮回を開催し、障害福祉サービス事業所、精神科病院の支援者が業務時間外に気軽に参加できるように工夫しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
相談支援	随時、電話・メール・FAXにて受付						個別相談会			相談振り返り			相談振り返り
人材育成			支援者研修会 (夜間開催の短縮回)	支援者研修会 (日中開催の通常回)	権利保護 研修会 (県央、沿岸)	支援者 研修会 (ネット ワーク 形成)						管理者等研修会 指導者派遣事業	
関係者のネットワークづくり			協力委員会 (事業計画)									協力委員会 (事業報告)	
発表の 機会の確保								ふれあい音楽祭 (オンライン) 11月28日(土) ~12月27日(日)	ブロック 合同展 (札幌展①) 1月20日(水) ~24日(日)	ブロック 合同展 (青森展) 2月13日(土) ~20日(土)			
							県障がい者 文化芸術祭 (公募展) 11月12日(木) ~29日(日)		ブロック合同展 (札幌展②) 1月27日(水) ~2月5日(金)				
情報収集・発信	ウェブサイト・SNS更新												
事業評価及び 成果報告の とりまとめ												報告書作成	



「創作・表現活動支援に関する知識・技術の獲得を目的とした研修会」講師の板垣崇志氏



相互観察のワーク



展示に関するワーク

### 成果の達成度、今後の展望について

計6回の研修会を開催し、延べ87人が参加。昨年度から28人増で前年比147%。また、参加者は福祉60人(69%)、教育10人(11%)、医療4人(5%)、その他(自治体、企業、芸術文化関係)13人(15%)。昨年度の福祉43人(73%)、教育3人(5%)、医療3人(5%)、その他10人(17%)と比較すると、教育分野からの参加者数が3倍以上に増加。これは、毎年開催で認知度が上がってきたこと、夜間開催分が学校関係者の参加しやすい時間帯だったことが要因と推測できます。以上により、幅広い分野の支援者の知識・技術の獲得に一定程度成果があったものと考えます。参加者アンケートでは、すべての研修会にお

いて「参考になった」との回答が75%を超えたため、参加者の知識・技術の獲得について目標を達成したと考えます。今後の活動に反映できそうなことについても「おおいにあった」との回答が70%を超え、知識・技術の獲得のみで終わらず、今後の現場での活動への反映が期待される結果となりました。今後の展望として、医療分野や文化施設における障がい者芸術文化活動の状況を把握し、ニーズに応じた研修会を開催することで、多くの分野の支援者に対して知識や技術を獲得してもらおう機会を創出するとともに、ネットワーク形成にもつなげていければと考えています。

## 障害者芸術活動支援センター@宮城(SOUP)

〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2-3-22 第五菊水ビル3階 TRAC(東北リサーチとアートセンター)内  
TEL 070-5328-4208 FAX 022-774-1576 MAIL soup@ableart.org URL http://soup.ableart.org



### 実施団体について

**団体名** 特定非営利活動法人 エイブル・アート・ジャパン

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 27年/1994(平成6)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

支援センターを設置して7年目を迎える宮城県では、異なる圏域にネットワークのハブ(拠点)となる団体を育て、そこを通じて活動のすそ野が広がることをめざしてきました。少しずつではありますが、活躍する障害のあるアーティストや団体が生まれ、ハブがある圏域では関係者の交流や文化芸術の協働企画などが生まれています。また、2018(平成30)年からは、仙台市文化プログラムを通

じて、障害のある人と協働する芸術文化関係者育成やネットワークづくりにも取り組んでいます。しかし、2020(令和2)年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、福祉現場や公共施設に集まって研修や発表の機会を創出することは難しいと判断。そこで、オンラインで実践可能な方法に切り替え、活動しました。

### 今年度の目標

2019(令和元)年度末に行った本事業の評価ガイドラインによる評点において、当センターの取り組みで低い得点、すなわち取り組むべき課題の一つとして挙げた「障害者の芸術文化活動に対する社会的認知を高めるための活動」。支援ガイドでヒントを得た活動のコツは「障害のある人本人が、展覧会などでのアーティストトークを実施し、活動をより多くの方に知ってもらおう」です。そこで、すべての活動をオンラインに移行し、次の指標を立てました。①障害のあるアーティストが出演する映像コンテンツ

### 取り組み内容

「障害と芸術文化の大見本市」は、過去2回ともに4日間で2000人超の来場者を迎えるものでしたが、今年度は3日間で4プログラム合計18本のコンテンツをオンライン公開しました。今年度の目標に関する取り組みは、アーティストトーク「かたるSOUP」の6コンテンツ。障害のあるアーティストの表現ジャンルは絵画・イラスト・作詞・歌・ダンス、障害種別は精神障害・知的障害・ダウン症・自閉症、聞き手は美術家・現代アーティスト・映像作家・彫刻

を制作することで、本人が主体的に発表し発言する場が増える、②YouTubeチャンネルを開設しコンテンツを全国に発信することで、地域以外の人たちからの認知度が増す、③発信の機会を「障害と芸術文化の大見本市」とし、他コンテンツと併せて配信することで認知の相乗効果を図る、④出演者の権利処理などを行ったコンテンツを継続公開することで、アーティストの活動を継続的に見聞する状況が見られる。

家、トークの形式は対談・ライブ・ドキュメント映像・絵しりとりなど。また、視聴者へのアプローチとして、宮城県と仙台市の行政と連携し、特別支援学校や特別支援学級の児童・生徒、障害福祉施設・各種相談支援センター、図書館・文化施設・生涯学習施設など福祉・文化芸術・生涯学習などの関連機関に、合計1万枚のチラシを配布したほか、一斉メールやウェブサイト、SNSを通じた広報を行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援					オープン デイなん でも相談 日(1日)			オープン デイなん でも相談 日(1日)				
人材育成								全国先進 事例の オンライン 研修 (3回)	オンライン 見本市出 展者向け 技術 講習会 (1回)	オンライン見 本市出展 者個別 研修(11回) 参加者向け Zoomお試 し会 (2回)		
関係者のネットワークづくり			ネットワー ク会議(年 度計 画再検討)									ネットワー ク 会議
発表の 機会の確保											オンライン見本市 2月7日(日) ~9日(火)	
情報収集・発信							県内施設 訪問(県北 /新たに立 ち上がる 芸術文化の 拠点の取材①)		県内施設 訪問(県北 /新たに立 ち上がる 芸術文化の 拠点の取材②)	YouTube チャンネル 開設	県内施設訪問 (県南/芸術文化の 拠点の2/13地震に よる被害確認と支 援の必要性の発信)	新たに立ち 上げる芸術 文化の拠点 の取材記事 をYahoo! ニュースから 発信
事業評価及び 成果報告の とりまとめ			2019年度 の評価報告								報告書作成	協働型評価



アーティストトーク「かたるSOUP」4コンテンツのワンシーン



障害のある人たちのまなび×芸術文化「まなぶSOUP」5コンテンツのワンシーン

### 成果の達成度、今後の展望について

アーティストトークは、本人の率直な言葉や雰囲気伝えるためにすべて事前収録し、編集しました。最終的に公開したのは6本、アーカイブ配信可能なのはそのうち4本になりました。映像出演への壁、アーカイブ配信による著作権の問題、制作における時間と予算などで目標の数の制作には至りませんでした。オンライン見本市におけるライブ配信(1回限り)の視聴者は、2021(令和3)年2月8日(月)は200人、2月9日(火)は251人で、リアルなギャラリートークと比較すると、多くの人にリーチしました。視聴者から「障害のある作家が、信頼する人と安心できる空間のなか、率直な言葉や自然な振る舞いをみせていたこ

とが印象的」「続編を期待したい」というコメントがありました。特記として、オンラインによる活動は、障害者の芸術文化活動の情報の受発信には利点も多いと考えます。感染防止に資する、遠隔から参加できる、見る側は移動時間や旅費を節約できる、多くの人と交流できるなどです。一方で、社会で現実生じているデジタル格差(障害のある人、支援者、福祉施設など)をしっかりと認識して、それを解消していく働きかけも必要不可欠であり、当センターではZoomお試し会(2回)、オンライン上の手話通訳やパソコン要約筆記も導入し、結果的に新しい視聴者や支援技術を得ることができたと考えています。

# やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

〒990-0033 山形県山形市諏訪町1-2-7

TEL 023-674-8628 FAX 023-674-8629 MAIL g.lalala@y-aisenkai.or.jp URL https://www.y-aisenkai.com/info/lalala/



## 実施団体について

**団体名** 社会福祉法人 愛泉会

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 5年/2016(平成28)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

当法人は2016(平成28)年度から県内の障がいのある人の表現活動の普及支援に取り組むなかで、障がいのある人が表現活動や発表する場、芸術文化を楽しむための支援が十分ではなく、文化的な生活を送るための選択肢が少なく課題として感じてきました。一方、福祉分野以外では、芸術祭(山形ビエンナーレ/東北芸術工科大学)や、アーティストが地域の人たちと協働するプロジェクトが山形県広域において立ち上がり、それらにかかわる人材が各地に分散して増えています。2017(平成29)年の文化芸術振興基本法改正や障害者差別解消法施行などを機に、各地でも芸術文化の推進や共生社会づくりの条

例が生まれ、当センターにも行政などから展覧会開催の相談が多く寄せられるようになりました。それらに対し、2018(平成30)年の障害者文化芸術推進法に基づき、展覧会だけではなく、相談支援や人材育成、ネットワーク構築などを含めた循環型の活動を生み出す普及支援に取り組んできました。各地に出向き、福祉・行政・芸術分野の関係者と連携し、展覧会の企画支援や巡回展、研修会など、実践の仕組みづくりと人材育成に取り組んだ結果、異分野同士の連携が進み始めています。出会い・つながるだけではなく、協働関係を深め、各地での活動が生まれていく取り組みの必要性を感じています。

### 今年度の目標

優先的に取り組んだ目標は「福祉と芸術文化分野の協働による人材育成」。県内各地の福祉と芸術文化分野の人材が協働して実践する仕組みをつくることで、事業を通してより互いの分野を理解し、互いの役割や能力、得意なことを活かすことができるようなサポートをするとともに、関係人口を増やし、県内のネットワーク化と連携強化を図ります。この協働事業では、展覧会やイベントを開催し、その結果だけではなく、異分野同士が学び合うプ

ロセスそのものを大切にしました。また、アウトリーチ事業によって、障がいのある人の表現活動が県全体へと広がり、各地で支援人材が育つことをめざしました。目標達成を判断する指標・基準として、事業に参加する団体が多分野(障害福祉サービス事業所、アーティスト、行政)に渡ること、かかわる人数が増えること、各地で表現活動やソーシャルデザインにかかわる新しい事業が増えることを設定しました。

### 取り組み内容

当法人が2018年度からアウトリーチ事業として、各地に出向いて支援してきた作品展に、人材育成の観点から今年度は研修を組み合わせました。各地の学芸員やデザイナー、アーティストなどの芸術文化分野の専門家をゲストに招き、障害福祉サービス事業所職員を対象にした研修事業「作品展をつくろう!!」を実施。作品展の企画・準備などを実践的に学ぶ機会とし、表現を社会に発信するうえ

で大切なことや必要な視点を共有しました。また、福祉と芸術文化分野の人材が協働し、実践する仕組み(参加してみる→表現・展示・展覧会出展という経験→楽しさや達成感を得る→次の展開へ)をつくり出すために、オープンアトリエや創作ワークショップ、展覧会を開催し、各地の障害福祉サービス事業所やアーティストが出会い、協働関係を築ききっかけを創出しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付						相談会	相談会		相談会		
人材育成				作品展をつくろう!! @酒田① 公募展事前研修「きざしをみつけよう」	作品展をつくろう!! @酒田②	作品展をつくろう!! @酒田③ 作品展をつくろう!! @鶴岡①② 山形ビエンナーレトーク	作品展をつくろう!! @米沢①			作品展をつくろう!! @米沢②	作品展をつくろう!! @米沢③	
WS「作品展をつくろう!!」①いろんな表現を感じよう②作品の魅力を伝えるには③展示してみよう												
関係者のネットワークづくり	展覧会打ち合わせ(コロナ禍の発表の機会づくりの検討)	展覧会打ち合わせ(展覧会の企画)		展覧会打ち合わせ(人材育成研修の企画)			ネットワーク会議(県内各地の活動の実践報告と意見交換)					アドバイザー会議(サポートセンターの活動報告と意見交換)
発表の機会の確保	センター併設ギャラリーでの企画展(年間5回)			公募展作品募集 ~8月11日(火)	公募展審査	共催展覧会@酒田 9月15日(火)~27日(日)	共催展覧会@鶴岡 10月2日(金)~11日(日)	公募展 11月6日(金)~17日(火)	協力展覧会@最上 12月5日(土)~11日(金)	共催展覧会@米沢 1月10日(日)~17日(日)		
情報収集・発信		県内施設訪問①			県内施設訪問②	県内施設訪問③		県内施設訪問④ パンフレットリニューアル	県内施設訪問⑤			ウェブサイトリニューアル
ウェブサイト・SNS更新 県内施設訪問では、作家と寄り添う支援者の関係性、大切にしていることなどを取材し、県内6事例を企画展にして県内3地域で発信、報告書も作成												
事業評価及び成果報告のとりまとめ											報告書作成	



「やまがたのきざしとまなざし2020」の展示風景



「サカタアートマルシェ2020」の様子



「作品展をつくろう!!@酒田」の様子

### 成果の達成度、今後の展望について

過去事業の積み上げに加えて今年度、作品展に人材育成研修を組み合わせたことによる成果が複数見られました。研修や展覧会では、学芸員、デザイナー、アーティストなど専門家13人と連携し、昨年度の展覧会などを見て新規参加した福祉事業所が13カ所ありました。作品展や当センターの活動がきっかけの一つとなり、各地で表現活動を行う障害福祉サービス事業所を新設する動きも生まれています。鶴岡市では、昨年度から福祉課が継続開催する展覧会で、会場としている教育委員会所管の展示施設(鶴岡アートフォーラム)の学芸員や芸術文化担当職員が人材育成研修に協力し、福祉と芸術文化の分野が連携して展覧会をつくりました。鶴岡市で策定する文化芸術推進基本計画には「共生社会の推進」の項目に「障害者アート展」を位置づ

ける予定があり、福祉と芸術文化分野連携の展覧会をきっかけにした交流から多様性の理解を深める一助を担えればと思います。酒田市では、2020(令和2)年のサカタアートマルシェのメイン企画として、アーティストと障がいのある人、関係団体が連携した展覧会が開催され、地域の芸術文化を盛り上げました。展覧会場などのアクセシビリティを話し合い、サポート体制(簡易スロープ設置や受付スタッフの対応など)を整えることで、多くの障がいのある人の来場につながりました。こうした取り組みからソーシャルデザインの勉強会や対話の場がもたれ始めています。今後も当センターがハブとなって、更に各地の福祉と芸術文化をつなぐことで、新しい事業や人材が育ち、異なる文化をもつ地域同士の連携が強まり、県全体へ波及することをめざしたいです。

# はじまりの美術館

〒969-3122 福島県耶麻郡猪苗代町新町4873

TEL 0242-62-3454 FAX 0242-62-3454 MAIL soudan@hajimari-ac.com URL https://hajimari-ac.com/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 安積愛育園

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者文化活動支援歴 7年/2014(平成26)年度より開始

支援センター実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、県内の多くの文化施設が臨時休館などの対応をとり、はじまりの美術館も2020(令和2)年3~7月にかけて3カ月ほど臨時休館しました。一方、県内の福祉事業所では外出や交流などに制限を設けるといった感染対策をとりながら、開所しているところが多くありました。福島県では2017(平成29)年度より公募型の障がい者芸術作品展を開催

し、発表の機会を求める障害のある人にとって最初の一歩になっていることから、継続開催できればと検討。当センターとしては、2019(令和元)年度に県内の福祉事業所に表現活動に対する関心や取り組み状況についてのアンケート調査を実施したところ、福祉と表現にかかわる研修会などの機会が不足していることがわかったため、研修会開催の必要性を感じていました。

### 今年度の目標

今年度事業の方向性を決めるため、福島県芸術文化活動支援センターとしてのロジックモデルを構築しました。そのなかで、障害のある人の表現活動を支援する人材育成に重点を置き、「さまざまな立場の人たちが、障害のある人の表現活動への理解を深め、サポートできるようになること」を成果目標に掲げ、優先的に取り組みました。前述の目標を達成するために、「障害のある人の表現を捉え

る視点をもつ連続講座を開催」「先進的な活動に取り組むゲストを招いてトークイベントなどを開催」といった事業を実施することにしました。成果目標の達成に関する明確な指標は設けていませんでしたが、事業実施時に研修参加者にアンケートを配布したり、研修会開催時には振り返りシートの記入を呼びかけたりするなど、フィードバックをいただくようにしました。

### 取り組み内容

障害のある人の表現を考えるための連続講座「cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会2020」をオンラインで全4回開催。事前にオンラインツールの操作方法を含む参加の流れの説明、事後に講師が研修で使用した資料や関連書籍を共有するなどのサポートも行いました。初回は長津結一郎氏(九州大学大学院芸術工学研究院 助教)を招き、障害のある人の表現活動に関する概論や研修参加者自身の所在地や方向性を考える内容にしました。その後、「表現活動のヒントや制作方法を知る/早川

弘志氏(やまなみ工房 副施設長)」「商品化のヒントや広報を知る/森下静香氏(Good Job!センター-香芝センター長)」「インターネットでの発信やアーカイブの方法を知る/ササキユイチ氏・水越雅人氏(認定特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ スタッフ)」と先進的な取り組みを行うゲストを招いて開催しました。また、障害のある人の表現活動への理解を深めるための事業として、トークイベントのオンライン配信や上映会&手話トークイベントなども行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成								オンライントーク、上映会&トークなどを開催		cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会2020(全4回)		
関係者のネットワークづくり				出展事業所訪問						研修会後の交流タイム		出展事業所訪問
発表の機会の確保				ルイジトコナリ展 7月11日(土)~10月11日(日)				福島県障がい者芸術作品展 「きになる〜ひょうげん2020」 11月21日(土) ~2021年1月17日(日)		展覧会 unico file 土屋康一展 1月30日(土) ~3月28日(日)		「きになる〜まちなか美術館」 (福島市) 3月3日(水) ~28日(日)
情報収集・発信				「note」(文章や写真、漫画、音声などを投稿できるメディアプラットフォーム)開設								
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



「cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会2020」開催の様子(左/右上)

チラシ

### 成果の達成度、今後の展望について

「cento-シエント-福祉と表現にまつわる研修会2020」では、県内に限らず、全国各地から参加がありました。更に支援員やご家族に限らず、障害のある当事者やこれから福祉と表現にかかわりたいという人など幅広い人たちの参加がありました。各回終了後に、研修参加者が「印象に残った言葉や内容」「研修会を受けての気づきやアイデア」などを記入する振り返りシートを配布したところ、回収率は全4回平均で約66%。内容と配信方法への満足度は、「とても満足」「満足」を合わせるとそれぞれ90%を超えており、福祉と表現にまつわる理解が深まったと推測できます。全4回すべてに参加する人も多く、振り返りシートの自由記述欄には「さまざまな角度から学べた」

「自分の活動にすぐに活かしたい」など熱い思いが記されていたのが印象的です。研修会終了後には交流タイムを設け、具体的な悩みごとの相談や研修参加者同士も自己紹介してネットワーク構築も試みたため、人材育成に関する一定の成果につながると思います。また、同研修会を来年度以降も継続してほしいという声も多く、今回とは違うテーマの研修会やトークイベント、交流会などの開催を希望する声も多く聞かれました。今後もオンラインとオフラインを使い分けながら、さまざまな人たちが出会い、学ぶことができる場づくりを模索していければと考えています。

# とちぎアートサポートセンターTAM

〒324-0618 栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 もうひとつの美術館内  
TEL 080-3001-8088 FAX 0287-92-8088 MAIL tam@nactv.ne.jp URL https://tam-mob.org/



## 実施団体について

**団体名** 認定特定非営利活動法人 もうひとつの美術館

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者文化活動支援歴** 20年/2001(平成13)年度より開始

**支援センター実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

慢性的な人手不足に加え、アート支援にかかわる人材や資金の不足などの理由から、障害のある人が自由に創作活動を行える環境が整う福祉事業所は少なく、支援者も周囲との創作活動に対する理解と関心の大きな温度差があり、活動しづらさを抱えている現状があります。しかしながら、2017(平成29)年度から本事業での取り組みを通して支援者同士がつながり、課題や悩み、創作支援、展示技術などを共有し考える機会が生まれたことで、公募展への応募

募など創作活動への積極的な参加につながり始めています。なかには、本事業の展覧会で作品が展示されたことを機に、事業所全体が創作活動に対して前向きになり、事業の一部として取り組み出した団体もあります。これから創作活動に注力していこうという福祉事業所・団体をはじめ、障害のある人の創作活動にかかわる支援者が孤立せず活動するためのネットワークの強化とともに、支援者を増やすための継続した人材育成の必要性がありました。

### 今年度の目標

毎年開催している展覧会「Viewing展」では、障害のある人の発表の機会を創出するとともに、準備や開催を通して支援者間のネットワーク構築や人材育成も行っています。今年度は障害のある人の創作活動にかかわる支援者や興味のある参加者が、作品を展示する技術や方法を身に付けること、向上させることを目標に置きました。福祉事業所の支援者から、空間に作品をレイアウトして展示する機会が少なく、自分たちで作品展示をしてみたいと思

ても方法がわからず、取り組めずにいるという声を多く聞いたからです。「まず、やってみる」という機会を提供することにより、その後の活動への意欲向上や足がかりになることを期待しました。目標達成については、研修参加者の増加、アンケートなどによる研修参加者の評価、また展覧会を多くの人たちに観てもらおうこと、来場者アンケートの意見により判断することにしました。

### 取り組み内容

「Viewing2021@もうひとつの美術館展」(2021[令和3]年1月23日[土]~31日[日] 会場:もうひとつの美術館[那珂川町])を開催。県内から募集して選考した作品を展示するにあたり、出展者の支援者などからなる参加者で話し合いながら、会場全体のレイアウトを決めたり、展示作業を行ったりなど、展覧会をつくる一連の過程を研修として行いました。作品の設営では、参加者が支援している作家の作品が展示される場所を担当エリアとして振り分け、作品の

魅力を引き立てるレイアウトを考えながら行いました。そのなかで、設営に慣れている人と慣れていない人とが協働し、実際に作品を展示しながら展示方法や見せ方などの意見交換を行うことによって、さまざまな考え方や方法があることを共有できるようにしました。また、そのようにつくり上げた展示を多くの人たちに観てもらえるように、オンライン上で会場をまわる見学ツアーも企画し、配信しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成									研修① (著作権)		研修② (保管と管理)	
関係者のネットワークづくり							TAM会議① (今年度のスケジュールについて)	TAM会議② (展覧会について)	TAM会議③ (展示作品の確認と設営について)		TAM会議④ (反省会)	
発表の機会の確保									作品受付(搬入) 12月2日(水)・3日(木) 作品選考 12月5日(土)	展覧会準備・研修 レイアウト 1月12日(火) 設営 1月16日(土)・19日(火)~22日(金) 展覧会 1月23日(土)~31日(日) オンライン配信 1月27日(水)~31日(日)		
情報収集・発信	ウェブサイト・SNS更新											
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



「Viewing2021@もうひとつの美術館展」展示風景



設営風景



レイアウト会議

### 成果の達成度、今後の展望について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が大きいなかでの展覧会の準備・開催となったため、希望者の参加が叶わなかったり、来場者数は昨年度の半数程度だったという結果でした。しかし、来場者アンケートでは、作品や展覧会について「とても良かった」「見応えがあった」という好意的な感想が多く、更に展示方法について「個性ある作品をうまく配置し、ストーリー性を感じた」「展示方法もいろいろで見せ方の勉強になった」など好評を得ました。また、オンラインツアーを行ったことで、福祉施設内で職員や利用者が集まって視聴できたなど展覧会を観る機会の少ない人たちに観てもらえました。研修参加者

から「作品の配置や照明方法など普段の活動ではなかなか経験できない展示にかかわる細かなことを学べて良かった」「ほかの参加者の動きから学ぶことが多く、勉強になった」という感想や、展覧会の改善点や要望など次回に向けての意欲を感じる声も多くありました。参加者一人ひとりの技術や意識が向上することで、ギャラリーや店先、福祉事業所などさまざまな場所で作品が展示される機会が増えることを期待しています。今後も障害のある人の創作活動を支える人材を少しずつでも増やしていきたいと考えています。

# アートセンター集

〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445

TEL 048-290-7355 FAX 048-290-7356 MAIL kobo-syu@marble.ocn.ne.jp URL https://artcenter-syu.com/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 みぬま福祉会

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 19年/2002(平成14)年度より開始

支援実績 モデル事業 /  2014  2015  2016  
本事業 /  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

2009(平成21)年から「埼玉県障害者アートフェスティバル」が継続開催されるなど、県内で障害のある人の芸術文化活動を普及、支援する取り組みが10年以上にも渡って行われています。同アートフェスティバルをきっかけに、県内の福祉施設・事業所によるネットワーク「埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±O(タマッププラマイゼロ)」が2016(平成28)年に設立され、当センターが事務局を担っています。TAMAP±Oでは行政や各分野の専門家と協働しながら展覧会や研修会、ダンスワークショップ、公

演などを実施しており、年々新たな参加施設・事業所が増え、県内各地へとつながりが広がり、連携を強めています。そのなかで、参加施設・事業所から施設運営と並行して利用者の創作活動を継続していく難しさが報告されていました。特に、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により負担が増え、作品発表の場も失われるなか、例年以上に「誰のための、何のための活動なのか」という、障害のある人々を取り巻く支援のあり方を見直す必要性を感じていました。

### 今年度の目標

「埼玉県障害者アート企画展」は、作家にとっては作品を発表することで自己肯定感を育める貴重な機会として、支援員にとっては展覧会に向けた選考会や研修を通して、「誰のための、何のための活動なのか」を学び、考えられる機会として定着しています。展覧会やイベントの中止が相次いだり、感染対策によって人と接する時間が失われたりするなかで、同企画展を開催することにより、新型

コロナウイルス感染症の流行による危機的な状況のなかでも奮闘する県内の作家、支援員を支えることをめざしました。目標達成については、①来場者数が昨年度と同程度の人数(約1700人)であること、②展覧会終了後のアンケートで来場者や各施設から寄せられる声を分析することで、判断することになりました。

### 取り組み内容

毎年、県と協働で「表現活動状況調査(県内の障害者施設などに配布し回収。作家ごとに創作の様子をとりまとめる)」を行った後、美術の専門家や福祉施設・事業所職員が一堂に集まり、フラットに語り合う作品選考会などを経て、展覧会を開催しています。今年度もそのプロセスを大切に、オンラインなども活用して実施。また、コロナ禍という危機的状況下だからこそ、障害のある人々への支援のあり方を見直す機会になればと、作品展示だけでなく、「支援のま

なざしを育む」「みんなで作る展覧会」という支援の在り方を伝えるパネルも展示。「支援のまなざしを育む」では、同企画展の開催までの過程は作家や作品を発掘するだけでなく、現場の支援にもつながっていることを紹介。「みんなで作る展覧会」では、埼玉県ならではの障害のある人々の芸術文化活動にかかわるネットワーク、連携について紹介。その内容を報告書にも掲載し、同企画展に来場・視聴できない人に向けても広く発信しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援							アトリエ見学ツアー ※中止	アトリエ見学ツアー (リモート)	グッズ相談会 アトリエ見学ツアー ※中止	作家による活動紹介 (リモート)	アトリエ見学ツアー ※中止	
人材育成			グッズ研修会						グッズ研修会			権利保護に関するセミナー
関係者のネットワークづくり			ネットワーク定例会									
発表の機会の確保												
情報収集・発信												
事業評価及び成果報告のとりまとめ												



「Coming Art 2020」展覧会名もネットワーク会議で決定

ギャラリートークはオンラインで公開

### 成果の達成度、今後の展望について

来場者数は1043人と、昨年度の来場者数1701人を下回りましたが、同企画展の様子をYouTube配信したところ、視聴者数は計1417回(2021年3月17日現在)と多くの人たちに見ていただくことができました。TAMAP±O参加施設へのアンケート調査では「会場では鑑賞できなかったが、施設内でみんなと視聴し、楽しめた」という声が多かったです。会期中に来場された出展作家からは「作品を見てもらう機会が減少していたなかで、本展の開催が大きな希望になった」という感想がありました。また、TAMAP±Oの定例会や研修会をリモートで行ったところ、参加施設内での人材育成にもつながりました。たとえば、例年は作品選

考会などは代表者のみの参加でしたが、今年度は施設にしながら取り組んでもらえたため、現場職員にも参加してもらえ、研修などの参加者が昨年度84人から130人に増加。多くの支援者にとって支援のあり方を見直す機会になったと考えます。今後の展望として、当センターでは重い障害のある人々を置き去りにしないための支援の土台を構築してきましたが、コロナ禍によって多くの断絶や孤独が生まれた状況下では、中程度の障害や発達障害のある人々の生きづらさ、働きづらさを訴える声を多く聞きました。障害のレベルにかかわらず、取りこぼしてしまっている人々がいないかを今後の課題として検討していきます。

埼玉県「基幹型」センター ※埼玉県では「基幹型=県内で中心的な役割を担うセンター」「特色型=基幹型と連携して、特色ある取り組みを行うセンター」の2カ所を設置

## ART(s)さいほく

〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1532-5 まちこうばGROOVIN'内

TEL 0493-81-4597 FAX 0493-81-4597 MAIL arts\_saihoku@subaru-swc.com URL https://www.subaru-swc.com/~groovin/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 昴

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者文化活動支援歴 2年/2019(令和元)年度より開始

支援実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

## 都道府県内の状況

当センターは2019(令和元)年度より、埼玉県で2カ所目の支援センター(特色型)として開設し、東松山市、比企郡、本庄市、児玉郡、秩父市、日高市、飯能市などの県北西部エリアを中心に障害のある人の芸術文化活動の支援に取り組んでいます。同エリアでは障害のある人の芸術文化活動に取り組んでいる福祉事業所の数や、ニーズがどのくらいあるのかが把握されていないという課題があります。昨年度は福祉事業所や地域住民、行政などと連携して、それぞれの地域の文化財を活用した作品展を開催。また、相談支援事業所と連携して、在宅の作家の創

作支援を行いながら、同エリアでの芸術文化活動の普及を進めてきました。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、多くの福祉事業所では感染防止対策に優先的に取り組まなければならない状況にあり、芸術文化活動も一時縮小した福祉事業所もありました。加えて事業所訪問・見学なども受け入れが難しく、状況把握も困難でした。また、多くの貸スペースが利用休止、地域イベントの開催も自粛されており、企画の準備など予定を立てることが難しく、見通しがもたれなかつたことでの事業開始となりました。

## 今年度の目標

「県北西部エリアで、障害のある人が芸術文化活動に取り組むやすい環境を整備していくこと」を優先目標とし、今年度は次の2点をめざしました。①同エリアで障害のある人の芸術文化活動に取り組む福祉事業所のつながりが確立されておらず、情報交換や研修、発表の機会なども少ない現状があります。そこで、支援者への情報提供とともに、支援人材の育成やスキルアップを目的としたワーク

ショップ(全5回)を開催し、5人以上の新規参加者があることを指標・基準としました。②これまでに相談支援事業所を通じて、在宅の作家などの紹介を受けるケースがあり、在宅の作家がより積極的に芸術文化活動に取り組める支援を相談支援事業所と連携して行ってきたため、支援を必要とする新たな在宅の作家を1人以上発掘し支援することを指標・基準としました。

## 取り組み内容

①「知ろう!障害のある人たちのアートについて」と題したオンラインワークショップを開催。全国や埼玉県内の障害のある人の芸術文化活動の取り組みの紹介や情報交換に加え、参加事業所より作品を持ち寄り、魅力を語り合うなど入門編的な内容にしました。また、地域のギャラリーのオーナーも参加し、専門的な視点からアドバイスをいただきました。②相談支援事業所との連携では、当センターに来所、電

話、メールなどで相談を随時受け付けたほか、当センター併設のアトリエ体験の機会提供や日高市障がい者相談支援センター企画の作品展への協力をしました。同作品展では作者本人が展示作業、当日運営スタッフとしても参加しました。特に広報では、チラシの表紙に、作家それぞれの作品を掲載するスタイルとし、作家本人が同作品展のみならず、自身の作品を積極的にPRできるような工夫をしました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成										人材育成 研修会 ※コロナのため、延期		人材育成 研修会 ※コロナのため、中止
関係者のネット ワークづくり	ワークショップ 企画準備会議	ワークショップ 募集開始		ワーク ショップ	ワークショップ (作品鑑賞ディス カッション)	作品展見学ツアー ※コロナのため、中止			ワークショップ ※コロナのため、 中止			
発表の 機会の確保	作品展企画会議				作品展話し合い (本庄市・各障害福祉 サービス事業所など)		アート セッション in本庄 インスタ ライブ	アート セッション inひき ※コロナの ため、中止				アート セッション inひき ※コロナの ため、中止
情報収集・発信			作品展作品 募集(～10月)	市ケーブルテレビによる活動紹介 ウェブサイト・SNS更新								
事業評価及び 成果報告の とりまとめ												報告書作成



「日高市障がい者創作合同作品展」



在宅の作家と相談支援員と一緒に考えて制作したグッズ(缶バッジ)



ワークショップチラシ

## 成果の達成度、今後の展望について

①ワークショップは感染拡大の影響で開催が難しく、2回開催。芸術文化活動を開始したばかりの福祉事業所が多く、新規参加は4事業所10人以上。作品紹介に熱がこもり、活発な意見交換ができました。その後開催の作品展には苺型の陶芸作品を箱や皿に盛り付けるなど、ワークショップでの学びを活かした展示の工夫がされていました。②相談支援事業所との連携では、在宅の作家が創作の助言を求めて相談支援専門員と来所し、話し合いの結果、グッズ制作・試験販売。そのほか、アトリエ体験や作品展などを通して、9人の新たな作家を発掘。「作品発表で自信がついた」「人の役に立てた」「毎日が楽しくなった」など作家の声も多く聞きました。作品展では、自分の作品

がチラシに掲載されたことで作家が喜び、配布にも力が入ったと聞きました。チラシというと集客重視のデザインや配布数を気にしがちですが、この方法は温かみがあり、手配りで配布範囲が知人に限られた一方、身近な知人が更に知人を誘う輪が広がり、作家も親しい間柄ゆえにリラックスして作品を説明できたようです。この小さな積み重ねが地域での作品展を活性化させると思いました。以上より、障害のある人の芸術文化活動支援は作家のフォロー、創作のモチベーションアップも含む多面的な支援が重要と、支援者と共有できました。今後は地域の多様な人の参加を募る作品展やネットワークで、地域ぐるみで障害のある人の芸術文化活動をサポートしたいと考えています。

埼玉県「特色型」センター ※埼玉県では「基幹型=県内で中心的な役割を担うセンター」「特色型=基幹型と連携して、特色ある取り組みを行うセンター」の2カ所を設置

## 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒270-1431 千葉県白井市根200-37 社会福祉法人フラット内  
TEL 047-404-8188 FAX 047-401-3375 MAIL uminomori@flat.or.jp URL https://uminomori.net/

## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 フラット

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 2年/2019(令和元)年度より開始

支援実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

## 都道府県内の状況

当県には昨年度より支援センターが設置され、当団体は今年度より事業に取り組み始めました。事業開始にあたり、複数の福祉団体にヒアリングをしたところ、県内には先進的な取り組みを行う活動団体があるものの、それぞれが独自で活動しており、関係性が未熟という現状をうかがい知ることができました。情報の共有や知識習得の研修会、単独団体では開催が難しい展覧会などの機会創出をめざすためにも、昨年度構築されたネットワークを

更に強化していく必要があると考えました。また、昨年度の支援センターが実施した障害のある人の芸術文化活動の実情調査からは、障害者の芸術文化活動に取り組みたい意向はあっても、相談する場所や専門職、関係機関がわからないといった意見が挙がっており、障害のある人が芸術文化に触れる機会の逸失、活動の開始や継続、発展に影響を及ぼしている状況が明らかになりました。

## 今年度の目標

①障害者の芸術文化活動に関する相談などを寄せてもらうため、当団体1年目として支援センターの事業や役割などを県内に周知すること、②障害者の芸術文化活動を活性化させるために、現場で活躍できる人材を育成すること、③県内で障害者の芸術文化活動に興味のある団体や個人のネットワークを強化することの3つを目標に掲げ

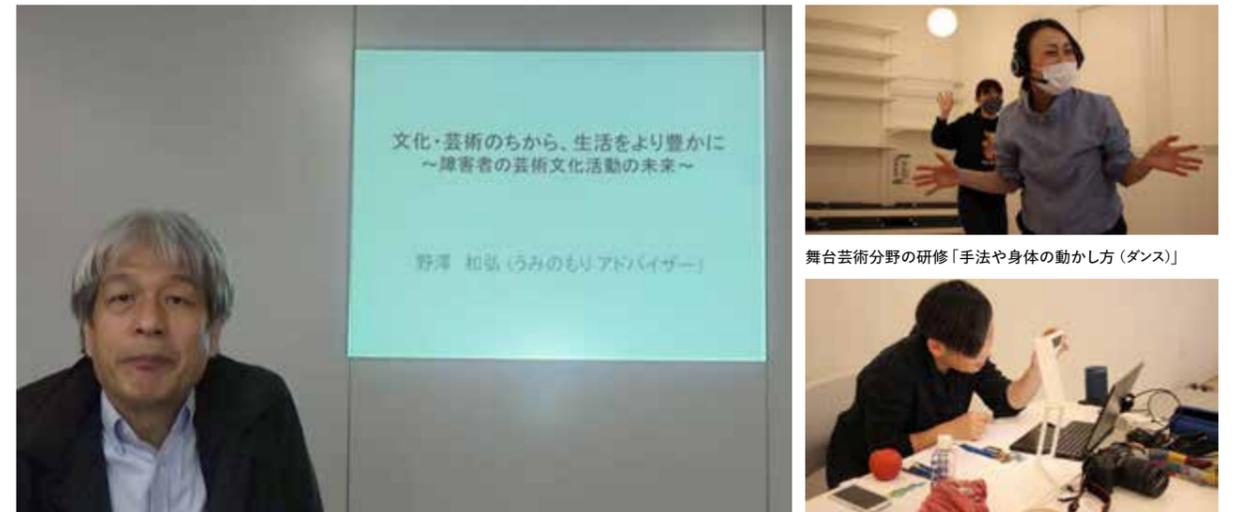
ました。目標達成の指標・基準として、①②YouTube視聴者と講座受講生にアンケートを実施し、内容に対する評価などから分析、③ネットワークの登録者を募り、関係性を継続させることをもって達成できたと判断することにしました。

## 取り組み内容

①当センター開設のキックオフイベントとして、当センターの周知とともに障害者の芸術文化活動を幅広い層の、多くの人たちに知っていただくため、「アール・ブリュットとは/野澤和弘氏(特定非営利活動法人千楽)」「国内の先駆的な活動の紹介/かしわ哲氏(特定非営利活動法人ハイテンション)、小林瑞恵氏(社会福祉法人愛成会)」による講演を、1ヵ月限定でYouTube配信。②アンケート調査の結果から、障害福祉分野で働いていて、芸術文化活動に興味はあって

も取り組んだことがない人や取り組み方法がわからない人を対象とした計6回の基礎講座を開催。内容は美術分野の絵具・紙粘土・デッサン、舞台芸術分野の身体表現・音楽・ダンスで、それぞれの技術や指導方法を学ぶこととしました(Zoomで開催)。③「②」の受講生にネットワークへの参加も呼びかけました。また、県内で障害者の芸術文化活動を行う福祉団体に対しては、活動状況の把握も兼ね、電話と訪問などを通して関係づくりを始めました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成				人材育成講座 (表現の旅に 出発しよう)	人材育成講座 (えのぐとあそぶ いろとひらめく)	人材育成講座 (ねんど de アール 立体作品づくり)	人材育成講座 (福祉と音楽の 可能性)	人材育成講座 (2回/障害者 ダンス指導法、 デッサンから)				
関係者のネットワークづくり				人材育成講座の告知チラシにネットワーク登録者募集を掲載								
発表の機会の確保							ブロック合同展に向けて県内作者への取材 10月14日(水)・15日(木)	ブロック合同展への協力 11月20日(金)~22日(日)				
情報収集・発信	FacebookとInstagramを開設し、情報の発信を行う											
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



キックオフイベントでの特定非営利活動法人千楽 野澤和弘氏の講演

舞台芸術分野の研修「手法や身体の動かし方(ダンス)」

美術分野の研修「物の捉え方(デッサン)」

## 成果の達成度、今後の展望について

①YouTube配信の再生回数は約350回。視聴数としては対面開催と同等の人数に見ただけだと考えます。県内外の多くの人に視聴していただき、「アール・ブリュットについてわからなかったが、知ることができた」「障害者の芸術文化活動の素晴らしさに気づけた」「国内の先駆的な事例を知ることができたので、今後に活かしたい」といった声が寄せられました。一方で、3つの内容を1本にまとめた約2時間という長時間の動画だったため、最初から最後まで視聴されないケースがあり、動画配信では時間や内容を検討する必要があることもわかりました。②全6回の講座の受講生は計43人。Zoomの特徴を活かしてチャット機能で評価をやりとりしたり、自分と他者の作品を画面上で見比べたり、終了後には講師の講評付きの動画を受講者に配信したりしたことにより、学びが

深まったようです。アンケートでは「大変満足・満足」という回答が8割を超えました。ただし、受講生からZoom接続に関する問い合わせが多かったため、今後はフォロー内容を検討する必要があります。③ネットワーク構築に向け、「②」の受講生10人以上が登録。当センターから障害者の芸術文化活動に関する情報をメールで共有し、関係性を継続。また、県内で障害者の芸術文化活動を行う福祉団体とは、情報共有や研修講師依頼、事業所見学、相談者紹介などにつながりました。今後の展望として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの影響を受けるなか、いかに各団体や事業所などに即した人材を育成して取り組みにつなげられるかを模索するとともに、新しい生活様式に則した支援方法を学ぶ機会の必要性も考えています。

# 東京アール・ブリュットサポートセンターRights

〒164-0001 東京都中野区中野5-26-18

TEL 03-5942-7251 FAX 03-5942-7252 MAIL rights@aisei.or.jp URL https://rights-tokyo.com/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 愛成会

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 7年/2014(平成26)年度より開始

支援実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

2014(平成26)年度に障害者の芸術活動支援モデル事業を開始したところから、都内で美術活動を行う福祉施設や団体、個人が福祉関係者以外の人々とつながる機会が増え、障害者の芸術文化活動に関心をもつ人が増えてきました。2017(平成29)年度に開始した本事業では、舞台芸術も対象となったことで、より広くネットワークを築くことになりましたが、音楽や演劇などの舞台芸術活動の事例は多くなく、情報発信や研修を通じた人材の発掘と育成

に取り組む必要がありました。また、都内各所で障害者の芸術文化活動への活発化は見られるものの、福祉施設など限られた場所での活動が多い現状があります。限定的な活動にしないためには地域のなかでの支援体制を整える必要があるため、地域住民をはじめ、これまで障害者と接する機会がなかった人々に働きかけ、ネットワークの拡大につなげることが重要であると考えました。

### 今年度の目標

多様な芸術文化活動を通じた障害者の自立や社会参加が図られるために、地域住民とともに発行の機会を通して地域の人々や場を取り込んだネットワークを築き、研修会などで障害者と地域とのかかわりを考える機会を設けることにより、これまで障害者の芸術文化活動に触れる機会がなかった人々の関心を得ることを目標に掲げています。今年度は特に「地域との実践的なかかわり」をめざしました。目標の達成については、①地域にかか

わる事例を学ぶ研修会を行うこと、②すでにネットワークが構築されている品川と武蔵野の2地域で、更なるネットワークの拡大を図るために、美術・舞台芸術の発表の機会を開催すること、③発表への参加を促すために、地域住民の参加を募る座談会を行い、そのなかで地域住民と一緒に障害者の芸術文化活動を考えること、④発表の機会は日常生活で人々が行き交う場所で行うこと、以上を実行することで達成したと判断することにしました。

### 取り組み内容

①③障害者の自立や社会参加を専門とする研究者や芸術文化活動を取り入れた支援を実践する人々をゲストに、障害者の表現や地域に開いた取り組みなどをテーマにしたオンライン座談会&セミナー(人材育成)を開催。座談会では、意見や質問を伝えられるようにチャット参加できるようにしたほか、ウェブサイト上に設置した掲示板では自由に意見交換を行えるようにもしました。②④品川区内の商店街など3カ所で、障害のある人が行うさまざまな芸術文化活動の映像や写真、作品を展示し、関連した

トークイベントをYouTube配信。トークイベントでは、福祉関係者ではなく、まちづくりやものづくりに携わる2人のゲストを招き、地域と障害のある人の表現が出会うことのできることを考えました。武蔵野エリアについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で開催が難しかったため、同エリアの福祉施設から発信している取り組み事例や市民協働開催の展覧会に携わる人々取材し、ウェブサイトや報告書冊子において紹介しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
相談支援	随時受付						無料法律相談(月1回)※1月以降の無料法律相談は、緊急事態宣言下のため中止						
人材育成							オンラインセミナー①(障害者の表現活動と自立)				オンラインセミナー②(権利保護)	オンラインセミナー③(「二次利用など」の芸術文化活動を通じた社会参加)	
関係者のネットワークづくり				第1回オンライン座談会(障害者の表現の捉え方)	第2回オンライン座談会(地域がかわる障害者の芸術文化活動の実践例)				第3回オンライン座談会(地域と共に行う障害者の芸術文化活動の可能性)				
発表の機会の確保										美術・舞台芸術展覧会&トークイベント 1月14日(木)~17日(日)			
情報収集・発信				障害者の芸術文化活動に関する状況アンケート(都内市区町村対象)							ウェブサイト・SNS更新		
事業評価及び成果報告のとりまとめ											報告書作成		

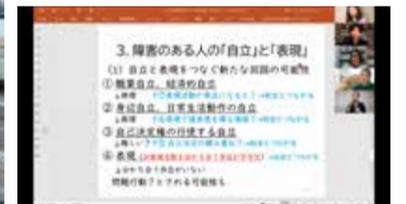
美術・舞台芸術展覧会「まちコロポ〜踊りだす宿場街編〜」(品川地区)※写真左/右上



展示会場の一つ、「旧樹翁軒」(撮影:たかはしじゅんいち)



トークイベント(撮影:たかはしじゅんいち)



オンラインセミナー(人材育成)「障害者の表現活動の可能性〜自立と社会参加の視点から〜」開催風景

### 成果の達成度、今後の展望について

①③座談会&セミナーは、感染防止の観点からオンライン配信したことで、身体的・地理的条件に関係なく、都内の広域から参加がありました。対面とは違い、講師や参加者で交流を深めることは難しかったですが、「まわりの目を気にせず、集中できた」との声もあり、個々で理解を深める機会になったようで、満足度は高かったです。また、「地域にアプローチする方法はさまざまあり、いろんな可能性を見つきたい」「外につながる余力がない。組織的に進めていくには課題がある」のほか、自治体の財源に触れる意見もあるなど多様な立場からの意見が寄せられ、思考を深める機会にもなりました。②④発表の機会については、地元の人々や場、観光団体などに事業への理

解を得ながら、地域住民が行き交う場所で開催したことで、かかわった福祉団体にとって地域での活動の後押しになるとともに、地域住民から「施設などで開催されることの多い展示を商店街で行うことは大変意義深い」「身近な施設の活動を知ることができた」といった声が寄せられるなど、障害者の芸術文化活動への理解・関心を高める機会にもなりました。今年度の取り組みから、相談窓口に寄せられる活動や発表の場を求める声に対し、当センターが障害者と地域とのかかわりを考えることで、地域のなかに障害者の芸術文化活動を広げていく手がかりを創出できると実感できたので、継続していきたいと考えています。

# 神奈川県障がい者芸術文化活動支援センター

〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル208  
 TEL 045-325-0410 FAX 045-325-0414 MAIL info@k-welfare.org URL https://k-welfare.org/



## 実施団体について

**団体名** 認定特定非営利活動法人 STスポット横浜

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 6年/2015(平成27)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
 本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

運営団体であるSTスポット横浜では、2017(平成29)～2019(令和元)年度に神奈川県福祉子どもみらい局福祉部障害福祉課、国際文化観光局文化課と協働し、県内において障がい福祉と、舞台芸術を中心とした芸術文化をつなぐ活動を行ってきました。障害福祉サービス事業所などでの芸術家によるワークショップやアンケート調査、人材育成講座といった取り組みから、障がい福祉分野に

とっての芸術文化活動の意義に関する議論や、現在行われている障がい者の芸術文化活動に対する社会的な認知、障がい福祉と芸術文化の分野をまたいだネットワークの構築、地域にある福祉と芸術文化の資源発掘などが不足しているという課題が見えてきました。これらの課題を引き継ぎ、神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターとしての取り組みを開始しました。

### 今年度の目標

支援センター開設時の大きな目標として、「障がい福祉と芸術文化の分野をまたいだネットワークを構築することで、障がい者が身近な地域で芸術文化に触れる機会が増えること」を掲げました。そのためには、障がい福祉と芸術文化の知見を併せもつ人材が県内各地に増えることが必要と考えています。その大きな目標に向け、今年度は支援センター1年目として「県内における障がい者の芸術

文化活動の現状と課題、ニーズを把握すること」を目標(指標: 相談支援における相談内容や、人材育成における講座やワークショップの参加者に対するアンケート回答から把握できている状態)にし、来年度以降に障がい福祉と芸術文化の知見を併せもつ人材を増やしていくために必要な両分野の現状やニーズ、求められる専門性などの把握、その育成につなげていくことを考えました。

### 取り組み内容

県内における障がい者の芸術文化活動の現状を把握するため、相談支援を通じて障がい者の芸術文化活動に関する課題を聞き取りました。また、障がい福祉と芸術文化の分野をまたいだネットワークの構築のために、ウェブサイトやパンフレット、各事業の実施を通して、障がい福祉団体に対して、当センターや事業の周知、地域の芸術文化に関する情報提供を行いました。芸術文化活動を支援する人材育成では、障がい福祉や芸術文化、教育といっ

た分野をまたいだ内容(地域共生社会や意思決定支援などの制度、福祉施設でのオンラインワークショップの実践、特別支援学校での家族や地域を巻き込んだ取り組み)のオンライン講座や、福祉施設に芸術家を派遣して、ダンスや音楽、美術のワークショップを実施。更に、地域のなかに障がい者の芸術文化活動への理解を広げるため、福祉施設で過去に行ったワークショップの記録写真を展示する写真展を開催しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
相談支援	随時受付									相談会				
人材育成								オンライン講座①(地域の中で芸術文化に触れるために)		福祉施設でのワークショップ実施(全12回)		オンライン講座②(コロナ禍におけるワークショップを考える)		オンライン講座③(障がいのある子どもたちの学びを広げるために)
関係者のネットワークづくり							協力委員会(構成員の紹介)		協力委員会(「10年後の障がい福祉と芸術文化のかかわりに望むこと」から考える支援センターの役割)		協力委員会(次年度の神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターの取り組みについて)			
発表の機会の確保										写真展開催 ①1月15日(金)～17日(日) ②1月27日(水)～29日(金)		オンライン成果報告会(公開日/3月12日[金]～19日[金]) ※今年度事業報告、ゲストによる話題提供		
情報収集・発信								ウェブサイト開設、パンフレット配布		ウェブサイト更新				
事業評価及び成果報告のとりまとめ										報告書作成				



白神ももこ氏による福祉施設「スプラウト」(平塚市)とのオンラインダンスワークショップの様子(撮影:金子愛帆)



又村あおい氏をゲストに迎えた講座はオンラインでの音声配信で実施



写真展では人の気配を感じられる展示の工夫をした(撮影:金子愛帆)

### 成果の達成度、今後の展望について

相談の多くは精神障がい当事者からの発表や交流の機会を求める内容でした。お住まいの地域の文化施設やサークルの情報などを伝えましたが、当センターで蓄積する障がいのある人が参加できる芸術文化活動に関する情報が不足しているという課題を感じました。人材育成のオンライン講座では、「障がいのある人の表現がもつ力に注目している」という障がい福祉関係者からの関心の高さがうかがえ、障がい福祉だけではなく、他分野に渡る内容が求められていることがわかりました。写真展には、普段障がい福祉にかかわりのない人々の来場があり、障がい者の芸術文化活動について広く知らせる機会となりました。以上の通り、今年度は新型コロナウイルス感染症の

感染拡大の影響により、施設訪問や受講者の交流の機会などを設けることが難しかったのですが、各事業を通して障がいのある当事者、障がい福祉・芸術文化関係者などさまざまな立場の人々から関心が向けられていることを感じました。一方で、障がい福祉・芸術文化における障がい者の芸術文化活動の状況については把握しきれていない部分があるので、引き続き状況を見ながら対面やオンラインでの情報収集を行い、ウェブサイトなどで発信したり、各事業を通して情報提供したりすることで、ネットワーク構築に向けて取り組んでいきたいと考えています。

# YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条1237-3  
 TEL 0551-45-7027 FAX 0551-32-6351 MAIL yan@y-meisui.or.jp URL http://y-meisui.or.jp/yan/



## 実施団体について

- 団体名** 社会福祉法人 八ヶ岳名水会
- 団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )
- 障害者芸術文化活動支援歴** 5年/2016(平成28)年度より開始
- 支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
 本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

先駆的な取り組みを行う民間団体による公募展や企画展、コンサートが毎年開催されるほか、福祉施設や精神科デイケアなどで独自に新規で発表の機会を設ける事例が見られ、県内の障害者を支援する人の創作・表現活動への理解や関心の高まりがうかがえます。本事業の企画にも、すでに活発に活動している福祉施設の支援員などに参加していただいておりますが、メンバーが固定化する傾向があります。地域に障害者の芸術文化活動を応援す

る人を増やし、新たなネットワークを構築するため、センターの認知度を高める活動や発信方法の工夫を行う必要性を感じています。また、県内は大きく国中(甲府市周辺)と郡内(都留市や富士吉田市など)という2地域に分けられ、活動が県の中心地である国中に偏る傾向が依然としてあるため、遠方の人にも参加してもらえる活動の仕組みを構築することも課題です。

### 今年度の目標

「障害の有無にかかわらず、地域住民、福祉施設の利用者や支援員が表現の多様性に触れる機会に参加し、芸術文化活動への関心が高まること」を優先的に取り組む成果目標としました。成果の指標・基準を2つ設定。1つは当センターを知らない人や当センターが行う活動に参加したことのない一般の人たち、福祉施設や特別支援学校

などの団体によるイベント参加が昨年度より増え、更に幅広い年齢層や遠方からの参加があること、もう1つは福祉施設での創作活動やアトリエに参加している障害のある人が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で活動を制限されるなか、「表現したい」という強い気持ちを携え、本事業の企画に参加してもらえることです。

### 取り組み内容

コロナ禍でも表現することの楽しさや発表する喜び、鑑賞することのおもしろさを共有すべく、次の2つの取り組みを企画しました。①「願いを込めて絵を描こう だるまプロジェクト」。参加者に、当センターから無地のだるまを送付し、各自で絵付け後に返送してもらい、当センター主催の展覧会内で展示。障害のある人、ない人、大人、子どもなど多くの人の参加を募り、気軽に申し込めるよう参加費を無料にしました。応募用紙には作者の願いが書き込める欄を設け、表現に対する思いをみんなで共有できる

工夫もしました。また、展示の様子は写真に撮ってSNSに投稿することで、来場できない人に向けて発信しました。②地域の人たちとの意見交換会「アートカフェミーティング」(アート支援、権利擁護、商品開発の3テーマ)動画(計3本)と、山梨音楽療法研究会による「音と遊ぼう」、当センターと以前からお付き合いのある作家2人による「世界で一つ笑顔あふれるフードフィギュア～アイス編～」 「幸せを運ぶあったかフェルト」というワークショップ動画(計3本)を制作して配信しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成					ワークショップ 動画2本撮影			ワークショップ 動画1本撮影				ワークショップ 動画公開
関係者のネット ワークづくり									アートカフェ ミーティング 動画2本撮影	アートカフェ ミーティング 動画1本撮影		アートカフェ ミーティング 動画公開
発表の 機会の確保									だるまプロジェクト 募集期間: 12月11日(金) ~2021年2月1日(月)		展覧会 2月6日(土) ~14日(日)	
情報収集・発信									Instagram更新			
事業評価及び 成果報告の とりまとめ											報告書作成 だるまプロジェクト図録作成	



「だるまプロジェクト」展示風景



ワークショップ動画「音と遊ぼう」



アートカフェミーティング撮影風景

### 成果の達成度、今後の展望について

①だるまプロジェクトでは、チラシ配布部数を昨年度より2000部増やして広報したことで問い合わせが1か月に約500件、用意した600体は応募開始から3日で定員に到達しました。コロナ禍で活動が制限されるなかでも表現したい人たちの情熱を絶やさず、創作し、発表する機会を守れました。当センター事業に初参加の福祉施設や特別支援学校もあり、20代以下の若い年齢層も増え、当センターを知ってもらうこともできました。②ワークショップ動画を当センター主催の展覧会内で先行上映したところ、同展アンケートで「印象に残ったもの」として挙がったり、「楽しかった」「興味をもてた」という声が寄せられたり。来場者(930人)が表現に対する興味をよきもつきかけになったと考えます。これから動画に関するチラシを県内外の福祉施設や特別支援学校、病院、企業、一般の人な

ど幅広い層に配布し、広く周知する予定です。以上、絵付けして返送してもらい、SNSや動画を活用するなどの試みにより、参加者から「会場には行けなかったが、作品が並ぶ姿を見て、作品を通してさまざまな人と出会えたと思った」という感想が寄せられたほか、これまで身体的・地理的条件により参加できなかった人たちにも参加してもらえ、参加できずにいる人に参加してもらうためには何が必要かを改めて考える機会にもなりました。今後は今年度構築した「その場に行かなくても参加や鑑賞できる仕組み」に加え、情報保障(手話や音声ガイドなど)に取り組むことで、芸術文化にアクセスしやすい環境を整え、表現の豊かさに出会い、知り、学ぶ機会を地域のなかに創出していきたく考えています。

# 新潟県障害者芸術文化活動支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25-307 社会福祉法人みんなできの内

TEL 025-530-7264 FAX 025-530-7261 MAIL info@niigata-artbrut.net URL https://www.niigata-artbrut.net



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 みんなでき

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 5年/2016(平成28)年度より開始

支援実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

2019(令和元)年度の第19回全国障害者芸術・文化祭で県内の障害のある人の芸術文化活動の実績が増え、芸術文化活動に取り組む団体のネットワークも強化されました。当法人による支援センター事業は3年目となり、顔が見える関係性を構築した団体や個人の支援者(芸術文化活動に取り組んだり関心があったりする福祉団体や保護者など)が増え、県庁所在地の新潟市から130km離れた上越市に拠点がありながら、新潟市でもネットワーク担当のスタッフやパートナー団体と連携した取り組みを行えるよう

なっています。2020(令和2)年度は「障害者の文化芸術フェスティバルin 東海・北陸ブロック」(文化庁主催、当センターが事務局)の開催が決まっており、地域の障害のある人の芸術文化活動への機運が高まっていました。また、2018(平成30)年度から、当センターが事務局となり、障害のある人の芸術文化活動にかかわるメンバーによる実行委員会形式の展覧会を開催しており、継続させるうえで新型コロナウイルス感染症の感染拡大下での開催方法の調整が必要でした。

### 今年度の目標

昨年度の全国障害者芸術・文化祭での実績をもとにしたネットワークを継続し、各地での取り組みを活性化させるため、障害のある人の芸術文化活動を支え、社会に紹介する人材の増加と育成を目標に掲げました。将来的にセンターの規模が縮小しても、各所で中間支援の活動として展覧会を自主的に継続できるようにするためです。めざしたのは、①担い手を増やすために、多様な表現や創作活動の在り方を提案することで、障害のある人の支援者や家族を中心に芸術文化活動の知識を深めていた

くこと、②県内の障害のある当事者や支援者主体の実行委員会で、芸術文化活動を発表・発信すること。同時に、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から集合型の展覧会や研修会は開催しづらいため、コロナ禍でも作品を発表・鑑賞できる機会を提供する方法も模索。目標の達成は、①展覧会や作品発表会の鑑賞者数、②展覧会実行委員会の開催回数や内容、参加者数、振り返り内容から分析することにしました。

### 取り組み内容

①障害のある人がZoomで作品を発表する機会をつくりました。通信環境などが整わない人に向けて、県内2カ所に来場可能な会場も用意。また、作品だけを見せるのではなく、本人や支援者が作品を説明する時間を設けることで、多様な表現や創作活動の在り方を参加者や鑑賞者と共有する機会としました。②2018年度から行う実行委員会形式の展覧会(上越地域)を開催。実行委員は障害当事者や保

護者、福祉施設の支援員で構成し、メンバーを固定化せず、興味・関心のある人が気軽にかかわれるように自由参加制(参加できる時に参加)としました。年間かけて企画から作家探し、地域内でのアドバイザー選定、広報用のチラシ作成、展示プラン作成、当日の会場運営など幅広い業務に携わり、展覧会づくりのノウハウを獲得することで、芸術文化活動の支援を担う人材のスキルアップを行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付										権利保護の事例検討会	
人材育成	展覧会実行委員会(委員の近況を共有)	展覧会実行委員会(展覧会の開催時期の決定、研修会の企画)	展覧会実行委員会(広報・研修会について)	展覧会実行委員会2回(展示研修会、広報について)	展覧会実行委員会(プレ展示/展示相談)	★展覧会	展覧会実行委員会(振り返り)					
関係者のネットワークづくり					グッズ展公募事業(公募開始、別途応募してくれそうな個人や団体へ情報提供)	グッズ展公募事業(10人を選定・作品についての聞き取り、グッズ制作のデザイナーとの相談)	グッズ展公募事業完成・販売会(県内施設へ作品がグッズ化されることをPR)					
発表の機会の確保					オンライン作品発表会 8月7日(金)			★展覧会/作家2人 動画制作・発表 10月30日(金)~ 11月3日(火・祝) 公募グッズ展 11月28日(土)~ 12月13日(日)				
情報収集・発信	ウェブサイト・SNS・Webメディア更新					作家調査(オンライン発表会・発表者)	YouTubeチャンネル開設					
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



展覧会の実行委員会で展示場所について話し合い



展覧会には地域の小学校が団体見学をした



オンライン上の作品発表会「もの」と語り

### 成果の達成度、今後の展望について

①オンライン上の作品発表会は、オンライン発表者9人、会場発表者4人の合計13人(個人10人、福祉施設から3人)、鑑賞者は県内外40人。発表は作文・小説や自宅一部をアトリエにした立体作品、福祉施設で支援員とのコミュニケーションによって生まれた作品など多岐に渡り、昨年度開催の公募展では拾い上げられなかった多様な表現を紹介できました。また、申込用紙や作品発表時の聞き取りによると、障害によって日常的に外出できない環境にある発表者が複数人おり、オンラインだからこそこれまで参加できなかった障害のある人が参加する場づくりができていました。作品発表者のなかには、当センターを

初めて知った人が6人いて、本事業の周知にもつながりました。②展覧会は、出展者20人、鑑賞者数は延べ612人。実行委員会活動では、会議9回、展示期間5日間で実行委員会への参加者数は延べ130人。実行委員が協力し合い、展覧会をつくることで、活動を支援し合えるつながりを強化できました。また、実行委員との振り返りで、「自分たちで広報して600人以上集客できた」という結果が今後の自信につながったと聞きました。以上より、オンライン上の作品発表機会を今後も継続するとともに、展覧会では実行委員会への参加者や支援者を増やすことで、担い手を増やし、育成していきたいと考えています。

# 富山県障害者芸術活動支援センター ばーと◎とやま(BE=ART◎TOYAMA)

〒933-0115 富山県高岡市伏木古府元町2-5 工房ココペリ内  
TEL 070-2643-0796 MAIL beart.toyama@gmail.com URL https://bearttoyam.jimdofree.com/



## 実施団体について

- 団体名** 特定非営利活動法人 障害者アート支援工房ココペリ
- 団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他( )
- 障害者芸術文化活動支援歴** 11年/2010(平成22)年度より開始
- 支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

2019(令和元)年度は、当センターの企画参加者の職種が多様(福祉や教育、医療関係者、デザイナー、工芸家、文化施設職員など)になり、一定の集客を得たなど、障害のある人の表現や支援活動についての関心が広がったことを実感できました。一部の福祉事業所では、事業所以外でのワークショップやグッズ販売に取り組むなど、創作を通して社会とつながる実践的な活動を行っており、その流れを一過性にしない支援が期待されています。一方で、「美術活動に関心はあるが、環境や予算、人材などの課題が多く、取り組めない」という声が多く寄せられていました。

### 今年度の目標

障害のある人がアートを通して地域社会とつながる具体的な仕組みをつくることを目標に掲げました。①当センターの研修会に参加する県内福祉関係者が参加者全体の30%以上に増加すること、②グッズ制作に取り組む研修会「アートコミュ」参加者が実践を通して明らかになった課題の解決に向けて自主的な判断や行動力を発揮で

### 取り組み内容

研修会は、障害者アートを活かしたグッズの企画から販売までを行う仕組みづくりに向けた体験的な学びの場として5回開催。デザイナーをアドバイザーに迎え、「参加者が推薦する作品を活かして個性的なグッズを開発する」「県内外の事業所のネットワークのなかで、作業工程を分担できるようにする」ことに留意しました。その一環で、グッズ制作に取り組む「cotaeネットワーク」を立ち上げ、展覧

そのため、障害者アートへの関心が高い福祉事業所には障害のある人の表現を活かした県内外での作品交流といった複合的な取り組みや社会参加の方策、作品のグッズ化など、作者や事業所への具体的な還元や実践に結びつく取り組みを創出する必要があり、その他の福祉事業所や地域住民には、障害の有無にかかわらず、多様な人々が集まり、アート体験による交流できる場づくりを通して、自由性や多様性を実感する経験を積み上げる機会を創出することが、昨年度からの課題としてありました。

きるようになること、更には開発したグッズを販売する期間限定ショップを開設すること、③ワークショップ「誰でも創作体験!まぜまぜワークショップ」で、障害の有無にかかわらず多様な人々が運営、参加、両方で活動できる場の創出を実現することをもって、目標が達成されたと判断することにしました。

会の会場に特設ショップを開設して販売。ワークショップでは、会場を地域の大型ショッピングモールに設定。さをり織体験、廃物を利用した再生アート体験、発砲スチロールによる牛の置物づくり、麻縄飾りづくり、妖怪のくたべのオブジェの共同制作という、福祉事業所やアーティストが行う5つのワークショップと、展覧会「あるがままの表現展」「高岡工芸高校デザイン部作品展」を開催しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成				アートコミュ「誰でも創作体験!」(くたべを作ろう!)	アートコミュ「誰でも創作体験!」(紙口ポットって何?)	アートコミュ「誰でも創作体験!」(再生アートにチャレンジ!)			アートイベント「誰でも創作体験!」(まぜまぜワークショップ)			高岡市小学校巡回展・特別授業 3月12日(金)・22日(月)
関係者のネットワークづくり						アートコミュ「障害者の表現を市場に1」(cotae提案および県外の実践例を参考に意見交換)	アートコミュ「障害者の表現を市場に2」(製品企画案のプレゼンと情報交換)	アートコミュ「障害者の表現を市場に3」(グループ分け製品企画検討)	アートコミュ「障害者の表現を市場に4」(試作品検討)	アートコミュ「障害者の表現を市場に5」(模擬店舗仮設置によるディスプレイなどについて意見交換、納品)		cotae特設ショップ運営
発表の機会の確保	オンライン展覧会「ういずころな富山の霊獣くたべ展」 4月1日(水)から公募告知、6月~8月末まで順次公開、現在もウェブ上で公開中								障害者週間展「誰でもちごてみないが」 12月3日(木)~11日(金)		展覧会「beのコトと人この美 Art session in Nanto」 3月6日(土)~5月9日(日)	
情報収集・発信	アート・バンク(寄付金や画材募集)の周知											
	ウェブサイト・SNS更新											
事業評価及び成果報告のとりまとめ									事業成果及び参加者アンケートのとりまとめ		報告書作成	



cotae ネットワークイメージ図



アートイベント「誰でも創作体験!」(まぜまぜワークショップ)会場

研修会「アートコミュ/障害者の表現を市場に2」

## 成果の達成度、今後の展望について

研修会では、アドバイザーと当センタースタッフ、保護者、福祉や美術関係者など計22人が参加し、9種ものグッズを開発。二次利用を依頼した障害のある作家は20人。福祉関係者にとって刺激的な交流の機会にもなったようで、毎回の活発な意見交換に留まらず、自発的に連絡を取り合い、グッズ制作を推し進める場面が多々見られました。また、グッズ制作方法として、業者や福祉事業所発注、参加者の手づくりなどさまざまな方法を試したことで、参加者がそれぞれの事業所で活かせるスキル(アート、部品づくり、組み立て、梱包など)を蓄積できました。ワークショップは感染予防などに関連して数十人の参加を見込んでいましたが、当日は鑑賞者を含め100人を超す入場者数。福祉イベントのなかには関係者の内輪的な盛り上がり

なっているものがあり、その他の人にとって参加しづらい状況があると感じてきましたが、アートを媒介としたワークショップなら多様な人々が集う場づくりに有用であることがわかりました。参加事業所からは、地域住民と一緒にワークショップに参加したり、利用者が講師になったりなど、今までと異なる形で社会につながれたうえ、そのことが自信にもなったとの声を多くいただき、今後のそれぞれの取り組みへの展開が期待できます。目標としていた県内福祉関係者の参加率も概ね達成できたので、来年度も作品の魅力発信や相談、発掘と併せて上記の取り組みをより推進・展開し、ソーシャルデザインとして障害のある人のアートを活用していきたいと考えています。

## 文化・芸術活動支援センターかける

〒920-1346 石川県金沢市三小牛町イ3-2

TEL 080-7484-9349 FAX 076-287-0886 MAIL po0po0.kakeru@m.email.ne.jp URL https://r.goope.jp/po0po0-kakeru



### 実施団体について

**団体名** 特定非営利活動法人 地域支援センターポレポレ

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 4年/2017(平成29)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

障害者支援施設が創作活動などを行うなかで直面している施設単独での解決が難しい悩みや課題を相談したり、日々の創作活動に有益な知識などを共有したりできるネットワークを、2019(令和元)年度設立の当センターを中心に構築してきました。その取り組みのなかで、利用者の作品を一般の人たちに見てもらいたいと考えながらも、展覧会を開催するノウハウがないので難しいと感じている障害者支援施設があることがわかってきました。また、

「施設で創作活動を行うために、何から手をつければいいのかわからない」といった声も聞かれました。そういった声に対応すべく、創作活動や展覧会開催に向けての支援の必要がありました。2023(令和5)年度には、第23回全国障害者芸術・文化祭が本県で開催されます。そこに向け、県民に広く、障害のある人の文化芸術活動に触れたり知ったりしてもらおう機会を創出することで、機運醸成につなげることも考えていました。

### 今年度の目標

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、人との接触を減らすことが求められたことなどから、対面での情報交換が難しくなったため、対面以外の方法も含めた情報交換会を開催することにより、施設間のネットワークを維持できる方法を構築します。また、施設単独ではノウハウがないために展覧会の開催が難しいと感じている障害者支援施設に対し、当センターのサポートによって展覧会が開催できるようになることをめざします。そうやって各地で展覧会

を開催していくことにより、施設などでの創作活動を促進するとともに、県内全体で作品を見てもらおう機会を増やし、多くの県民に障害のある人の文化芸術活動について知ってもらうことで、全国障害者芸術・文化祭開催に向けた機運醸成にもつなげます。目標達成の指標・基準として、①情報交換会は昨年度開催数の3回以上、②展覧会は当センター主催で1回以上、当センターのサポートによる障害者支援施設の展覧会を3回以上開催することとしました。

### 取り組み内容

情報交換会は、県内全域の障害者支援施設などに、参加を呼びかけました。対面での参加が困難な障害者支援施設も参加できるように、オンライン会議に必要なカメラや集音マイクなどの機材を当センターに導入し、対面とオンラインのハイブリッド型の情報交換会を2020(令和2)年9月から2021(令和3)年1月までの間に月1回開催。テーマは作品の著作権や鑑賞(障害のある人が展覧会を鑑賞する機会の確保や事前準備、鑑賞支援)など参加者からの要

望に基づき、設定しました。また、オンラインに慣れていない障害者支援施設の環境整備などのサポートも行いました。展覧会は、当センター主催のほか、障害者支援施設から開催希望が寄せられ、当センターがサポートする形で2020年11月に開催しました。展覧会の会場選定や手配、周知用ポスター作成、展覧会のコンセプト・展示レイアウトの決定、展示作業など、開催まで半年ほど伴走しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成						情報交換会① (今年度の活動について)	情報交換会② (著作権について①)	情報交換会③ (鑑賞からの気づきについて)	情報交換会④ (著作権について②)	情報交換会⑤ (著作権について③)		
関係者のネットワークづくり	企画会議(月1回/事業の進捗報告、報告内容についての検討を随時実施)											
発表の機会の確保							展覧会 「てまえみそ2」 10月8日(木) ~10日(土)	当センターが開催 サポートをした障害者 支援施設の展覧会 11月13日(金)・14日(土)				展覧会 「『障がい者 アート』と呼んだ 途端に見えなく なるもの」展 3月19日(金) ~23日(火)
情報収集・発信	ウェブサイト更新											
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



当センター主催展覧会「てまえみそ2」展の様子。右上はチラシ



県内と東海・北陸ブロック内の作品を展示する「『障がい者アート』と呼んだ途端に見えなくなるもの」展の様子

### 成果の達成度、今後の展望について

情報交換会は、昨年度開催回数の3回を上回り、5回開催できました。コロナ禍で集まること自体が困難になった状況下で、昨年度と同等以上に集まる機会を設けられたため、ネットワークを維持できたと考えます。一方で、1回あたりの参加人数が平均4人程度と、昨年度の平均13人程度を下回りました。コロナ禍であったとはいえ、施設のイベントと被るなどしていた要因も考えられるため、開催のタイミングを検討するなど、来年度は参加人数を増やす工夫を行います。また、展覧会は当センター主催で2回、当センターのサポートによる展覧会はコロナ禍により、1回のみ実現。来年度は、オンライン開催とのハイブリッド

型にするなどにより、複数地域で展覧会を開催し、県内各地で作品展示の機会を増やすことをめざします。県内各地で展覧会開催の機会が増えることにより、多くの県民が障害のある人の作品に触れる機会を創出するとともに、県民の障害のある人の文化芸術活動への理解を促進し、引き続き、2023年度開催の第23回全国障害者芸術・文化祭に向けた機運醸成につなげていきたいと考えています。また、創作活動や展覧会開催といった県内の障害者支援施設のニーズに対応した取り組みを継続していきます。

# 岐阜県障がい者芸術文化支援センター (TASCぎふ)

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ内  
 TEL 058-233-5377 FAX 058-233-5811 MAIL tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp URL https://tascgifu.com



## 実施団体について

**団体名** 公益財団法人 岐阜県教育文化財団

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 6年 / 2015(平成27)年度より開始

**支援センター実績** モデル事業 /  2014  2015  2016  
 本事業 /  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

当センターを開設した2018(平成30)年度に、福祉事業所を対象に実施したアンケート結果から、芸術文化活動に取り組む福祉事業所や障がい者が少ないことを把握。開設から2年が経過するなか、障がい者の芸術文化活動の拠点である「ぎふ清流文化プラザ」(岐阜市、当法人運営)で開催する展覧会や研修などを通して、芸術文化活動に興味・関心を持ち、創作活動や作品を活用したグッズ化などをめざす障がい者や福祉事業所、支援者が増えてきました。しかし、その多くが岐阜市を中心とした地域に限

られ、同市から離れた地域では、情報共有や発表の場などが少ないため、障がい者の芸術文化活動の魅力が伝わりにくく、興味・関心をもつ支援者や自主的に芸術文化活動に取り組む福祉事業所などが少ない状況にあります。そのほか、グッズ化などに向けての権利保護の問題、美術分野に比べて活動の割合が少ない舞台芸術分野、各地に点在する芸術文化活動を行う障がい者や支援者との連携など、県下5圏域(飛騨・西濃・東濃・岐阜・中濃)それぞれにさまざまな課題がありました。

### 今年度の目標

県下5圏域それぞれの地域に根差した芸術文化活動を支援することを目標として、以下の4つの活動に優先的に取り組み、それぞれに目標達成を図る指標を定めました。  
 ①各圏域で障がい者の作品発表の機会を創出(指標:展覧会を各圏域1回以上開催)、②県内の障がい者による芸術文化活動の現状を把握(指標:アンケート調査を1回以上実

施)、③障がい者の芸術文化活動(特に舞台芸術分野)に携わる支援者の必要な知識やスキルを向上(指標:研修会などを3回以上開催)、④東海・北陸ブロックのネットワークを活用した取り組みを強化(指標:ブロック連携事業に5回以上参加)。

### 取り組み内容

①福祉事業所や支援者と連携し、地域性を活かして、各圏域で企画や展示内容も異なる作品展を開催。②県内の市町村や福祉施設など約1350カ所を対象に、障がい者の芸術文化活動への取り組み状況に関するアンケート調査を実施。③地域で芸術文化活動に取り組む団体の事例を紹介する講演会、障がい者の舞台鑑賞にかかわ

る環境づくりを学ぶ鑑賞支援コーディネーター育成講座、展覧会の企画・展示方法を学ぶ研修など、計8回の研修会を各圏域で開催。④東海・北陸ブロックの会議・研修に全10回参加。他県開催のブロック合同作品展では、調査などで把握した県内作家7人を5回紹介し、出展につなげました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成			オンライン鑑賞研修「テレ美チャット」(鑑賞/美術)	展覧会企画研修(企画展/美術)			オンライン鑑賞研修「ラ美術」(鑑賞/美術)	鑑賞支援講座基礎講座(舞台芸術)			鑑賞支援講座実践講座(映画体験/舞台芸術)	
	オープンアトリエ・オンラインオープンアトリエを開始 会場開催:10回、オンライン開催:21回(うち同時開催8回)											
関係者のネットワークづくり			ブロック連絡会議参加(全10回)					協力委員会開催				
							県外出展(愛知県)	県外出展(新潟県)			県外出展(愛知県)	県外出展(富山県)
												県外出展(石川県)
							可児市公共施設との連携事業「いろんなみんなのアート展」(3カ月毎展示替え)					
発表の機会の確保			オープンアトリエ作品展 6月6日(土)~7月26日(日)	妖怪アマビエ降臨展 8月1日(土)~9月23日(水) ※ウェブサイト上でも6月1日(月)~12月31日(木)に開催	妖獣アマビエ降臨展 8月1日(土)~9月23日(水) ※ウェブサイト上でも6月1日(月)~12月31日(木)に開催	TASCぎふコラボ展vol.6「そうぞうのパッケージ」 10月8日(木)~25日(日)	tomoniアートサポート プレゼンツ企画展「まぜこぜアートサファリ」11月7日(土)~29日(日)	音楽座ぎふ プレゼンツ「第5回清流ふれ愛コンサート」 12月6日(日)	第6回特別支援学校アート展 ~のりもの~ 1月23日(土)~2月23日(火・祝)			
			ウェブオープンアトリエ作品展 (4月25日[土]~12月31日[木])	桑原良恵&山中映也ピアノコンサート 7月4日(土)	はびりすプレゼンツ オンライン×オフライン みんなでつくるWA? 8月4日(火)~23日(日) ※岐阜市	障害者芸術・文化祭サテライト開催事業「いろんなみんなの展覧会 種を、まく。」 10月8日(木)~11日(日)	いろんなみんなの展覧会巡回展「空想生物展」※瑞浪市 11月10日(火)~23日(月・祝)「多よな有りよう展2020」※大垣市 11月25日(水)~12月20日(日)		アウトリーチ作品展「風の景」※岐阜市 2021年1月16日(土)~31日(日)「ある人の世界へ」※郡上市 2月13日(土)~23日(火・祝)			
			毎月1人展示「私のいってん!」(新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度10人)									
情報収集・発信	You Tubeチャンネル開設						いろんなみんなの展覧会特設サイト設置			県内福祉事業所、自治体などへのアンケート調査		TASC通信特別版作成
	ウェブサイトで情報発信											
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成
												事業評価及び成果報告のとりまとめ



地域と連携して開催したアウトリーチ作品展



鑑賞支援に関する基礎研修の様子



ブロック連携作品展(愛知県での開催)の会場風景

### 成果の達成度、今後の展望について

①県下5圏域で展覧会を1回以上開催し、40人以上の作家に発表の機会を提供。多くの来場者があり、作家や福祉事業所の創作意欲の向上につながり、ギャラリー、銀行、カフェでの展示を通じ、地域住民が障がい者の芸術文化に触れる機会にもなりました。作家と企業がつながり、作品利用や出展など徐々に広がりを見せています。  
 ②アンケートは回収率44.3%(555カ所)。2018年度のアンケートでは「芸術文化が障がい者にとって何の役に立つのか?」という意見が聞かれましたが、今回のアンケートでは「生活の向上や広い意味での自立につながる」という意見があり、変化が感じられました。音楽など舞台芸術活動を行う福祉事業所も多く、舞台発表の機会を望む声も把握。③各研修では福祉関係者が参加者全体の3

割参加。研修生が「①」の展覧会に参画した際、学んだノウハウを他事業所に共有するなど、作品を取り扱う姿勢に変化が見られ、学びが実践につながっています。舞台芸術分野の研修では、参加した障がい者団体が学びを活かして音楽会を主催。④ブロック内の情報交換により、作品のグッズ化にかかわる権利保護の相談解決に必要な情報を得て対応できました。県内作家を県外の作品展で紹介したことで作家の発表の場を増やし、認知度を高めることができました。今後は、2024(令和6)年度に岐阜県で開催予定の全国障害者芸術・文化祭に向け、芸術文化を通して地域の支援者や自治体、企業との連携を具体化し、地域共生社会の実現に向けての認識を向上させていきたいと考えています。

# 静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと

〒420-0031 静岡県静岡市葵区呉服町2-1-5 5風来館4階  
TEL 054-251-3520 FAX 054-251-3516 MAIL info@mirart-shizuoka.com URL https://mirart-shizuoka.com/



## 実施団体について

**団体名** 認定特定非営利活動法人 オールしずおかベストコミュニティ

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者文化活動支援歴** 3年/2018(平成30)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

静岡県は東西に長く、地域によって支援に差があります。地域に根差した支援を行うため、2019(令和元)年度から中部地区に加え、東部と西部に拠点を開設して3拠点体制で支援に取り組んできましたが、半島部や山間部など地理的な要因から十分な支援を行うことができていない地域がありました。また、県内には先駆的な取り組みを行う福祉事業所がある一方で、人手不足などさまざまな要

因により、活動を始めたり、充実させたりすることが難しい福祉事業所もあります。情報交換やオープンアトリエ、ワークショップなどを通じて、活動環境を整えていく必要があると考えていました。ただし、事業開始当初は新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言下であり、夏以降からイベントなどが再開されていきましたが、状況を見ながら慎重に取り組む必要もありました。

### 今年度の目標

3拠点がそれぞれ障害福祉サービス事業所や特別支援学校、関係団体などを積極的に訪問し、広域的な支援体制づくりをめざしました。相談や研修会、展覧会、オープンアトリエ、ワークショップなどの開催によってネットワークを構築し、専門的な知識を学び活かすために文化芸術活動に携わる専門家も巻き込んだ活動を展開することとしました。目標達成の指標・基準として、障害福祉サー

ビス事業所や特別支援学校、関係団体などへの訪問回数を550回、「みらーとWEB美術館」アクセス数1000回、ファッションショーの動画視聴数1000回、オープンアトリエやワークショップを8圏域(障害福祉圏域)で各1回以上開催することを設定し、各地域に障害のある人の文化芸術活動や支援活動の情報を発信していくこととしました。

### 取り組み内容

各地域で障害福祉サービス事業所や企業などと連携・協力し、展覧会や研修会などを開催しました。また、支援活動を充実させるために、障害福祉サービス事業所や特別支援学校、関係団体などへの訪問調査を実施。県健康福祉部障害者支援局発行の事業所名鑑を主に参照し、事前にアポを取ってから訪問しました。更に、当センターの取り組みに関する情報を、ウェブサイトやSNS、メーリングリストを活用して、広く発信しました。今年度の前半は、コ

ロナ禍でリアルなイベントが開催できなかったため、当センターのウェブサイトに発表の場として「みらーとWEB美術館」を開設。作者の創作環境なども併せて掲載するなど、インターネット上ならではの展示になるように工夫しました。また、当センターの周年イベントとして、障害のある人がモデルを務めるファッションショーも無観客でオンライン配信しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成								支援人材育成 セミナー	著作権 セミナー		アート活用 セミナー	
関係者のネット ワークづくり				協力委員会 (活動報告、コ ロナ禍でのイ ベント開催方法)			協力委員会 (活動報告、 今後の計画)				協力委員会 (活動報告、 今年度事業 評価)	
発表の 機会の確保					WEB 美術館 開設 8月5日 (水) 舞台芸術 ワーク ショップ 8月23日 (日)	舞台芸術 ワーク ショップ 9月6日(日) ファッショ ンショー 9月27日(日) オープン アトリエ 9月12日 (土)・ 18日(金)	西部地区 展覧会 10月1日(木) ~30日(金) オープン アトリエ 10月2日(金)・ 20日(火) ワーク ショップ 10月5日(月)・ 26日(月)	西部地区展覧会 11月2日(月) ~30日(月) オープンアトリエ (5回) 11月7日(土)・ 9日(月)・18日(水)・ 27日(金)・30日(月) 東部地区展覧会 11月20日(金) ~25日(水)	ワーク ショップ 12月14日 (月)	オープン アトリエ 1月22日 (金)	ワーク ショップ 2月8日(月) 中部地区 展覧会 2月26日(金) ~28日(日) 舞台発表会 2月28日(日)	オープン アトリエ 3月5日(金) ワーク ショップ 3月7日(日) 西部地区 展覧会 3月13日(土) ~15日(月)
情報収集・発信	訪問調査(作品調査、発掘) ウェブサイト・SNS更新											
事業評価及び 成果報告の とりまとめ												報告書作成



ファッションショーの様子



展覧会の様子



オープンアトリエの様子

## 成果の達成度、今後の展望について

今年度3拠点の担当者が障害福祉サービス事業所や特別支援学校、関係団体などへ計626回訪問調査(1事業所複数訪問も含む、月平均訪問回数56回程度)などを行い、当センターの活動の周知、文化芸術活動の取り組み状況の調査、情報交換、作品調査、発掘を行うことができました。特に、訪問調査で、作品の著作権にかかわる相談を多く受けたため、弁護士を講師に招いて研修を行うなど各地で必要とされる支援に即対応。事例や現在抱えている案件などをQ&A形式で実施し、より実践的な研修を行うことができました。オープンアトリエやワークショップは8圏域で各1回以上開催し、これまで支援が届いていなかった地域にも当センターの活動を知ってもらうことがで

きたと考えています。「みらーとWEB美術館」には3553回のアクセス、ファッションショーには1405回の視聴。インターネットを活用することで、時間、場所、資金、障害特性にとらわれない、新しい支援の仕方の可能性を認識しました。今後は、障害のある人の文化芸術活動を広く県民に知っていただく機会と併せて、地域住民が自由に参加できる機会もつくり、お互いを知り、理解を促進することにより、いい相互関係を構築し、共生社会の道筋になる活動を行ってまいります。コロナ禍で自由にコミュニケーションが取りづらい状況ですが、さまざまなコミュニケーションの方法を模索し、障害のある人の文化芸術活動を支援します。

# Aichi Artbrut Network Center (AANC)

〒443-0021 愛知県蒲郡市三谷町須田10-68

TEL 0533-66-6228 FAX 0533-66-6229 MAIL aanc@rakusho.info URL https://aanc.jp/



## 実施団体について

**団体名** 特定非営利活動法人 楽笑

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 4年/2017(平成29)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
 本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県の障害者の芸術文化活動は、山本良比古氏(聴覚・言語・知的障害のある画家)をはじめ、障害のある作家の活躍など50年以上の長い歴史があり、2016(平成28)年の第16回全国障害者芸術・文化祭を契機に、芸術文化活動を取り入れる福祉事業所が増えつつあり、広がってきています。本事業3年間の取り組みから、県内の障害者の芸術文化活動を行う福祉事業所の状態を分析し、「共同学習期=活動に取り組む意思がある」「事業展開期=イベント(展覧会、舞台発表)の経験がある」「事業成長期=独自にイベントを行うノウハウがある」「多機能発展期=他団体

との協働ノウハウがあり、公益的な事業も展開できる」の4段階に定義づけました。現状、本県は「県が主管するあいちアール・ブリュットポータルサイトやパートナーシップ事業を活用して、自立して単独の発表を仕掛ける福祉事業所と作家」(事業成長期)が多く、「主要産業の製造業や観光業とタイアップした展覧会やグッズ開発など地域の特性を活かした独自の取り組みを行う地域」(多機能発展期)です。半面、「今から活動に取り組む福祉事業所」(共同学習期)や「協力を必要とする福祉事業所」(事業展開期)との温度差があります。

### 今年度の目標

県全体での障害者の芸術文化活動をより推進するために、「福祉事業所が組織・事業として、自立した障害者の芸術文化活動に取り組めるようになること」を目標としました。目標達成を判断する指標・基準として、共同学習期(=今から活動に取り組もうとする福祉事業所)や事業展開期

(=協力を必要とする福祉事業所)にあたる福祉事業所や芸術関係者、企業関係者からの「発表の場を設けたい、広げたい」というニーズに対して側面支援という形でかわり、各地で自立した活動の場や発表の場が3カ所増えることを設定しました。

### 取り組み内容

共同学習期や事業展開期にある福祉事業所からの相談では、「何のために行うのか」という組織内の合意とミッション共有でつまづいているケースが多くありました。そこで、「展覧会を開催したい」「障害者アートにかかわる何かをしたい」という相談を受けた7つの福祉事業所に出向き、「展覧会を開催したい」などそれぞれの目的に向けて現在どのような状態にあるのかを聞き取り、実現に向けて何が必要なのかを見極めるところからスタート。そのうえ

で、当センターとして、組織内の合意形成のフォロー、理念や展示方法を含めた研修の実施、企画立案のフォローをするほか、行政や地域との関係づくりもめざして展覧会実行委員会を立ち上げ、ハンズオン(体験学習)形式で支援しました。更なる発展を希望する福祉事業所には、青少年育成やまちづくりを行う団体、商工経済団体などの他分野を紹介し、連携事業の提案やマッチングを行うことで、担い手の輪が広がるようなコーディネートを行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成							障害者舞台芸術introduction「大ナゴヤ大学」(障害者舞台芸術とは? 障害者美術芸術とは?)		日本福祉大学オンラインセミナー「障害者アートと呼ばれる世界について」			
関係者のネットワークづくり	おてらmeetsフェスティバルzoommt① 舞台芸術zoommt 美術芸術実行委員会	大ナゴヤ大学zoommt	おてらmeetsフェスティバルzoommt② あま市常設展示実行委員会①	日本福祉大学セミナー実行委員会① あま市常設展示実行委員会② 学生ボラmt		あま市常設展実行委員会③	半田ミーツカモンfes実行委員会①	三河アートセンターイベント実行委員会①	おてらmeetsフェスティバル振返mt 安藤昇個展実行委員会①	ベンチアート実行委員会① 安藤昇個展実行委員会②	ベンチアートプロジェクト② アールブリュットつじ祭実行委員会①	ベンチアートプロジェクト③ アールブリュットつじ祭実行委員会②
MTGと委員会の各回では、目的と手法(事業内容)の合意形成、役割分担とスケジュールの確認を議題に入れている												
発表の機会の確保							おてらmeetsフェスティバル2nd 10月23日(金)~25日(日)	オンライン展覧会 11月1日(日)~30日(月) あま市常設展 11月11日(水)~30日(月)		安藤昇個展 1月22日(金)~24日(日)		
情報収集・発信 <small>※県内訪問/福祉事業所などでは「活動内容・頻度、課題の調査、作家や作品の情報収集」、ギャラリーや展覧会企画者には「作家や作品の情報提供」。</small>		県内オンライン訪問(3事業所)	県内オンライン訪問(1事業所) 県内訪問(2事業所)			YouTubeチャンネル開設 制作風景撮影 県内訪問(3事業所)	県内訪問(2事業所)		県内訪問(2事業所)		県内訪問(3事業所) 県内訪問(特別支援学校2校)	県内福祉事業所向けアンケートの実施
事業評価及び成果報告のとりまとめ											報告書作成	



「おてらmeetsフェスティバル2nd」舞台「わっぱちんどん隊」



「おてらmeetsフェスティバル2nd」大ナゴヤ大学「障害者舞台芸術introduction」



展覧会「安藤昇の世界」

### 成果の達成度、今後の展望について

訪問した7つの福祉事業所のうち3事業所で、定期的な自立した活動や発表の場を増やすことができました。残りの4事業所では、一時的な合同展覧会の開催や来年度に向けての準備に取り組むなどはできたものの、定期的な場の創出や今年度実施にはつながりませんでした。3つの事業所では早速、来年度の展覧会に向けた実行委員会が立ち上がり、具体的な日時が決まるぐらい活発な議論がされ始めるなど、当センターがスケジュールなどを示さなくても、自らが進んで活動を行ったり他事業所に働きかけたりするという、主体性の醸成につながりました。成果が出た理由として、アセスメントと組織内の合意形成、理念の共有を丁寧に行った結果であると考えます。しかしながら、「商品化したい」「コロナ禍のために作業がないか

ら、アートに取り組みたい」という作品ありきの相談も多くあった1年でもあり、アートがひとり歩きしているようにも受け取れる状況に、違和感を抱きました。障害のある人が本来もっている才能や感性、表現力を拾い上げることで、「～しなさい」という指導型の支援から「～もいいよね」という多様性を認める支援になり、そのことが障害のある人が暮らしやすい地域をつくる一助になるという、障害者の芸術文化活動の趣旨を改めて広く伝えていく必要性を感じました。今後の展望として、県と連携しながら、県が主催するサービス管理責任者研修や相談支援専門員研修のカリキュラムに、障害者の芸術文化活動の理念について組み込んでいただくように働きかけ、障害者がもつ才能を活かす支援現場の創造につなげていきたいと思います。

## 三重県障がい者芸術文化活動支援センター

〒514-0113 三重県津市一身田大古曾670-2

TEL 059-232-6803 FAX 059-231-7182 MAIL suishin.c@mie-kensinren.or.jp

### 実施団体について

団体名 公益社団法人 三重県障害者団体連合会

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 1年/2020(令和2)年度より開始

支援センター実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

2012(平成24)年度から「三重県障がい者芸術文化祭」を年1回、開催しています。同芸術文化祭は、県内を巡回開催し、各地の障がい者団体、特別支援学校関係者、行政機関、文化振興団体などさまざまな団体と協力する実行委員会方式で取り組んでいます。そういった開催形式・方法によって、各地で障がい者が芸術文化活動に取り組み、発表する機会を創出するとともに、その過程において障がい者や支援者のネットワークの構築、作家やパフォーマーの情報把握につなげてきました。2020(令和

2)年で初開催から8年が経ち、県内の障がい者の芸術文化活動への取り組みは活発化しつつあり、同芸術文化祭の出展者数は年々増加しています。一方で、来場者数は横ばい状態で、県民からの認知度が低いという課題がありました。そこで、同芸術文化祭の「芸術文化活動を通じた障がい者の社会参加の促進」「障がい者の多様な活躍の場を各地に広げる」という目的をより推進し、認知度を高めるため、本事業の支援センターを設置しました。

### 今年度の目標

優先的に取り組んだ成果目標は「障がい者の発表の機会をつくることで、作品の創造や交流の機会の増加につながり、障がい者の芸術文化活動に対する県民の認知が高まること」。継続開催してきた「三重県障がい者芸術文化祭」のつながりを活かした事業展開を検討することにしました。その際、「同芸術文化祭に多くの団体(障がい者団体、特別支援学校、文化振興団体など)に参画してもらうこと」をもって、目標を達成できたと判断したいと考えま

した。それを実現できれば、絵画や写真のほか、書道・陶芸・手芸・工芸・貼り絵・デジタルアート・俳句といった多岐に渡る美術作品の出展、音楽・演劇などの舞台発表につながることを期待できます。併せて、各団体のつながりから来場などいただく地域住民がいるため、かかわってもらう団体が増えるほどに、障がい者の芸術文化活動を応援してくれる人数も増えます。

### 取り組み内容

「三重県障がい者芸術文化祭」は例年、作品展とステージ発表の2部構成で2日間開催します。今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防として、会場では作品展のみ開催しました。来場者の事前予約制(1グループ10人)、体調チェック、観覧時間の指定、順路の固定(一方通行)、入退場時間の管理を行い、また作品の搬入・搬出も各自に時間設定し、密を避けました。来場できない人に向け

て、動画での会場の様子や作品、表彰者、ステージ発表者の動画をウェブサイトに掲載して発信するほか、会場の様子や作品を撮影した動画を収めたDVDを作成して特別支援学校や障がい者施設などに配布しました。実行委員会は、開催地の松阪市の障がい者団体、特別支援学校関係者、障がい者支援団体、行政機関、文化振興団体などに広く声をかけて組織しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援												随時受付
人材育成												アートサポーター募集・相談支援の案内などのチラシ配布
関係者のネットワークづくり			芸術文化祭実行委員会(コロナ禍での開催方法)	支援センター検討会(今年度の取り組み)	支援センター検討会(来年度の計画)			芸術文化祭実行委員会(当日の役割分担)				芸術文化祭実行委員会(結果報告、反省など)
発表の機会の確保								芸術文化祭11月27日(金)・28日(土)				
情報収集・発信							支援センター開所式	ウェブサイト掲載				
												ウェブサイト掲載・ポスター掲示・マスコミ依頼・地域広報誌掲載
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



三重県障がい者芸術文化祭



三重県障がい者芸術文化活動支援センター開所式



三重県障がい者芸術文化祭の作品展示

### 成果の達成度、今後の展望について

「三重県障がい者芸術文化祭」の作品展では、コロナ禍で規模を縮小したにもかかわらず、478点の作品が集まり、昨年度より1割増し、同芸術文化祭を開催して以来の最高の出展数でした。特別支援学校や障がい者施設など団体の共同作品も多くありました。コロナ禍で発表の機会が激減するなかで受け皿になることができたようです。来場者については、さまざまな入場規制を行いました。来場者については、800人程度ありました(昨年度1800人)。来場者などに行ったアンケートでは、コロナ禍であっても開催を支持する意見が多数あり、発表の機会の必要性を感じました。毎年出展を楽しみにしている作家も多く、定期的な発表

の機会があるから、創作意欲の保持・向上につながっているようです。以上のことから、出展者や出展団体、実行委員会を含め、多様な人たちにかかわってもらうことができたと考えます。また、来年度実施予定の「アートサポーター(障がい者の芸術文化活動支援の経験を有する専門人材)による相談支援」の人材募集を、同芸術文化祭などで行ったところ、13人の協力者を見つけられました。今後の展望として、来年度は相談支援事業の始動もあり、芸術に挑戦したい障がい者を支援するとともに、芸術性の高い作品展示についても企業や民間団体などと連携して行うなど、多様な発表の機会を創出していきたいと考えています。

# アール・ブリュット インフォメーション&サポートセンター（アイサ）

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL 0748-46-8118 FAX 0748-46-8228 MAIL artbrut\_info@glow.or.jp URL http://info.art-brut.jp/



## 実施団体について

**団体名** 社会福祉法人 グロー（GLOW）～生きることが光になる～

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他（ ）

**障害者芸術文化活動支援歴** 9年／2012(平成24)年度より開始

**支援実績** モデル事業／2014 2015 2016  
本事業／2017 2018 2019 2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県が2018(平成30)年度に障害福祉サービス事業所を対象に実施した「造形活動・表現活動の取り組み状況調査」では、音楽やダンスなどの舞台芸術分野で活動する団体や個人が一定数あり、支援方法や活動環境の整備などに関するニーズがあることがわかっていました。しかし、当センターに寄せられる相談内容はほぼ美術分野が占め、舞台芸術分野におけるニーズを把握できておらず、舞台芸術分野においても障害のある人の芸術文化活動を推進する取り組みを充実していくことが求められています。

### 今年度の目標

県内の現状を踏まえ、舞台芸術分野において「(障害者の芸術文化活動を支援する)多様な主体のネットワークが強化される」ことを目標とし、成果目標の達成を判断する指標と基準を次の2点に設定しました。①県内で舞台芸術活動を行ったり支援したりする団体・個人でつくるネットワーク「パフォー

マンス・ネットワークミーティング」に参加する団体・個人が昨年度より増えること、②「パフォーマンス・ネットワークミーティング」に参加した団体・個人が、ネットワークを活用した事例が生まれること。

### 取り組み内容

地域で舞台芸術活動に関係する人が活動に関する情報を共有する機会として、「パフォーマンス・ネットワークミーティング」を昨年度に引き続き開催、舞台芸術活動訪問調査先にも参加を働きかけました。同ミーティングのなかでは、安定した活動が継続できるための活動資金の集め方や、運営を担うスタッフの確保などが話題に上り、各活動団体の困りごとに関する意見交換を行いました。まちづくりの分野で活躍されている協力委員からは助成金情報

やクラウドファンディングに関する情報提供があり、「寄付も一つの社会参加の形であり、情報をしっかりとキャッチして有効な活用につなげてほしい」というメッセージに参加者は認識を新たにしていました。その後、同ミーティングの発展的な取り組みとして発表と交流の場づくりについても検討。実現に向けてはスタッフを募り、検討を重ねて準備していくことになりました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
相談支援	随時受付	舞台芸術活動団体訪問調査(現状やニーズの把握を目的とし、相談支援の一環で実施。調査中に聞いた困りごとなどに対し、後日情報提供)						出張相談				出張相談	権利保護振り返り会
人材育成							音声ガイド研修(全3回) 第1回:基礎研修「見えない人をガイドするって?」 第2回:実践研修「音声ガイドに挑戦!」 第3回:現場研修「劇場で音声ガイドを体験しよう」	アウトリーチWS①(ねんどでフロッタージュ)	権利保護研修	作品展示勉強会		アウトリーチWS②(ハンドベルの演奏と体験)	
関係者のネットワークづくり		協力委員会①(事業計画の共有、意見交換)		その都度、当センターの事業視察(事業内容への意見、事業進捗の共有)			パフォーマンス・ネットワークミーティング①(訪問調査の報告、活動資金の集め方[協議・情報提供]、発表と交流の場づくりについて)					協力委員会②(事業報告、事業評価、意見交換) パフォーマンス・ネットワークミーティング②(「オンライン おっともだちひろっぱ」振り返り)	
発表の機会の確保			合同企画展実行委員会①(委員長選出、スケジュール確認など)	合同企画展実行委員会②(作品実見)	合同企画展実行委員会③(収録・展示構成の協議)	合同企画展実行委員会④(展示構成の協議)	合同企画展実行委員会⑤(展示構成の協議)	合同企画展実行委員会⑥(発表の機会のもち方について[意見交換])	オンライン発表③ 12月26日(土)	おっともだちひろっぱ企画会議②(発表の機会のもち方について[具体的な実施内容など])	合同企画展実行委員会⑥(開催報告、振り返り)	合同企画展実行委員会⑥(開催報告、振り返り)	
情報収集・発信	リーフレット配付①		Twitter開設	専門家への相談					モニタリング	YouTubeチャンネル開設		ウェブサイト改修	
事業評価及び成果報告のとりまとめ											報告書作成		



「オンライン おっともだちひろっぱ」配信時の様子



パフォーマンス・ネットワークミーティングの様子



「オンライン おっともだちひろっぱ」チラシ

## 成果の達成度、今後の展望について

「パフォーマンス・ネットワークミーティング」の参加団体は、情報提供も含め、昨年度より4団体増の19団体(昨年度は17団体。活動休止団体などもあるため単純増ではない)。新たな展開として、同ミーティングにより団体間のつながりが生まれ、開催後に参加者が互いの活動の場を自主的に見学し合い、運営に関するアドバイスをしたり、自団体が企画するイベントに他団体へ参加の声かけをしたりし合うなどの事例が見られました。また、発展的な取り組み「オンラインおっともだちひろっぱ」の実施に向けたスタッフ会議を2回開催、オンラインで発信する内容や広報の方法などについて検討を重ね、スタッフ会議で出された意見を反映した企画の実現につながりました。これら

のことから、「(障害者の芸術文化活動を支援する)多様な主体のネットワークが強化される」という成果目標を達成したと判断しました。実施後、参加団体とともに今年度の取り組みを総括し、今後も同ミーティングで意見交換しながら方向性や取り組みを定めていくことになりました。このように、「自分たちで動くことでコトが動く」という経験を丁寧積み重ねていき、そのなかで福祉事業所や団体などの支援者・関係者に、これまで障害のある人の余暇支援や居場所づくりとして捉えられてきた音楽やダンスなどの活動を「舞台芸術分野における活動」と再定義してもらい、活動のもつさまざまな価値について考える場として展開していきたいと考えています。

## art space co-jin

〒602-0853 京都府京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール1階  
TEL 050-1110-7655 FAX 050-1110-7655 MAIL info2015cojin@gmail.com URL https://co-jin.jp/



## 実施団体について

- 団体名** きょうと障害者文化芸術推進機構(京都府障害者支援課)
- 団体の種類** 行政 福祉団体 文化芸術団体 その他( )
- 障害者文化活動支援歴** 6年/2015(平成27)年度より開始
- 支援実績** モデル事業/ 2014 2015 2016  
本事業/ 2017 2018 2019 2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

## 都道府県内の状況

1995(平成7)年度から府在住の障害のある人を対象に芸術作品を公募・展示する「京都とおきの芸術祭」が継続開催され、同芸術祭の優秀作品などによる企画展を「第26回国民文化祭・京都2011」で開催したところ、来場者から色彩感覚や独創性の豊かさに大きな反響を得ました。その機運を一過性のものにせず、芸術性の高い作品の支援をすべく、2015(平成27)年に福祉・芸術関係団体などによる「きょうと障害者文化芸術推進機構」を設立し、障害のある人の文化芸術活動の支援拠点「art

space co-jin」を開設。その取り組みのなかで、障害のある人の文化芸術活動は個々の福祉施設や個人の取り組みで留まっていること、芸術性の高い作品が評価されないまま消失・散逸するケースがあること、障害のある人の作品を見たことがない人が多いこと、展覧会などで関心をもってもらえてもその関心の持続や深化のための情報発信が十分ではないことを把握しており、今年度も引き続き、それらの課題に取り組む必要性がありました。

## 今年度の目標

2019(令和元)年10月に策定された京都府総合計画では、「文化芸術やスポーツ、その他社会生活全般において、障害のある人もない人も共にその能力を生かして活躍できる社会」を将来像として掲げています。その将来像に向けて、昨年度から引き続き、今年度も障害のある人の芸術作品を発表する機会を創出すること、作家や作品の魅力を発信し、作品を通じて障害があることを個性として、一人ひとりに接することで、府民の障害への偏見をなく

し理解を深めていくことを優先目標としています。①新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けるなかでも、障害のある人の芸術作品や表現を定期的に発表する機会を創出すること、②障害のある人の文化芸術活動を支え、作家や作品の魅力を発信する支援者を育成する機会を創出すること、以上の2つを実現できたことをもって、目標達成と判断することにしました。

## 取り組み内容

①art space co-jinのギャラリーで企画展を4回開催したほか、障害のある人の芸術作品によるバナー(織布)展なども開催しました。また、障害のある人の作品を調査し、記録・情報発信を行うデジタル・アーカイブ事業「アートと障害のアーカイブ・京都」のサイトでは、新たに2人の作家の作品を追加しました。②支援者のスキルアップなどを

めざしたアート講座では、作品の商品化や広報、映像制作といった内容で3回開催しました。企画展の記録映像をウェブサイトで公開したり、アート講座をオンライン開催したりする試みも始めました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成					サポーター講座Vol.1 『『作品から商品へ』～ダブ ディビ・デザインのしごと～』				サポーター講座Vol.2 「アートの伝え方 How to tell about Art」		サポーター講座Vol.3 「スマートフォンを使って 動画撮影・編集に挑戦!」	
関係者のネットワークづくり	企画展などに向けて随時、各施設や団体を訪問・情報共有などを実施											
発表の機会の確保	企画展 「ひぐちよしまさ ほりぐちよしてる展」 3月31日(火) ～7月19日(日)			企画展 「ニューヨーク 木村康一展」 8月4日(火)～10月4日(日)			企画展「ART QUEVEAU アール・クーヴォー 久保直己展」 10月20日(火)～12月20日(日)			企画展「ゆびさきのこい」 1月19日(火)～3月21日(日)		
情報収集・発信	ウェブサイト・SNS更新、視察実施、デジタル・アーカイブ作業											
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



企画展「ゆびさきのこい」の様子



企画展「ニューヨーク|木村康一展」の様子

## 成果の達成度、今後の展望について

企画展については、art space co-jinのギャラリーがコロナ禍の影響で1カ月間休廊しましたが、感染対策を徹底したことで、定期的な作品発表の機会を維持できました。また、企画展などへの来場者数は例年よりも減少(昨年度延べ5159人、今年度延べ3885人)しましたが、一方でウェブサイトの内容を充実させたことやプレスリリースに注力したことにより、テレビ取材が複数あったため、作家や作品のことを広く発信できたほか、ウェブサイトの閲覧数が昨年度と比べて増加(art space co-jinのサイトは昨年度1万3799件、今年度1万5097件。デジタル・アーカイブのサイトは昨年度5362件、今年度8334件)しました。このことから、例年以上に多くの人に障害のある人の文化芸術活動につい

て知っていただくことができたと考えます。アート講座では、作品を活用した商品企画や、スマホ動画の撮影・編集というタイムリーな内容を取り上げた結果、art space co-jinの取り組みへの関心を高められ、受講者からart space co-jinを支えてくださるサポーターに登録する人もいました。これにより、サポーター登録者数が昨年度60人だったのが、70人に増えました。今後の展望としては、京都府への文化庁移転が2022(令和4)年度に予定されていますので、文化庁の移転を契機として、京都市内中心である展示機会を府域全体に広げ、より身近な地域で文化芸術活動に参加、親しめる機会を増やしていきたいと考えています。

# 国際障害者交流センター ビッグ・アイ

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1

TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 MAIL arts@big-i.jp URL https://www.big-i.jp/



## 実施団体について

**団体名** 社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 20年/2001(平成13)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

大阪府内における障害者の芸術文化活動は美術をはじめ、舞台芸術においても活発であると言えますが、福祉事業所による活動が中心で個人の活動への支援は十分とは言えません。大阪府では20年に渡り障害者の芸術文化活動支援事業を行ってきたことで、他府県に比べて美術・舞台芸術両分野ともに、障害者の芸術文化活動は活発であると言えますが、障害のある人の活動の場や支援

に対するニーズも多様化しているのが現状です。特に、舞台芸術分野では、当センターの実施事業の参加者から、交流や体験を目的にした活動、表現力や技術を向上できて高みをめざせる活動への希望が多く、目的に応じて選択したいというニーズが高まってきていました。美術・舞台芸術両分野ともに、多様な活動、多様な場、多様な人による支援が求められています。

### 今年度の目標

①多様な表現の場の創出。障害のある人自身が目的や希望に合う表現活動を選択できるプログラムをつくります。同プログラムが地域のモデルとなり、活動の選択肢を拡充することもめざします(指標：新規参加者10人以上、事業見学者3人[団体]以上)。②多様な活動の場を創造できる人材の育成。障害のある人への支援や指導ができるアーティスト(舞台芸術)の育成と、運営面をフォローできる支

援人材の育成(指標：ワークショップ講師・ダンス作品を創作できるアーティスト2人、運営[支援]スタッフ1人)。③多様な分野や人材とのネットワーク構築。舞台芸術活動や展覧会の制作を通じ、福祉や芸術のほか、多様な分野・人材とのネットワーク体制による事業実施(指標：芸術団体、文化人類学、民俗学の研究者、有識者の事業参加)。

### 取り組み内容

①舞台芸術ワークショップ「オープンカレッジ」では、演劇とダンスのワークショップを開催し、「表現の場」と「創造の場」(日本博[※]連携事業)という2つのプログラムを用意。特に「創造の場」ではニーズが多かった「高みをめざせる活動の場」となるように、作品創造からプロとの公演に出演までできる内容にしました。②昨年度までのオープンカレッジでアシスタント講師だった人材が、「表現の場」の講師や「創造の場」の公演作品の振付、稽古、出演者フォローの役割を担うスキルアップの機会を創出し

ました。③オープンカレッジにおいて、近隣の堺市文化振興財団と協力体制を構築し、ワークショップや稽古場の提供、運営業務のサポートをしてもらいました。展覧会「about me」では、国立民族学博物館の研究者に福祉事業所視察、考察会議、セミナーなどに加わってもらい、参加事業所の表現活動の視野を広げ、支援の充実につながることに取り組みました。

※「日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業 障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト」(文化庁/独立行政法人日本芸術文化振興会)

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
相談支援	随時受付												
人材育成	about me	展覧会企画立案、会議	事業所訪問(3カ所) 展覧会準備、広報			考察会議・展覧会開催 図録・冊子作成 アーツセミナー(ライブ&後日配信)							
			アーツセミナー企画立案 開催準備、広報						アート教室(毎週土曜14:00~17:00) ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、10月より再開				
	みずのみば	企業が開催する展覧会への出席											
オープンカレッジ	企画立案・ミーティング		広報 開催準備	創造の場(11回)、表現の場(ダンス・演劇コース各5回)			「表現の場」発表会	「創造の場」発表会					
関係者のネットワークづくり				about me/事業所訪問(3カ所)、展覧会準備、広報協力			about me/考察会議・展覧会協働による設営						
発表の機会の確保	オープンカレッジ/文化施設がワークショップや稽古場の提供と運営協力						オープンカレッジ/「表現の場」発表会 about me/展覧会(オンライン) ともに、11月29日(日)			みずのみば/企業が開催する展覧会への出席 オープンカレッジ/「創造の場」発表会 1月30日(土)・31日(日)			
	ウェブサイトやSNSなどで情報発信、事業前後に参加者アンケートで情報収集												
事業評価及び成果報告のとりまとめ										各事業報告書作成		支援ガイドを活用した振り返りと評価 成果報告書の作成	



大阪府障がい者舞台芸術オープンカレッジ「創造の場」の稽古



「about me 4 オンライン展覧会」



「BIG-Iアーツセミナー 言語化できないコトバ」

### 成果の達成度、今後の展望について

①新規参加者は「表現の場」24人、「創造の場」34人。「高みをめざしたい」というニーズに応えたプログラムにした結果、実施場所が府の南部のためにこれまで参加の少なかった北部からの参加者が増えたほか、奈良県、兵庫県、京都府、福岡県、愛知県、神奈川県など全国からの参加者もあり、目的や希望に合う選択肢へのニーズの高さを感じました。また、事業モデルの一つとして見学者を募った結果、31人が参加。②アシスタント講師が振付担当や指導者としての役割を担った結果、参加者アンケートで講師継続を希望する声があったほか、舞台作品としての評価も高かったため、成果があったと思います。③オー

ブンカレッジでは、協力団体の堺市文化振興財団に支援ノウハウを提供できたことで、来年度以降の事業協力団体としてのつながりができました。「about me」では、国立民族学博物館の研究者が参加したことで、同プロジェクトの根幹である「人」としての表現活動を深く考える機会になりました。参加事業所からは、支援現場において「芸術的価値」だけではなく「社会的価値」を見出せる機会になり、日々の支援の充実を図ることにつながったという意見をいただきました。今後の展望として、障害のある人の芸術文化活動は多様であるべききもので、一人ひとりが選択できる活動の場を拡充していきたいと思

# ひょうご障害者芸術文化活動支援センター

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL 078-362-4090 FAX 078-362-9040 MAIL universal@pref.hyogo.lg.jp URL https://web.pref.hyogo.lg.jp/org/universal/



## 実施団体について

団体名 兵庫県

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援 2年/2019(令和元)年度より開始

支援実績 モデル事業 /  2014  2015  2016  
本事業 /  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

兵庫県では、2004(平成16)年度から障害種別の垣根をなくした障害者の芸術・文化祭(舞台部門・美術工芸作品公募展)を開催するほか、芸術文化活動に取り組む障害福祉サービス事業所などに対して楽器や音響機器の購入を支援するなど、障害者の芸術文化活動の基盤整備を進めてきました。これらの取り組みにより、障害者の芸術・文化祭への応募が増えるなど障害者の芸術文化への取り

組みは一定の広がりを見せていますが、障害福祉サービス事業所などからの聞き取りによると、「芸術・文化祭以外に発表や鑑賞の機会がない」「芸術文化活動に取り組むたくても、活動を支える人材確保が難しい」といった課題があることがわかってきました。それらの課題解決に向け、当センターを昨年度開設し、支援に取り組んでいます。

### 今年度の目標

「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」の施行など、全国的に障害者の芸術文化に関する機運が高まるなか、県内における障害者の芸術文化の更なる振興を図るため、障害者の芸術作品などの発表機会の確保、鑑

賞機会の拡大、活動を支える人材育成の3本柱で、法の趣旨も踏まえながら、芸術文化活動を行う障害者や障害福祉サービス事業所などへの多面的な支援を体系的に実施することをめざしました。

### 取り組み内容

芸術作品などの発表機会の確保=する、鑑賞機会の拡大=みる、活動を支える人材育成=ささえるとし、「障害者の芸術『する・みる・ささえる』応援プロジェクト」と名付け、主に次の3つのことに取り組みました。①県立美術館王子分館「原田の森ギャラリー」内に、障害者の絵画、書、写真などの芸術作品を常設で展示する「兵庫県障害者アートギャラリー」を開設。同アートギャラリーでは、障害者の芸術・文化祭の入賞者が所属する障害福祉サービス

事業所などを中心に出展いただき、2回の常設展を開催しました。②人通りの多いまちなかにあるギャラリー(JR神戸駅地下街「神戸デュオギャラリー」)を当センターで定期的にレンタルするとともに、作品などの運送・設営費用を助成することにより、創作活動に取り組む障害福祉サービス事業所などの展覧会開催を支援しました。③劇場・ホールなど芸術文化施設のスタッフを対象に、障害者が観劇する際に必要な合理的配慮を学ぶ研修を開催しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成							合理的配慮に取り組む、県内の先進劇場ヒアリング	県内劇場・ホールへの合理的配慮研修実施の希望調査				合理的配慮に関する研修
関係者のネットワークづくり					芸術・文化祭実行委員会①(芸術・文化祭の方針・計画・予算)						芸術・文化祭実行委員会②(実施報告、来年度の方針)	
発表の機会の確保							常設展示場の開設			定期展覧会① 1月21日(木)～26日(火)	常設展の開催②	芸術・文化祭 3月5日(金)～7日(日) 定期展覧会② 3月18日(木)～23日(火)
情報収集・発信				県内福祉施設訪問①(常設展への出展依頼、活動状況などの聞き取り)				県内福祉施設訪問②				県内福祉施設訪問③
事業評価及び成果報告のとりまとめ											報告書作成	



「兵庫県障害者アートギャラリー」常設展



「兵庫県障害者アートギャラリー」オープニングセレモニー



障害者の舞台芸術鑑賞への合理的配慮に関する研修

### 成果の達成度、今後の展望について

①兵庫県障害者アートギャラリーでの常設展を2020(令和2)年10月20日(火)～2021(令和3年)1月17日(日)、2月2日(火)～3月31日(水)の計122日間開催し、来場者は2000人を超えました。併せて、常設展期間中の10日間、同アートギャラリーのある「原田の森ギャラリー」1階エントランスホールで、障害福祉サービス事業所などが制作した芸術作品といった授産製品の販売を行うなど、障害者の就労など自立促進に資する取り組みも行いました。②まちなかにあるギャラリーでの展覧会開催を支援した結果、2021年1月21日(木)～26日(火)、3月18日(木)～23日(火)の計2回(複数の事業所などによる合同展も含む)の開催が実現し、来

場者は約200人でした。③兵庫県の芸術文化の振興拠点である兵庫県立芸術文化センターで、障害者が観劇する際に必要な合理的配慮に関する研修を開催したところ、同センターのスタッフなど35人が参加しました。今後の展望として、今年度取り組んだ常設展や合理的配慮研修に加えて、コロナ禍でも、障害福祉サービス事業所などの取り組みを支援するため、創作活動の指導に携わる専門家を講師に招いたオンライン教室を開催するとともに、県内各地の障害福祉サービス事業所などが身近な地域で芸術作品を発信できるように展覧会などのイベント開催経費を助成するなど、支援を充実させていきたいと考えています。

# 和歌山県企画部 紀の国わかやま文化祭推進局 事業推進課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1  
TEL 073-441-2571 FAX 073-423-7120 MAIL e0225001@pref.wakayama.lg.jp URL https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/040400/syogaigeijutu.html



## 実施団体について

- 団体名** 和歌山県
- 団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )
- 障害者芸術文化活動支援歴** 3年/2018(平成30)年度より開始
- 支援センター実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県内の障害のある人の芸術文化については、障害福祉サービス事業所や個人で創作活動や表現活動により収入を得ている、または独自に展覧会を開催している方々がいる一方で、興味はあっても専門的な知識を有した職員がいないために芸術文化活動に取り組みにくい事業所や、芸術文化といえば歴史や伝統があるものというイメージが根強く、「ハードルが高い」と思っていたり、施設などで行っている活動は「あくまで余暇活動である」という認識をもっていた

りする方々が多く、障害のある人の芸術文化に対する理解にはばらつきがありました。そうしたなか、2021(令和3)年度に「第36回国民文化祭・わかやま2021」「第21回全国障害者芸術・文化祭わかやま大会」(通称：紀の国わかやま文化祭2021)を本県で開催することが決定しました。これを契機に、これまで芸術文化に接する機会がなかった人をはじめ、多くの障害のある人が芸術文化活動に取り組むことができるような環境を整備することが必要であると考えました。

### 今年度の目標

「紀の国わかやま文化祭2021」開催に向けて、同文化祭を知っていただくとともに、芸術文化活動は障害の有無に関係なく心を豊かにし、相互理解をもたらすこと、その結果として障害に対する理解が促進されるという理念のもと、県内の障害福祉サービス事業所などに対して同文化祭への参加を呼びかけることに取り組みました。目標達成を判断する具体的な指標・基準として、①2019(令和元)年度から開催してい

る障害のある人の作品展「紀ららアート展」で応募点数が、昨年度の約300点を上回る400点となること(「紀の国わかやま文化祭2021」での全国障害者作品展の機運醸成も図るため、同文化祭実行委員会事務局が「紀ららアート展」を主催し、当センターは後援活動を実施)、②「障害者の芸術鑑賞支援等の配慮を促す研修会」を紀北地域と紀南地域の2カ所で開催し、合計60人が参加することと設定しました。

### 取り組み内容

「紀ららアート展」の後援活動として、県内各地の障害福祉サービス事業所が集まる圏域会議に出席し、同作品展の周知と出展依頼を行うとともに、「紀の国わかやま文化祭2021」における障害のある人の交流事業(「おもてなしアートパネルづくり」やワークショップなど)への参加を呼びかけるほか、積極的に芸術文化活動に取り組んでいる障害福祉サービス事業所に対しては個別訪問し、活動をするうえで工夫している取り組みや課題などのヒアリングも併せて行いました。また、「障害者の芸術鑑賞支援等の配慮を促す研修会」について

は、同文化祭で音楽、演劇、展示、伝統芸能など130を超える事業を主催する各文化団体や会場となる文化施設の職員に参加を呼びかけました。研修内容は「あいサポート運動と障害を理由とする差別の解消の推進について(講師：県障害福祉課職員)」「障害特性の理解と対応(講師：県相談支援体制整備事業アドバイザー)」の講義と、「紀ららアート展」の観覧(車いすによる芸術鑑賞体験、視覚・聴覚障害のある人とのコミュニケーション)の体験研修で構成し、障害のある人の芸術文化活動や鑑賞についての理解を深めていただきました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	「和歌山県障害者芸術文化活動支援センターわかやま」に業務委託											
人材育成								鑑賞支援研修会				
関係者のネットワークづくり		県内各地訪問①	県内各地訪問②	県内各地訪問③								
発表の機会の確保								作品展周知など				
情報収集・発信	ウェブサイト・SNS更新											
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



障害者の芸術鑑賞支援等の配慮を促す研修会



障害者の芸術鑑賞支援等の配慮を促す研修会



紀ららアート展

### 成果の達成度、今後の展望について

「紀ららアート展」については、広報活動により初めて出展された方も多く、昨年度より約100点増の396点となり、来年度の「紀の国わかやま文化祭2021」での全国障害者作品展開催に向けての機運醸成となりました。また、「障害者の芸術鑑賞支援等の配慮を促す研修会」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの影響もあり、参加者が目標の約半数となる24人となりました。しかしながら、研修参加者のアンケートでは、「体験したことでサポート方法が少しわかった」「まずは声をかける勇気をもちたい」「障害者に対する理解が深まった」「今後、障害者とともに芸術文化活動を行うことに興味をもった」など、障害や障害のある人の芸術文化活動に

対して認識を新たにしたという前向きな感想が多く寄せられました。文化関係者に障害のある人の芸術文化活動や文化施設における障害のある人への対応方法を理解していただけたので、障害のある人の芸術文化活動への環境整備につながったと実感しました。今後の展望としては、「紀の国わかやま文化祭2021」を契機に、これまで以上に障害のある人の芸術文化活動のすそ野を広げられるように、障害のある人と文化団体などによる地域文化活動の交流促進、芸術的価値が高い作品が制作できる環境づくりの整備など、同文化祭終了後も県内全域で障害の有無にかかわらず垣根を超えた芸術文化活動の振興に取り組んでいきます。

# 和歌山県障害者芸術文化活動支援センター わがらあと

〒649-2102 和歌山県西牟婁郡上富田町岩田2456-1  
TEL 0739-34-2808 FAX 0739-47-6645 MAIL wagara-art@wfi.or.jp URL https://www.wfi.or.jp/office/3221



## 実施団体について

**団体名** 社会福祉法人 和歌山県福祉事業団

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 4年/2017(平成29)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県内の障害者の芸術文化活動を行う福祉事業所や絵画教室などでは、数は多くないものの、絵画や写真、書道、立体造形、陶芸、映像など多様な分野の取り組みが行われています。当法人主催の展覧会でも、出展作者や来場者が年々増加傾向にあり、少しずつですが着実に障害者の芸術文化活動が広がっています。しかし、芸術文化活動を行う障害福祉サービス事業所や団体が依然、県の中心地である和歌山市周辺に偏っているという課題がありま

す。また、障害者の芸術文化活動に関する発信力にも課題があり、県民の認知度は低い状況です。地域的な偏りを是正し、表現したい障害のある人が気軽にアクセスできる環境を全地域的に整えていく必要があります。2021(令和3)年度には国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭が和歌山県で初開催。障害者の芸術文化活動の全県的な普及・振興につなげる好機と言え、開催前年の今年度は関係機関と連携しながら機運の醸成を図る年でした。

### 今年度の目標

当センターは、相談支援事業のみを行っているため、今年度の目標は「障害者の芸術文化活動に関する相談が増え、解決に至る」とし、解決に至ることで、芸術文化活動のすそ野が県内で拡大することを期待しました。達成を判断する指標・基準として、①昨年度の相談件数(18件)を上回ること、②相談者と協力し、障害者の芸術文化活動に関する認知度

を高めること(相談者と協力して地域課題の解決を図った内容や結果から判断)の2つを設定しました。「①」の数字で表すことができる指標・基準のほうがわかりやすいですが、新型コロナウイルス感染症の状況が見通せないなか、活動が制限されることが予想できましたので、「②」の数字で表せない指標・基準も設けました。

### 取り組み内容

相談件数目標を達成するために出張相談会、大規模相談会、先進地視察(県外で先進的な取り組みを行う福祉事業所などへの視察)を計画・開催、障害者の芸術文化活動に関する認知度を高めるために展覧会を共催しました。出張相談会については、当法人主催の「アールブリュット和歌山展」、和歌山県主催の「紀ららアート展」との併催という形で4回実施しました。一方、大規模相談会、先進地

視察については感染拡大を懸念し、中止としました。展覧会の共催については、和歌山県障害福祉課から「県主催展覧会の内容を充実させたい」との相談をいただき、当法人主催の過去5回の展覧会及び今年度の展覧会の作品により作品展を共催。併せて「作者を紹介できれば」との相談もあり、作者紹介キャプションを作成して展示を行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援								出張相談会(2回) 展覧会(共催)	出張相談会	出張相談会		
人材育成												
関係者のネットワークづくり												
発表の機会の確保												
情報収集・発信												
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成

※相談支援事業のみの実施

**出張相談会の開催**  
日程・会場

- 和歌山県民文化会館 展示室(大中小)  
2020年11月20日(金) 9:00~17:00  
和歌山県民文化会館 展示室(大中小)  
※令和2年度からアート展開催中
- 田辺市文化交流センター たなべる  
2020年11月27日(金) 9:30~17:00  
田辺市東郷31番1号  
※令和2年度からアート展開催中
- 和歌山県福祉事業団 ぎやらりーながわ  
2020年12月5日(土) 11:00~16:00  
和歌山県福祉事業団 ぎやらりーながわ  
※令和2年度からアート展開催中
- 和歌山県福祉事業団 ぎやらりーながわ  
2021年1月21日(木) 11:00~16:00  
和歌山県福祉事業団 ぎやらりーながわ  
※令和2年度からアート展開催中

～大規模相談会～  
田辺スポーツパーク 多目的ホール  
2021年2月26日(金) 13:30~16:30  
田辺市上の山丁目23番1-1号  
講師 ①芸術文化活動における権利保護(基礎講座) 和歌山県 福祉課 学長 ②芸術文化活動と知的財産権(ワークショップ) 一般社団法人たんぽぽの家 大井由佳氏

社会福祉法人 和歌山県福祉事業団  
和歌山県障害者芸術文化活動支援センター わがらあと  
TEL 0739-34-2808 FAX 0739-47-6645  
E-mail wagara-art@wfi.or.jp

出張相談会の開催案内チラシ



共催した展覧会(2020年11月18日[水]~22日[日])に県民文化会館で開催

## 成果の達成度、今後の展望について

相談件数は7件。昨年度は18件だったので、目標達成には至りませんでした。要因として、コロナ禍により、大規模相談会と先進地視察を中止したこと、展覧会併催の出張相談会への来場者数が0人だったことが挙げられます。次に、障害者の芸術文化活動に関する認知度を高めるために共催した展覧会では、作者33人の絵画、陶芸、編物、造形など118点の作品を展示し、期間中の来場者数は600人以上。展覧会共催決定時に掲げた「来場目標1日平均50人」に対し、実績は1日平均120人以上でした。その来場者に対して、今回作者紹介キャプションを展示したことで、「県内の個性溢れる表現者の存在を知ってもらえる=障害者の芸術文化活動に関する認知度を高める」ことにつながったと考えます。また、県内の障害福祉サー

ビス事業所に案内するとともに、県と協働して各広報媒体に情報提供するなど、これまでの展覧会以上に広報活動を強化。民間法人単独より、広く周知でき、地域に与える影響は大きかったと考えます。今後の展望として、今年度の相談件数の伸び悩みを踏まえ、コロナ禍でも実施可能なオンライン相談会など、件数を増やすための取り組みを行っていきたく考えています。来年度は国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭が開催されるため、全県下でさまざまな事業が計画されています。共催事業で各団体と連携を密にして成功をめざすと同時に、相談支援を通して同文化祭後の更なる芸術文化活動の活性化を図り、全県的な普及・振興につなげていきます。

# あいサポート・アートセンター

〒682-0821 鳥取県倉吉市魚町2563

TEL 0858-33-5151 FAX 0858-33-4114 MAIL info.artcenter@ncn-k.net URL https://art-infocenter.jimdofree.com/



## 実施団体について

**団体名** 特定非営利活動法人 アートピアとっとり

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者文化活動支援歴** 17年/2004(平成16)年度より開始

**支援実績** モデル事業 /  2014  2015  2016  
本事業 /  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県全体の動きとして、県民が気軽に障がい者アートを楽しめるようになるために、障がいのある方の作品展示を積極的に進めているギャラリーを「鳥取県はーとふるアートギャラリー」に認定し、県と当センターが運営事業者と一緒に情報発信を行うなど、積極的な障がい者アートの振興が図られています。しかし、今年度当初、昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、地域のアートイベントの中止や規模縮小、当センター

が運営する美術館も一時休館になるなど、障がい者が芸術文化活動の成果を発表する機会やその魅力を発信する場が大きく制限されました。相談支援事業でも、県内でアート活動を行う団体・個人から、発表の機会を求める声や発表方法に関する相談が多く寄せられていました。発表や発信の場が失われることは、県民が障がい者の優れた芸術性に触れる機会を失うことでもあり、展覧会や発表会の維持・継続の必要性を強く感じていました。

### 今年度の目標

「鳥取県障がい者による文化芸術活動推進計画」に基づき、2023(令和5)年度までに展覧会の来場者数7000人、ワークショップ参加者数120人を目標に事業を実施しています。しかし今年度は、コロナ禍により例年のような集客が難しく、展覧会の来場者数とワークショップ参加者数が見込めないことから、数値による目標設定だけでなく、県内に目を向けた情報発信、継続的な作品鑑賞や創作体験の機会提供により、当センターが運営する美術館が

地域に根差した美術館となること、それにより障がい者の文化芸術活動への関心がより高まることを目標に掲げました。目標達成は、①展覧会/来場者状況(県民の来場頻度が高まったか)とアンケート(肯定的な感想や意見が多かったか)、②ワークショップ/アンケートのほか、体験時の参加者の表情や会話で聞かれた言葉、以上から満足度を測り、判断することにしました。

### 取り組み内容

障がい者アートの魅力を広く発信するため、当センターが運営する美術館で県内外の作家の展覧会を年5回開催しました。県内作家の展覧会では、美術館のある倉吉市の協力のもと、市内全域の公民館の掲示板にポスターを掲示したことにより、地域の方々に広く認知していただけました。来場できない人に向けては、SNS上での作品紹介を開始。また、企画展「無心に織る～さをり織り作品展～」では、誰もが気軽に参加できるワークショップを併

せて開催しました。参加者は作品を鑑賞しながら創作活動を体験でき、より障がいのある人が生み出す作品の魅力を感じてもらえる機会となりました。また、2020(令和2)年9月に開催した「日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバルin中国・四国ブロック」では、中国・四国地方を中心に全国の魅力ある舞台芸術やアール・ブリュット作品を紹介することができました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成	あいサポート・アートセンター 障がい者アート活動支援事業補助金 (文化芸術活動にかかわる県内在住の障がい者や支援者の育成を目的とした支援事業)											
関係者のネットワークづくり	貸館展示 「I know 才能 展リベンジ!!」 8月8日(土)～14日(金)											
発表の機会の確保	日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバルin中国・四国ブロック 9月5日(土)～10日(木)											
情報収集・発信	企画展「神戸からの風 ころのアート展」 4月14日(火)～5月17日(日) 再展示:6月1日(月)～7月12日(日) 巡回展:5月20日(水)～26日(火)											
事業評価及び成果報告のとりまとめ	各企画展のアンケート分析・評価											
	企画展「無心に織る～さをり織り作品展～」 10月10日(土)～11月15日(日) 巡回展:11月18日(水)～26日(木)											
	企画展「山脇貴文個展 anima-あにま-」 12月5日(土)～2021年1月17日(日)											
	企画展「橋本賢二とありがとうファーム新人作家展『もえているのはぼくらのこどう』」 1月23日(土)～3月7日(日) 巡回展:3月12日(金)～16日(火)											
	「鳥取県はーとふるアートギャラリー」2ギャラリー認定											
	ウェブサイト・SNS更新											
	報告書作成											



企画展「神戸からの風 ころのアート展」展示会場



企画展「無心に織る～さをり織り作品展～」ワークショップ



「日本博を契機とした障がい者の文化芸術フェスティバルin中国・四国ブロック」アール・ブリュット展 展示会場

### 成果の達成度、今後の展望について

企画展を年5回開催し、巡回展を含め約3500人の来場がありました。コロナ禍で昨年度より全体の来場者数は減少しましたが、県内からの来場者が多く見られました。特に県内作家の展覧会では、当センターが運営する美術館に初めて来館される地元の方や幼稚園の団体などがあり、美術館の地域における認知度が上がったことがうかがえました。各展覧会のアンケート結果から、どの展覧会でも来場者の評価として「良い」「とても良い」の割合が9割を占めており、更に「元気をもらいました」「素晴らしい作品に感動しました」といった肯定的な感想や意見

が多く見られました。企画展の関連企画として行ったワークショップでは、3回の開催で計96人の参加がありました。参加者は無心になって創作し、完成した作品に満足した様子でした。これらのことから、県民の障がい者の文化芸術活動に関する関心が一定程度高まったと考えられます。また、今年度新たに2つのギャラリーが「鳥取県はーとふるアートギャラリー」として認定を受け、県内のギャラリーは3カ所となりました。今後は、新たに認定されたギャラリーとも連携しながら、障がい者アートの魅力を広く発信していきたいと考えています。

# 島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ

〒695-0024 島根県江津市二宮町神主1964-31 社会福祉法人いわみ福祉会 総合福祉施設ミレ青山内  
TEL 080-5756-3225 FAX 0855-54-3101 MAIL artbase@shimaneiro.jp URL https://shimaneiro.jp/



## 実施団体について

**団体名** 社会福祉法人いわみ福祉会

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者文化活動支援歴** 1年/2020(令和2)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県内の障がい者の文化芸術においては、県立大学(美術教育)や県社会福祉協議会、県障がい福祉課など各関係団体が協力して、アート展開催などの活動支援を行い、県と県社会福祉協議会の主催で12月の障害者週間には「島根県障がい者アート作品展」を開催(10回以上)していました。全国的に障がい者の文化芸術に関する普及支援事業の動きが高まり、県内においても障がい者の文化芸術活動を今まで以上に普及支援していく支援センター

### 今年度の目標

「島根県障がい者アート作品展」は10回以上の開催実績があり、当事者にとって創作・発表の機会として大きな目標や意欲につながっている展覧会です。同アート作品展をめざして活動する当事者が多くいます。また、開催過程では、福祉関係の支援者に向け、芸術分野の専門家が公開審査による評価や講評を行うことで、障がい者の文化芸術活動を支援する人材の養成も兼ねています。主催者が昨年度までの県社会福祉協議会から当センターに変

### 取り組み内容

県内の障がいのある人が創作した作品を展示する「島根県障がい者アート作品展」は毎年、支援者養成も兼ねた公開審査会を行い、開催初日には優秀作品の表彰式を行います。今年度開催にあたり、運営手法などを引き継ぎ、円滑に進行すべく、昨年度の実施団体である県社会福祉協議会を含め、県立大学や県障がい福祉課、支援センターの専門家アドバイザーからなる実行委員会を組織。新たな取り組みとして、より多くの人に応募していただ

の設置が期待されました。2020(令和2)年7月28日(火)に「島根県障がい者文化芸術活動支援センターアートベースしまねいろ」を開設し、江津市や浜田市がある県西部で福祉事業を展開する社会福祉法人いわみ福祉会が運営を受託しました。2019(令和元)年度に、県が福祉事業所を対象に実施した「障がい者の文化芸術活動に関するアンケート」では、「文化芸術に関心はあるものの、うまく実施できない事業所」が多数あることがわかっていました。

わっても、障がい者の創作や発表、支援者育成の機会を継続するため、例年通りの開催を実現することを目標としました。①例年通りの開催ができること(時期は障害者週間、会場は県立美術館ギャラリー、作品応募目標数約400点・展覧会来場者目標数約900人を維持)、②応募対象者へ募集に関する情報が周知できること(県内の福祉事業所300カ所、学校・医療・構成団体・行政150カ所にアプローチ)を、目標達成を判断する指標・基準としました。

るように、ポスターやチラシを作成して配布したほか、遠隔地の隠岐諸島(離島)を訪問するなど、県内全域への周知を実施。また、開催初日のオープニングセレモニーでは、表彰式に加え、「いわみ福祉会芸能クラブ」による伝統芸能・石見神楽の上演という舞台芸術分野の発表の機会を取り入れました。これは舞台芸術分野も支援するという当センターの姿勢を宣伝するためです。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援					随時受付							
人材育成									県アート作品展 公開審査会		オープンミーティング (知る・出会う・考える・つぶやく)	
関係者のネットワークづくり				7/28 支援センター開所	県アート作品展の引き継ぎ	第1回アドバイザー相談会、県アート作品展実行委員会(アドバイザーの内容、支援センター概要、県アート作品展など)	県アート作品展説明会(隠岐諸島)		県アート作品展実行委員会		連絡協議会(活動報告、県アート作品展の実施報告、来年度に向けて)	第2回アドバイザー相談会(活動報告、来年度事業計画)
発表の機会の確保									県アート作品展 12月4日(金)~6日(日)			
情報収集・発信											県内施設訪問① (支援センター紹介、訪問先の文化芸術活動の取り組み状況確認、ニーズ把握)	県内施設訪問② リーフレット完成、発送
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



「島根県障がい者アート作品展」の様子



石見神楽の上演(舞台芸術分野)



支援者向けのワークショップも兼ねる公開審査

### 成果の達成度、今後の展望について

「島根県障がい者アート作品展」は主に実行委員が所属する関係機関(県・県立大学・県社会福祉協議会・芸術分野専門家)などの尽力もあり、予定通りに12月の障害者週間に県立美術館ギャラリーで開催できました。広報においてはポスター200枚、チラシ2000枚を作成して、県内の福祉事業所などに配布したことで、作品応募受付数414点、3日間の来場者数延べ982人と、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下においても昨年度と同程度の実績になりました。その一方で昨年度まで出展されていた個人に対して、実施団体が当センターに変わったこと、作品の搬入・搬出方法の変更などの連絡不足により辞退されるケースがあったこと、例年応募者の9割を占めていた福祉・医療関係の支援者に向けて、作品の搬入・搬出方法

の変更の連絡が遅れてしまったことなどの反省点がありました。今年度新たに応募に至った新規事業所・個人は2件に留まり、また児童分野の出展数も全体の1割未満でした。今後の展望として、同アート作品展に未応募の福祉事業所、文化芸術活動を支援する民間団体、学校教育関係などに対するアウトリーチや、県が2019年度に実施したアンケート調査を更に深化させて行い、当事者や支援者の文化芸術活動の実態、課題、ニーズを把握する予定です。その課題やニーズを踏まえたうえで、同アート作品展を企画することで参加事業所を増やし、当事者にとって良き発表の機会、関係者や来場者にとって新しい作品との出会いや鑑賞の機会を創出できればと考えています。

# 広島県アートサポートセンター

〒731-0102 広島県広島市安佐南区川内6-28-15  
 TEL 070-5671-8668 FAX 082-831-6889 MAIL hululu@hullpong.jp URL https://hululu.jp



## 実施団体について

**団体名** 認定特定非営利活動法人 コミュニティリーダーひゅーるぼん

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者文化活動支援歴** 20年/2001(平成13)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
 本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、福祉施設や事業所、教育機関では、外部の施設入館の制限や外出の自粛、例年行われていた作品展やイベントの中止など、これまで通りの創作活動や表現活動が行いにくい状況でした。しかし、県や当法人主催の作品展の応募数は増えており、制限されたなかでも、創作活動や表現活動の取り組みは広がっています。そのため、新たに作品の管理・保管や作品の二次利用に関する事など、現場だけでは

支えきれない悩みが増えています。また、地域によっては社会資源や支援者が少ない、障がいのある人の創作活動や表現活動の存在が地域住民に知られていない現状があり、特別支援学校の教諭や卒業生から、卒業後の表現活動継続のために、福祉施設や事業所、関係機関とのつながりの強化や障がいのある人の表現活動の存在を地域に普及してほしいという意見が出ていました。

### 今年度の目標

これまで開催した展覧会やワークショップ、セミナーなどの参加者から「特別支援学校卒業後、表現活動に取り組む機会が減ってしまう」「なくなってしまう」という意見をいただいていた。このことから、特別支援学校卒業後の障がいのある人の表現活動、美術館やギャラリーでの美術鑑賞に焦点を当て、障がいのある人や支援者が日常でどのくらい美術とかかわりをもっているのか、どんなところに表現活動や美術鑑賞の魅力や難しさを感じてい

るのかについての実態を明らかにすること、そこから見えてきた課題を解決することをめざしました。目標達成は、①アンケート調査を実施して、障がいのある人や支援者から多くの意見をいただくこと(300件以上の回答を集める)、②調査結果から現状と課題を把握し、そこから見えてきた課題を解決するために必要な事業に取り組むことをもって判断することにしました。

### 取り組み内容

広島県、広島大学、当センター(3者で「一体型プロジェクト」結成)が連携し、県内の障害福祉サービス事業所や当事者団体、各市町の相談支援事業所に所属する障がいのある人と支援者を対象として、「障害のある人、サポートする人の表現および美術展覧会の鑑賞に関する実態調査」と題したアンケート調査を実施。県のメーリングリストを用い、障害者福祉施設・事業所に350通、関係

団体に6通、市町所管の事業所などに23通の計379通の依頼状を送付。質問票は障がいのあるご本人用と支援者用の2種類を用意しました。回答方法は「インターネットのウェブアンケートフォーム(アプリ「Microsoft Forms」利用)」「郵送した紙媒体の質問票に回答」「文書をダウンロードして印刷した質問票に回答」の3種類とし、期間を2020(令和2)年6月24日(水)～8月7日(金)と設定しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付							オンライン相談				
人材育成								美術表現ワークショップ(2回) ダンスワークショップ(3回)		写真・動画づくりセミナー&ワークショップ 権利に関する勉強会 ※中止		
								アートサポーターのためのスキルアップオンライン講座/表現活動の意義、展覧会の企画方法など(4回)		スキルアップ講座映像限定配信		
								美術表現映像ライブラリー制作・編集・限定配信				
関係者のネットワークづくり				一体型プロジェクトチーム会議① (アンケート調査、今後のスケジュール検討など)				一体型プロジェクトチーム会議② (アンケートの結果報告、今後の取り組み検討など)		一体型プロジェクトチーム会議③ (セミナー&ワークショップ実施・役割分担など)		
発表の機会の確保								あいサポートアート展 開催協力		HPAR2021 開催協力		演劇オンラインワークショップ 3月20日(土・祝)
情報収集・発信	表現および美術展覧会の鑑賞に関する実態調査							ウェブサイト・SNS更新				
事業評価及び成果報告のとりまとめ								報告書作成				

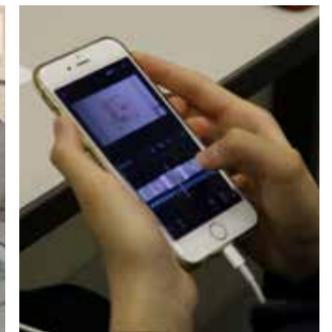
写真・動画づくりセミナー&ワークショップ



手ぶれ防止のため、カメラの構え方をみんなで練習



お気に入りの作品を撮影中



アプリ「CapCut」を使って動画編集

### 成果の達成度、今後の展望について

県内在住の障がいのある人88人、支援者282人の計370人から回答を得ました。2020年8月現在、何らかの表現活動をしている人は65%、していない人は35%。表現活動をしていない人のうち、「特別支援学校高等部(もしくは高等学校)卒業を最後に表現活動に取り組んでいない」と回答した人が最も多く、全体の46%、更に表現活動を「とても・まずまず・機会があればしたい」と回答した人は76%でした。展覧会の鑑賞については、「よく・たまに行く」と回答した人は42%、「ほとんど・まったく行かなかったことがない」「昔は行っていたが、今は行っていない」と回答した人は58%。この結果から、学校卒業後に表現活動を続けている人は想定よりも多かったのですが、展覧会など鑑賞の機会が少ないこと、現在表現活動をして

いない人もしたいという気持ちがある現状が見えてきました。また、公共施設利用の際に共通する困難さや課題(施設・設備への不安、周囲への憂慮、興味の所在、アクセス、場所への苦手意識など)があり、自由記述の回答からより多様で複雑な要因も見えてきました。この結果を受け、今年度は新たに芸術により親しむプログラム「写真・動画づくりセミナー&ワークショップ」を開催。参加者である障がいのある人が県立美術館で作品鑑賞する機会を設けるとともに、美術館の作品を題材とした映像を制作して、Facebookで発信することで、多くの人たちに向けて芸術鑑賞の機会も創出しました。来年度も、今年度の結果を参考に、課題解決に努めていきたいと思えます。

# 徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター

〒770-0005 徳島県徳島市南矢三町2-1-59

TEL 088-631-1200 FAX 088-631-1300 MAIL t-geibun@kouryu-plaza.jp URL http://kouryu-plaza.jp/gb-center/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 3年/2018(平成30)年度より開始

支援実績 モデル事業 /  2014  2015  2016  
本事業 /  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

徳島県では、2015(平成27)年に「障がいのある人もない人も暮らしやすい徳島づくり条例」が制定され、地域で障がいのある人が自立や社会参加しやすくするための取り組みとして、障がいの特性に応じて参加できる芸術文化活動の振興のために必要な施策やその能力を発揮して活躍できる場を充実させる施策を行うことが明記されています。今年度事業開始直後の2020(令和2)年5月に、県内障害福祉サービス事業所と特別支援学校を対象に

「芸術文化活動に関するアンケート調査」を実施したところ、回答のあった事業所・学校などの79%が芸術文化活動に関心がありながら、実際に活動しているのは34%でした。自由記述から、活動に関心があっても「日々作業が中心で、取り組む時間がない」「芸術文化活動を支援できる職員がいない」といった実態が見えてきました。また、発表の機会や支援者の研修の機会を求める声が多くありました。

### 今年度の目標

優先的かつ重点的な目標は「障がい者の芸術文化活動を支援する支援者の必要な知識やスキルが向上し、地域の福祉事業所が組織・事業として障がい者の芸術文化活動に取り組めるようになること」「障がい者が作品を創造する機会が増えること」。目標達成の判断基準は、①2018(平成30)年度に県内の障害福祉サービス事業所を

対象として実施した「障がい者の芸術文化活動状況のアンケート調査」の分析をもとに支援者向けのワークショップを開催し、事後アンケートで支援実施への肯定的な意見が全体の80%を占めること、②今年度で6回目の開催となる『『障がい者アーティストの卵』発掘展』の出展数が前回より10%増えることを設定しました。

### 取り組み内容

「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」では、アンケート調査で多く寄せられた「作品や作者の権利保護」「支援の方法」を知りたいという要望に応える内容を企画。美術分野では、芸術文化活動に関する権利や著作権についての学び、普段の活動で取り組みやすいように手に入りやすい材料を使った実技、展覧会開催時に役立つ展示方法など、活動経験のない支援者にもわかりやすく、すぐに実践できる内容にしました。舞台芸術分野で

は、療法的音楽活動を通して音楽がもつ楽しさを体験していただき、福祉事業所での活動のヒントにしてもらえればと考えました。また、第6回『『障がい者アーティストの卵』発掘展』開催に向け、作品制作へのきっかけづくりと、支援者のスキルアップを兼ねて、県の伝統工芸である「大谷焼」元山窯十代目の田村栄一郎氏を講師に迎え、特別支援学校3校を対象に「陶芸出前講座」を延べ6回開催しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
相談支援	随時受付												
人材育成				「陶芸出前講座」① 講師：田村栄一郎氏	「身近な素材で楽しもうー版画で表現ー」とユニバーサル美術館「ハローお気に入りのさがそう!」(2回) 講師：亀井幸子氏(徳島県立近代美術館係長)・竹内利夫氏(徳島県立近代美術館上席学芸員)	「陶芸出前講座」② 「ピアノ伴奏講座」 講師：徳島県障がい者芸術・文化活動支援センター職員	「作品展示の基本ー考え方と体験ー」 講師：安達一樹氏(徳島県立近代美術館 学芸交流課長)	「障がい者の芸術活動に関する権利ー著作権を中心にー」 講師：森晋介氏(森法律事務所 弁護士)	「療法的音楽活動を体験するー職場で音楽活動を実践するためにー」 講師：井村幸子氏(徳島文理大学音楽学部 准教授)・千葉さやか氏(徳島文理大学音楽学部 講師)		「陶芸出前講座」③	「障がい者アーティストの卵」発掘展 2月17日(水)～23日(火・祝) いきいきと解き放つ命の輝きアトリエコーナ ス 片山工房 たんぼの家の表現者たち	
関係者のネットワークづくり							企画委員会(事業計画と上半期事業報告)	視察研修(県外の先進的取り組みを行う福祉施設訪問、やまなみ工房へ)				企画委員会(事業報告と来年度事業計画)	
発表の機会の確保								オンライン音楽講座(1回)				展 2月11日(木・祝)～28日(日)	発掘展受賞作品展 3月6日(土)～5月23日(日)
情報収集・発信				県内施設訪問(芸術文化活動の取り組みについて調査)				オンライン陶芸(5回)					
事業評価及び成果報告のとりまとめ													報告書作成



第6回「障がい者アーティストの卵」発掘展



陶芸出前講座



障がい者アート活動支援のためのワークショップ

### 成果の達成度、今後の展望について

「障がい者アート活動支援のためのワークショップ」は5講座6回の開催で49人の参加がありました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けるなかでの開催でしたが、各講座ともに熱心に取り組む受講生の姿が見られ、事後アンケートでは「日ごろ、疑問に思っていたことなどが解決した」「障がい重度の児童にも十分活用できそうな内容だった。活用していきたい」といった回答があり、肯定的な意見が目標とした全体の80%を上回ったため、支援者が求める内容で開催できたと考えます。また、第6回『『障がい者アーティストの卵』発掘展』は来場者数が

951人と、昨年度と比べて40%減となりましたが、出展数は81点と昨年度より20%増でした。なかには、特別支援学校3校で行った陶芸出前講座で制作された作品の出展もありました。これらのことから、今年度の目標は達成できたと考えています。来年度は、県内の障害福祉サービス事業所などを対象に「コロナ禍における障がい者の芸術文化活動の取り組みについて」というテーマでアンケート調査を行う予定です。そのアンケート調査をもとに、ワークショップやウェブ展覧会なども開催し、より参加しやすい新しいスタイルを考えていきたいと思っています。

# 愛媛県障がい者アートサポートセンター

〒790-0843 愛媛県松山市道後町2-12-11 愛媛県身体障がい者福祉センター内

TEL 089-924-2170 FAX 089-923-3717 MAIL art-support@ehime-swc.or.jp URL https://www.ehime-swc.or.jp/facility/art-support/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 愛媛県社会福祉事業団

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 2年/2019(令和元)年度より開始

支援実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県内での障がい者の芸術文化活動を振興するため、2015(平成27)年から障がい者アートの公募展や研修会が継続開催されています。2019(令和元)年度には、障がい者芸術文化祭として、県美術館での障がい者アートの公募展に加え、その近隣の商店街でステージ発表など舞台芸術分野の取り組みも行われるようになりました。障がい者アートの公募展は、個人・団体(障害福祉サービス事業所など)から幅広く応募があり、回を重ねるごとに応募作品数が増えています(71点→274点)。一方で、ステー

ジ発表は7組であり、うち5組は個人となっており、障害福祉サービス事業所からの応募が少ない現状がありました。その原因は2019年度に障害福祉サービス事業所などを対象に行った「芸術文化活動状況のアンケート」(回答数117件)の結果から推測すると、「芸術文化活動に関心をもっている」と回答した施設(全体の90%以上)のうち、「行っていない」と回答した施設は40%程度あり、取り組みない理由として「指導者の確保、支援の方法」が課題に挙がっていました。

### 今年度の目標

①多くの障がい者が芸術文化活動に取り組めること、②障がい者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増えること、③「①②」の土台になる障害福祉サービス事業所などの支援者に対する支援(育成、活動支援など)に取り組むことにしました。アンケートでは「芸術文化活動を支援する講師の派遣や支援者の講習を希望」「専門家のアドバイスによって作品がより良くなると思う」といった声が寄せられていたため、障がい者や支援者がプロの

アーティストから直接アドバイスを受ける機会をつくることにしました。目標達成は、事後アンケートの肯定的な意見、外部指導者派遣先10団体(舞台芸術分野希望3団体、美術分野希望7団体)、障がい者芸術文化祭への参加者数(目標:ステージ発表8組、福祉事業所や団体による自由参加[展示パネル貸し出し]の作品展示10団体、障がい者アートの公募展の応募作品数300点)・新規参加者の増加をもって判断することにしました。

### 取り組み内容

音楽や舞台、絵画、イラスト、陶芸、木工、手工芸など各分野のプロのアーティストを指導者として派遣する外部指導者派遣事業を実施。派遣希望を募るため、県下の障害福祉サービス事業所などにメールや郵送で通知したほか、当センターのウェブサイトでも情報発信するとともに、個別相談の実績から関心をもたれている障がい当事者個人にもお声がけしました。山間部や島しょ部からも応募があるなど広く事業を知ってもらえ、応募は17団体+個人4人からありました。そのうち、希望や予定などの調整が

付いた14団体+個人4人に外部指導者派遣を行うことを決定。派遣前に指導者と当センター担当者が各事業所・団体を訪問し、活動状況やニーズの把握、指導内容の相談を行い、計画を立てました。個人の希望者には事前に顔合わせや相談会を行った後、当センターで全希望者が集まって実施しました。基本は3回ずつ派遣しましたが、放課後等デイサービス(3団体)については県美術館学芸員にご協力いただいて工作など1回派遣としました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成					ワークショップ (写真の撮り方)				ワーク ショップ (作品展示)			
関係者のネット ワークづくり			外部指導者 派遣事業打 ち合わせ会	障がい者芸術 文化活動推進 事業意見交換会								外部指導者派遣事業 意見交換会
発表の 機会の確保							障がい者芸術 文化祭(こころ 集まれ2020) 10月10日(土)		障がい者 芸術文化祭 (アート展) 12月3日(木) ~13日(日)			
							支援センター 作品展示		YouTube配信			
情報収集・発信							福祉施設訪問① (アーティストの 情報収集)					福祉施設訪問② (活動に対する内部から の援助などの情報収集)
事業評価及び 成果報告の とりまとめ												外部指導者派遣事業 など各種報告書作成



美術分野の取り組み例/共同制作



舞台芸術分野の取り組み例/ワークショップ



美術分野の取り組み例/張り子制作

### 成果の達成度、今後の展望について

募集団体数を10団体(舞台芸術分野希望3団体、美術分野希望7団体)と設定していたところ、17団体(舞台芸術分野希望2団体、美術分野希望15団体)に加え、個人4人からの応募があり、外部指導者派遣のニーズの高さを感じました。福祉施設などの支援者を対象とした指導(木工、陶芸)は、指導者がいない施設での活動の基盤づくりにつながったと考えます。事後アンケートでは、「技術や方法について学べた」「利用者の普段とは違う一面を発見」「職員の芸術文化活動に関する興味・関心の気づきがあった」「自分が何を描きたいのかを追求したい」といった感想がありました。また、舞台芸術分野に参加した福祉施設からは「忘年会のカラオケ大会が、利用者の希望により寸劇に。衣装も自分たちで用意するなど、表現活動

の楽しさを実感しました」という感想もありました。障がい者芸術文化祭は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によって規模を縮小したため、ステージ発表(事前収録)5組でしたが、福祉事業所や団体による自由参加の作品展示12組、障がい者アートの公募展の応募作品数397点と増え、外部指導者派遣利用をきっかけに初出展した人が7人もいて、一定程度目標を達成することができました。今後の展望としては、表現活動がもたらす豊かな生活の気づきなどを少しでも多くの人に体験・体感してもらえるように、各施設・事業所などが行う芸術文化活動の幅を広げられるような事業内容を検討し、支援していきたいと思えます。

# 藁工ミュージアム 分室

〒781-0074 高知県高知市南金田28 アートゾーン藁工倉庫  
TEL 088-879-6800 FAX 088-879-6800 MAIL info@warakoh.com URL https://warakoh-museum.com/



## 実施団体について

**団体名** 特定非営利活動法人 ワークスみらい高知

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 10年/2011(平成23)年度より開始

**支援センター実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

美術分野では、県内在住もしくは出身の障がいのある人を対象とした公募展「スピリットアート(高知県障害者美術展)」に向けた創作活動が活発です。しかし、活動の主眼が同公募展に参加することになっており、活動を行う本人や周囲の人の認識が「同展公募部門=美術活動」と固定化され、新たな表現が創出される環境ではないように見受けられます。舞台芸術分野では、施設においてダン

スや音楽といった活動は行われているものの、美術に比べて限定的です。これは、舞台芸術が身近ではないことに起因していると考えられます。なぜならば、「手話通訳・字幕・音声ガイドなどの鑑賞サポートがないため、鑑賞の機会に参加しづらい」「ワークショップなどの参加者募集事項にサポートの記載がないため、創作活動に参加しづらい」といった状況があると思われるからです。

### 今年度の目標

美術分野においては、障がいのある人や周囲の人が、公募を目的とせず、表現活動や新しい表現に出会うことを楽しむことができ、新たな表現を生み出していく手法や環境を考えていける人材を育てること、生まれ出た表現を固定概念にとらわれず、面白いことができる人たちを増やしていくことを目標とし、人材育成講座・ワークショップを5回程度実施、約70人の参加をめざしました。舞台芸術分野では、障がいのある人が舞台芸術に触れる機

会、主体的に参加できる機会を創出するとともに、障がいのある人の個性を魅力的に引き出しながら、障がいのある人との舞台芸術活動をともに継続して行っていくことができるアーティストや一般の人、文化施設、学校のほか、個人・団体問わず、多分野の仲間を増やしていくことを目標とし、人材育成講座・ワークショップなどを4回程度実施、約40人の参加をめざしました。

### 取り組み内容

美術分野では、ものの動きから生まれる偶然のカタチを楽しむワークショップやその手法を実戦形式で学ぶ講座を、福祉施設や文化施設と協働し開催しました。舞台芸術分野では、障がいのある人が出演する舞台公演の鑑賞の機会や、知的・身体など障害種別にかかわらず、障がいのある人が表現する機会やそのための手法を学ぶ

機会を、公共ホールと協働して創出しました。また、障がいのある人が主体的に参加できる作品づくりや、障がいのある人の特性を活かし、その人の魅力を引き出すような作品づくりに取り組みました。いずれの分野においても、新型コロナウイルス感染症などの感染対策を講じながら、仲間を増やすための交流会も行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成					ダンスワークショップ・オーディション	演劇に関する講座・ワークショップ	ダンスワークショップ	美術ワークショップ・講座 *2カ所にて実施				
関係者のネットワークづくり	企画会議(今年度事業全体、ダンス分野の人材育成)	企画会議(ダンス・美術分野の人材育成、演劇脚本制作)			企画会議(ダンス・美術分野の人材育成、ダンスワークショップ・オーディション交流会)	企画会議(ダンス分野の人材育成、演劇脚本制作)	企画会議(演劇脚本制作)	企画会議(演劇脚本制作、来年度の美術分野の人材育成)	企画会議(演劇脚本制作)	企画会議(演劇脚本制作、来年度のダンス・美術分野の人材育成など)	企画会議(演劇脚本制作、今年度のダンス・美術分野の人材育成と公演の振り返り、来年度の人材育成・展覧会・公演など)	企画会議(演劇脚本制作、今年度事業の振り返り、来年度事業全体)
発表の機会の確保					ダンスワークショップ・オーディション 8月22日(土)	展覧会作品出品協力 9月5日(土)~10日(木)	ダンスワークショップ・公演 10月16日(金)	ダンス作品 クリエイション 10月25日(日)~ 2021年1月19日(火)		ダンス公演 1月30日(土)・31日(日)		展覧会 3月1日(月)~31日(水) アーティストトーク 3月4日(木)
	展覧会 前期:4月19日(日)~7月26日(日)/後期:8月5日(水)~10月12日(月)											
	演劇脚本制作/脚本発表:3月29日(月)											
情報収集・発信	アンケート調査(調査目的:県内の芸術文化活動の状況・要望把握、事業計画考察と事業計画への活用/調査対象:県内福祉施設・特別支援学校)											
	ウェブサイト・SNS更新、作家・作品調査											
	情報収集 ※収集方法:各福祉施設や文化施設からの案内、SNSなどのインターネット、現地訪問・ヒアリング											
事業評価及び成果報告のとりまとめ	事業評価											報告書作成



多様性を育む美術プロジェクト「絵画ワークショップ&ファンリレーション講座」(©Uプロジェクト)の様子  
インテグレイテッド・ダンス・カンパニー響-Kyoワークショップ「響-Kyoと踊ろう!」の様子  
障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト「DANCE DRAMA『Breakthrough Journey』」作品づくりの様子

### 成果の達成度、今後の展望について

今年度重点的に取り組んだ人材育成事業は、美術分野では2回実施、62人が参加、舞台美術分野では3回実施、85人が参加しました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、当初の計画より回数は少なくなりましたが、事業を協働した「これまで障がいのある人の芸術文化活動に携わっていなかった福祉施設や文化施設」が、今年度以降も継続的に活動を行う予定のほか、「障がいのある人の美術分野の活動に取り組んでいた地域に根差した活動を行う文化施設」が、舞台芸術分野の活動にも取り組み始めたことから、障がいのある人の表現活動の幅や素地が広がったと感じています。また、芸術文化に携わる人たちが、障がいのある人の特性を魅力と

捉え、その魅力を活かした作品づくりに興味をもってくれたことから、今後もそのような作品づくりを継続して、一緒に協働してくれる福祉施設職員や文化施設職員、アーティスト、一般の人が増えています。美術、舞台芸術にかかわらず、障がいのある人が、幅広い芸術文化に触れたり幅広い表現活動に参加したり活動を行ったりできる土壌を築いていくためには、公共施設をはじめとするさまざまな団体や個人の協力が必要です。分野や枠を超えてネットワークを構築しながら、芸術文化活動を通じ、障がいのある人を一個人として対等に認め、障がいの有無にかかわらず、互いの違いを面白いことができる心豊かな社会に歩みを進めていきたいと考えています。

## FACT(福岡県障がい者芸術文化活動支援センター)

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1-602

TEL 092-516-0677 FAX 092-516-0677 MAIL fact@maruworks.org URL https://fact.or.jp



## 実施団体について

団体名 特定非営利活動法人 まる

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他( )

障害者芸術文化活動支援歴 24年/1997(平成9)年度より開始

支援実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

## 都道府県内の状況

2019(令和元)年度までの3年間は他団体が支援センターを運営し、引き継ぐ形で当センターを設立。昨年度までの支援センターが福祉事業所・団体を対象に実施した芸術活動のアンケート調査から、芸術活動に関心があっても「始め方がわからない」「人材を確保できない」という状況があり、特に筑後・筑豊地区では芸術活動を行う福祉事業所・団体が少ないうえ、文化施設などのネットワークも構築されていない現状がわかりました。以上から、芸

術活動を行うための情報提供や環境整備、人材育成のほか、活動の場を広げるために地域の文化施設などとの協働体制の構築などの必要性があると考えていました。更に、当法人運営の広域センターが2019年度に文化施設を対象に実施したアンケート調査では、県内の文化施設から「設備面の大規模改修が必要」「知識がないため、対応時に不安がある」といった声が寄せられたため、課題解決の方法を一緒に模索したいとも考えていました。

## 今年度の目標

大きな目標「県内に障害のある人がより活躍できるような芸術活動の環境が整備されること」に向けて、支援センター1年目の活動としてまず、「県内の実態を把握したうえで、来年度以降の展開を図るとともに、県内各地でネットワークを構築し、地域で生活する障害当事者の小さな声を届かせること」をめざしました。目標は、①レクチャー&相談会開催を通して福祉事業所や文化施設から課題と

今後の取り組みをヒアリングして現状を把握すること、②県内の民間の美術・造形教室や舞台芸術分野のサークルなどを対象にしたアンケート調査を行って現状を把握すること、③つながりのできた各関係者と来年度以降の計画を一緒に行うこと、以上を実現することをもって達成したと判断することにしました。

## 取り組み内容

障害のある人の芸術活動にまつわるレクチャー&相談会は、福祉事業所や文化施設の職員を対象に4回(舞台芸術、美術、作品のアウトプット、権利擁護)開催し、講師からのレクチャー後に、参加者の質問を入口に意見交換を行い、それぞれが抱える現在の課題や今後の展望などをヒアリングしました。また、「民間で文化芸術活動を行う教室やサークルへのアンケート調査」(県内141団体に依頼)を

実施し、県が県民や福祉事業所、県文化団体を対象に実施した「文化芸術の振興、文化芸術の環境、障害のある人の文化芸術活動の推進、文化芸術の発信に関するアンケート調査」結果と併せて分析し、障害のある人の芸術活動に関する課題や相談体制、支援者育成に関する施策の満足度などを調べました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成								レクチャー&相談会 (芸術活動の進め方 [舞台芸術編][美術編]、作品のアウトプット、芸術活動における権利の全4回)				リモート講座(作品をアウトプットする意義、地域でのアートムーブメント、障害のある人とアートで社会を変えるの全3回)
関係者のネットワークづくり				福岡県文化芸術振興審議会								
発表の機会の確保									企画展準備			企画展「LEADING 導く線」 3月25日(木)~30日(火)
情報収集・発信			ウェブサイト・SNS開設準備				民間で芸術活動を行う教室やサークルへのアンケート調査					
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



福岡アジア美術館で開催した「線」をテーマにした企画展「LEADING 導く線」メディア取材の影響もあり、約600人が来場



支援者の育成を目的としたリモート講座



県内事業所への訪問アドバイス

## 成果の達成度、今後の展望について

レクチャー&相談会では、活動検討中の福祉事業所や実践中の福祉事業所、障害のある人の鑑賞支援を考える文化施設の担当者が参加しており、意見交換や情報共有をしながら、県内の横断的なネットワークを構築できました。これにより、文化施設での障害のある人の作品展開催が決まったり、鑑賞支援に取り組みたい文化施設と福祉事業所をつないだりできました。また、アンケート調査では74件の回答(回収率:52.1%)があり、「障害のある人の受け入れが現在ではできていないが、今後可能」と回答する民間団体が多くあり、現在できていない要因として専門知識・指導能力・人材不足が挙げられていました。県

実施のアンケート調査結果も踏まえ、福祉事業所以外で芸術活動を行える環境整備や支援者育成に今後取り組んでいくとともに、県民に対して当センターの認知度を上げる活動も継続的に行う必要性を感じました。以上の2つの事業実施を通してつながった参加者とは継続的に相談や今後の取り組みについて来年度に向けて計画を行っており、新たなネットワークで本事業を進めていきたいと思えます。具体的には、障害のある人の芸術への鑑賞の機会の創出を目的に、文化施設で鑑賞ワークショップを開催するとともに、障害のある人の芸術活動の環境整備や発表の機会の創出を各地で構築していきたいと考えています。

# Saga ArtBrut Network Center (SANC)

〒849-0917 佐賀県佐賀市高木瀬町長瀬1168-1

TEL 080-2794-6195 FAX 0952-34-1024 MAIL info@s-brut.net URL http://s-brut.net/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 はる

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者文化活動支援歴 6年/2015(平成27)年度より開始

支援センター実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

佐賀県では近年、アートを中心に据えた福祉事業所による活躍と同時に、障がいのある作者本人や家族らによる個人単位での活動も活発化しています。また、多くの人でにぎわう県のイベントなどでも、障がいのあるアーティストによるライブペインティングや作品展示が行われるなど、さまざまな場所やメディアで活躍の様子が見られます。県内の福祉事業所などでも、余暇の過ごし方や進路の選択肢の一つとして、芸術活動への関心が高まっているなか、新たに芸術活動に取り組みたいと考えている事業所や支

援者も多く、そうした事業所や支援者に対して芸術活動の「一歩目を踏み出す」ための機会提供が引き続き、課題となっています。また、県内において、障がいのある人の芸術活動に積極的に取り組む人材同士の横のつながりが未だ乏しいことから、関係者同士のネットワーク形成も課題の一つとなっています。更に、2020(令和2)年3月以降、県内で新型コロナウイルス感染症の感染事例が報告されており、今後の事業実施に向けて、感染対策の体制を整えることが喫緊の課題となりました。

### 今年度の目標

次の3つを優先目標に掲げました。①一歩目を踏み出す。芸術活動に関心はあるけれど取り組めていない福祉事業所や支援者に対して、芸術活動の「一歩目を踏み出す」ための機会を提供する。②ネットワークの形成。支援センターを介さずにさまざまな場面で互いに協力・応援し合うネットワークの形成をめざし、福祉事業所などで芸術活動に取り組んでいる支援者や作者本人・家族、これか

ら取り組みたいと思っている人、関心のある人など、障がいのある人の芸術活動にかかわる人材同士が知り合い、交流できる機会を創出する。③新型コロナウイルス感染症の対策。障がいのある人や支援者、芸術活動に関心のある人が本事業の活動に安心して参加できるように、感染予防の体制を整えた状態で、今年度事業を実施する。

### 取り組み内容

①アクリル絵具やスポンジ、キャンパスなどさまざまな画材や素材に触れながら創作活動支援のコツを学ぶ「創作体験ワークショップ」を開催。福祉事業所や家庭での創作活動の第一歩として、画材などの紹介や絵を描くことの楽しさ、自由な発想を大事にする視点を体感的に学んでもらえる内容にしました。②展覧会「がばいアーティストたち」開催に向け、障がいのある作者や家族・福祉施設職員などさまざまな人で展覧会実行委員会を組織。

展覧会づくりを通じて交流を深めました。パフォーマンスを通してパフォーマー同士が交流を深める機会として、障がいの有無にかかわらず、人前での表現を楽しむステージイベント「スター発掘プロジェクト」を開催。③オンラインを活用しました。リモート化が難しいアトリエ活動などは、マスクの着用・消毒・検温・人数制限など、必要な対策を行ったうえで、対面で実施しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
相談支援	随時受付														
人材育成				大学授業連携プロジェクト (佐賀大学の学生が表現をきっかけに障がいのある人とかわり、障がいへの理解を深め、最終的にその成果を展示)			障がいのある方の表現とは?を考えるオンラインセミナー (「何だか気になる表現者たち」「表現は、生きるチカラ」「カタチにならない表現をひろう」の全3回)			創作体験ワークショップ (単発・4回)		身体表現ワークショップ (単発・4回)		権利擁護セミナー	
関係者のネットワークづくり	オープンアトリエの実施(月1回)														
発表の機会の確保											展覧会「がばいアーティストたち」 1月19日(火)~23日(土)		ステージイベント「スター発掘プロジェクト」 ステージ: 2月13日(土) オンライン: 2月27日(土)		
情報収集・発信			第1弾チラシ作成・県内施設などへのチラシ送付、メディア向けプレスリリースの発行		第2弾チラシ作成・県内施設などへのチラシ送付、メディア向けプレスリリースの発行				第3弾チラシ作成・県内施設などへのチラシ送付、メディア向けプレスリリースの発行						
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成			



一歩目を踏み出す「創作体験ワークショップ」



ネットワークの形成「スター発掘プロジェクト」



「スター発掘プロジェクト」は無観客(関係者のみ参加)・検温・消毒・ソーシャルディスタンス確保など感染症対策を行ったうえで開催。この日のパフォーマンスの様子を撮影し、後日オンラインで上映会を行った

### 成果の達成度、今後の展望について

①ワークショップには、福祉事業所の支援者を中心に19人の参加があり、さまざまな画材に触れていただきました。「楽しかった」などポジティブな感想を多く受けることができました。②展覧会の実行委員会活動を通して、参加者同士がつながり、そのネットワークがきっかけで、出展作家のグッズの販路拡大や個展開催、参加事業所での巡回展示など、新しい取り組みが生まれました。ステージイベントでは、出演者同士が意気投合し、個人的に連絡を取り合いながらミュージカルづくりに取り組む新たなパフォーマンスのプロジェクトが立ち上がりました。また、展覧会と

ステージイベントともに、イベント終了後も参加者・出演者複数人がSNS上で活発な交流を続けており、今後につながるネットワーク形成の成果が見られます。③事業内での感染拡大を避けながら事業実施できました。多くの企画をリモート化してオンライン、もしくは佐賀市内の会場での対面開催とした結果、県内の佐賀市以外の地域からの参加が半減しました。来年度以降は、県内各地に赴いてワークショップを開催するなど、県内の広い範囲を対象に、オンラインでの参加環境が整っていない人でも気軽に参加できるように、実施方法の改善に取り組みます。

# 長崎県障害者社会参加推進センター 芸術文化活動支援事務局

〒852-8104 長崎県長崎市茂里町3-24 県総合福祉センター棟4階  
TEL 095-842-8178 FAX 095-849-4703 MAIL hdcps-suishin@mbn.nifty.com URL https://nagasaki-artsupport.com/



## 実施団体について

**団体名** 長崎県障害者社会参加推進センター

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 19年/2002(平成14)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

当団体は2002(平成14)年度から長崎県の補助事業として県内各地で県障害者芸術祭を主催し、発表・交流の場を提供しています。地域ごとの特性を活かしながら、障害者と音楽愛好者がともにステージをつくり上げる演目などに取り組んできました。そのなかで、各地の文化協会・連盟などでさまざまな芸術文化活動が営まれていること、また障害福祉サービス事業所などでは芸術文化活動を余暇活動や日中活動として取り入れているところが多く

あることを知りました。一方で、芸術文化と障害福祉の両分野の交流はまだ少なく、県障害者芸術祭の来場者も障害福祉分野の関係者が大半を占めています。障害者による芸術文化活動の魅力を県民に広く発信していく必要があること、また離島地域など交通の不便な地域や障害福祉サービス事業所などの支援がないところで芸術文化活動に取り組む個人にとっては発表・交流の場や情報が限られていることを感じていました。

### 今年度の目標

本事業に取り組むうえで掲げた大きな目標「1人でも多くの方が自分らしく芸術文化活動を楽しみ、毎日の生活がより豊かになること」に向けて今年度、優先的に取り組んだ目標は次の2つです。①県内で必要とされている支援と、芸術文化活動の取り組み状況を併せて把握し、来年度からの取り組み像を明確化する。「県内の障害福祉サービス事業所、NPO法人、当事者・家族団体など幅広くアンケート調査を行うことで広く意見を集め、多角的な

考え方につなげること」「障害福祉のほか、芸術やメディア、教育などの関係者から意見をもらうこと」をもって目標達成と判断します。②地域や環境によらず、誰もが発表・交流の機会をもてるようになり、障害の有無にかかわらず、より多くの県民に障害者の芸術文化活動に親しんでもらったりする。「誰もが参加できる発表、鑑賞、交流できる場を創出すること」をもって目標達成と判断します。

### 取り組み内容

①「長崎県における障がい者の文化芸術活動に関するアンケート調査」を実施。また、他分野の関係者による協力委員会(県内で先進的に芸術文化活動に取り組む障害福祉サービス事業所、メディア学の大学准教授、弁護士、学芸員、地元の新聞社、各障害種別団体の代表、県行政関連部署などでメンバー構成)を発足しました。アンケート調査の結果をまとめ、協力委員会で来年度はどんな目標を掲げていくの

か、そのためにどんな取り組みが効果的かについて協議しました。②当センターのウェブサイトを開設し、作品(美術・舞台芸術)の写真・動画を紹介するコンテンツを設置。障害者本人や家族、支援者などから随時投稿を募り、掲載できるようにしました。また、Instagramと連動させて、「いいね」やコメントなどで交流できる仕組みにもしています。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援												
人材育成												
関係者のネットワークづくり						協力委員会発足に向けて関係者訪問		第1回協力委員会(事業概要説明、アンケート調査結果の共有)				第2回協力委員会(書面報告・事業報告、来年度の計画承認)
発表の機会の確保									県障害者芸術祭 作品展開催協力			ウェブサイト&コンテンツ完成
情報収集・発信						福祉事業所などアンケート調査(第1弾)実施	行政機関アンケート調査(各市町での取り組み状況・意識調査)			福祉事業所などアンケート調査(第2弾)実施		調査報告書作成・配布(調査対象者ほか、関係者)
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



第1回協力委員会の様子



アンケート調査報告書



例年開催してきた県障害者芸術祭

## 成果の達成度、今後の展望について

アンケート調査では、訪問・相談支援系を除く、県内すべての障害福祉サービス事業所、NPO法人、当事者・家族団体1009件に配付し、425件から回答をいただきました。回答から、指導者確保を課題と感じている事業所が多いこと、商品化に取り組んでいるのに権利保護への意識が低いことなど、多くの課題があることが見えてきました。協力委員会では、アンケート回収率の低さ(=県内の事業所における芸術文化活動への興味の低さ)、興味はあっても取り組めていない事業所が多いこと、個人へ支援を届ける必要性など、各委員がそれぞれの立場でさまざまな視点や助言をくださいました。そのうえで、本事業を周知し、活用してもらうことを来年度の優先目標とし、フォー

ラム形式のセミナー開催や情報提供の充実、相談窓口の運営に取り組むという事業計画を立案できました。協力委員会では今後、相談事例の共有と、相談背景や活用できる資源についての意見交換を中心に協議し、小さな声から課題を見出し、更なる支援の充実と発展につなげる仕組みをつくっていきます。また、ウェブサイトについてはこれから多くの人たちに活用してもらえるように周知・広報活動に力を入れます。今後はウェブサイトを飛び出した展示会の開催、企業やイベントでの起用を円滑にするための「作家・作品バンク」としての活用も視野に入れ、段階的に発展させていきたいと考えています。

# 障害者芸術文化活動支援センター @熊本 愛隣館

〒861-0551 熊本県山鹿市津留2022

TEL 0968-43-2771 FAX 0968-43-2793 MAIL ailinkan@magma.jp URL http://aileans.com/saca



## 実施団体について

**団体名** 社会福祉法人 愛隣園（障害者支援施設 愛隣館）

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他（ ）

**障害者芸術文化活動支援歴** 8年／2013(平成25)年度より開始

**支援実績** モデル事業／ 2014  2015  2016  
本事業／ 2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

県内では「くまもと障がい者芸術展」をはじめとした展覧会が1年に複数開催され、障害のある人の芸術に触れる機会は増えていますが、当センター開催の展覧会で来場者の反応を見ると、日常で障害のある人との接点が少ないために、内面の豊かさや表現の独自性に気づけていない人が多い印象があります。一方で、これまでの取り組みにより、作家の周辺の人や展覧会を見て支援したいという人を中心としたネットワークが構築されるとともに、

障害のある人の芸術に対する関心も高まっており、当センターに行政や団体などから作品活用の問い合わせが増えています。県民が作品を通して感動や共感から障害のある人への理解を深める機会を創出する必要性と、関心をもつ人と積極的に連携することで、「作品を発表したい」「芸術活動を通して収入を得たい」など多様化する作家のニーズに合わせた活動の選択肢を増やしていくことができる可能性を感じていました。

### 今年度の目標

大目標「障害のある人たちが生きやすい社会につながる」に向け、今年度優先的に取り組んだ目標は次の2つ。  
①障害のある人の芸術に触れることで「障害」に対する価値観が変わる人が増えること。目標達成の指標・基準は、展覧会来場者のアンケート結果を分析し、障害のある人を「支援される存在」ではなく、「強さ、豊かさ、ユニークさに気づいた」「感動や勇気を与える存在という理解が深

まった」といった肯定的な意見が9割を超えること。②企業や地域活動団体など多様な主体で構成するネットワーク（県内の障害のある人の芸術活動支援の継続に向けて支援希望者[芸術、医療、福祉、教育、障害のある人・家族団体、企業、報道機関、行政など]でつながるネットワーク）を強化すること。目標達成の指標・基準は、そのネットワークを活かした新たな取り組み事例が1つ以上生まれること。

### 取り組み内容

①県民が障害のある人の芸術に触れる機会として4年連続開催する県立美術館本館での展覧会を開催。多くの県民に知ってもらうため、従来のプレスリリースなどの広報に加えてSNSを活用し、SNSで情報収集する若い層に対しても情報発信しました。また、特設サイトを開設して出展作家と作品を掲載したり、ギャラリートークの動画を閲覧できるようにしたりするほか、ウェブサイト閲覧者と来場者（帰宅後）が感想を送れるようにアンケートフォームを設

けたりなど工夫しました。②ネットワーク強化のため、関係者のメーリングリストやオンライン会議を通して、情報提供や共有、県内の障害のある人の芸術活動支援の展望を語り合いました。また、新たななかかわりを増やすために「①」のSNS活用の広報のほか、当センターのサイトリニューアルにあたり作家の制作風景動画を掲載するために、県内の若手クリエイターに制作を依頼するなど新たなつながりをつくりました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成						当センター長による人権啓発ウェブ講演	キュレーターによるギャラリートーク					
関係者のネットワークづくり			展覧会実行委員会（委員内での情報共有）		展覧会に向け、キュレーターと展示専門家と打ち合わせ（作家・構成など）		市民団体・企業との連携事業打ち合わせ①（作品の二次利用に向けて）	来年度展覧会に向けた会議（日時、会場、構成など）	市民団体・企業との連携事業打ち合わせ②（作品の二次利用方法）	事業所ネットワーク会議（二次利用、グッズ販売）		
発表の機会の確保					展覧会・ウェブサイト公開用の制作風景動画作成	他県展覧会協力	展覧会 10月6日（火）～18日（日）	移動美術館 11月1日（日）～7日（土）		移動美術館 1月5日（火）～19日（火）	個展協力（障害のある作家から協力要請があり、協力）	
情報収集・発信	ウェブサイト・SNS更新、登録者へのメール配信											
事業評価及び成果報告のとりまとめ											報告書作成	

実践報告まとめ作成  
(当センタースタッフが活動のなかで学んだことを冊子にまとめ、関係団体に配布)



熊本県立美術館での展覧会。テープカットの様子



YouTube配信によるギャラリートーク



新たなネットワークで生まれたコラボTシャツ

## 成果の達成度、今後の展望について

①今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が懸念されましたが、展覧会の来場者は例年と同程度の2044人で、障害のある人の芸術に対する県民の関心の高まりを感じました。アンケートでは「どの作品もその人の力強さが出ていて『うわっ!』が止まりませんでした」「一人ひとりから力強いメッセージが伝わってきます」といった声が寄せられ、自由記述を分析すると9割を超える人たちがこれまでの価値観を覆されたといった肯定的な感想を残していました。②「①」の展覧会に来場した市民団体やアパレル企業が、障害のある人の芸術に興味をもち、作品を二次利用したいとの申し出がありました。ネットワークに参加する作家の協力を得て、制作の見学会を

実施したり、作品を使用したTシャツを制作したり、今後も洋服やバッグなどのデザイン起用の可能性が出てきたりなどしました。新たに接点のできた団体や企業、個人が増え、ネットワークの強化につながりましたし、作家の活躍の場を増やして収入につながる事業への発展も期待できます。今後の展望として、引き続き、障害のある人の芸術作品に触れる機会や触れやすい環境を創出して県民の心を揺さぶる取り組みを続けるとともに、毎年強化されていくネットワークを活かして作家のニーズに合わせた二次利用や販売にも取り組みます。また、活動の発信と積極的ななかかわりを大切に、中間支援の役割強化を図り、同じ目的を掲げる団体と連携していきたいと考えています。

# おおいた障がい者芸術文化支援センター

〒870-0029 大分県大分市高砂町2-33 iichiko総合文化センター4階  
TEL 097-533-4505 FAX 097-533-4013 MAIL artbrut-oita@emo.or.jp URL https://artbrut-oita.com/



## 実施団体について

**団体名** 公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 2年/2019(令和元)年度より開始

**支援実績** モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

2018(平成30)年開催の「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会(以下、障文祭)」では、県内全市町村で障がいのある人の作品展などが行われ、来場者に大きな感動をもたらすとともに、障がいのある人が美術館やホールを訪れる契機になりました。これを機に、県では障がいのある人の芸術文化活動の定着と発表の機会などの更なる拡大を図るため、県の芸術文化の発信拠点である芸術文化ゾーン(県立美術館と県立総合文化センター)に

当センターを開設し、芸術と福祉を一体的に支援する仕組みを構築しました。県内の障がいのある人の芸術文化活動は、個々の福祉事業所の取り組みが中心で、事業所の規模や財政状況などによって支援に大きな差が生じており、相談支援では当事者や事業所から「作品発表の機会がほしい」「鑑賞機会が少ない」といった声が多く寄せられていました。

### 今年度の目標

障がいの有無に関係なく多くの人々が芸術文化活動に取り組むことができる社会を実現するためには、まずは県民が障がいのある人の表現や作品を知り、障がいに対する理解と関心を高めることが重要と考え、昨年度に引き続き、美術館での企画展を継続開催しました。昨年度の企画展では延べ4832人の来場があったこと、2回目と

なる今年度は、県内の障がいのある人の公募作品展「第25回ときめき作品展」同時期開催による相乗効果が期待できること、一方で新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けることを勘案し、来場者数5000人をもって、目標達成と判断することにしました。

### 取り組み内容

企画展「あやなす ひかり」を県立美術館で開催。県内在住の障がいのある人の絵画、織り、陶芸などの作品、計68人229点を、3つのテーマ「奇」「彩」「絢」に分けて展示。出展者は、当センターがアウトリーチや調査発掘でかわりのあった作家や、障文祭のレガシー事業として障がいのある人の芸術文化活動に力を入れている市町村、「さをり織り」を訓練や作業に取り入れている福祉事業所などから選出しました。会期中はギャラリートークやさをり織りの公開制作を行うとともに、コロナ禍の状況を考慮し、

会場に出向かずとも展覧会を体感できる企画として、大分県商工観光労働部先端技術挑戦室との連携により、遠隔操作ロボット「アバター」を活用した鑑賞支援やギャラリートークを実施。また、以前よりSNSで作家紹介動画を配信していたことから、3種の動画「作家の制作風景(10組)」「ウェブ限定ギャラリートーク(3組)」「ウェブ展覧会」を制作し、YouTubeやSNSで切れ目のない情報発信を行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
	大分県障害者社会参加推進室と相談対応の詳細報告および今後の対応方針の協議(月1回)											
人材育成							鑑賞支援セミナー			セミナー①(新しい音楽が生まれるところ)	セミナー②(「福祉×アート&デザイン」社会とつながる～県内の事例～) セミナー③(仕事を通して広がる世界と覚悟～アートだけでなく、人生も広がるように～)	
関係者のネットワークづくり	随時(相談支援やアウトリーチ活動、事業企画相談を通して県内の福祉事業所や障害者関係団体などつながり、情報交換などを実施)											
発表の機会の確保							企画展			鑑賞支援付き舞台公演(日本舞踊)		
							特別支援学校における舞台芸術活動の創造機会(ダンス/12回)			オープンアトリエ(美術、ダンス/6回)		
							大分県立美術館内「gallery MAPO」にて随時、作品展			障がいのある作家による学校アウトリーチ(絵手紙、粘土造形/3回)		
										芸術専門家による福祉施設などへのアウトリーチ(絵画、グルーガンを使った造形、レインスティックづくり、絵画の共同制作、音楽[リズムを使ったコミュニケーションや連弾]/8回)		
情報収集・発信							調査・発掘(9回)	新パンフレット制作・配布	YouTubeチャンネル開設			
							ウェブサイト・SNS更新					
												過去に関係した福祉事業所や当事者、作家に、当センター事業の案内などをメール送信
事業評価及び成果報告のとりまとめ												報告書作成



企画展「あやなす ひかり」ポスター



企画展会場。県内から集めた「さをり織り」を展示



遠隔操作ロボット「アバター」鑑賞支援

### 成果の達成度、今後の展望について

企画展は12日間で延べ5193人の来場がありました。来場者アンケートの結果によると、展覧会内容への満足度は5段階評価のうち、最上位の「満足」が82.5%を占め、「発想が柔らかく、とても感心したり癒されたりした」「アートは性別、年齢、障がいの有無を超えることを実感。パワーをもらった」などの感想があったほか、「子どもが参加して一緒にできるワークショップなどもあると思う」「映画やショートフィルムなども観てみたい」といった更なる内容の充実も期待する声も寄せられました。企画展を通してセンターの認知度が高まったことから、福祉事業所や個人から芸術文化活動の取り組みに関する相談が増えて

おり、新しい取り組みへの意欲や興味・関心が高まっているのが感じられます。また、コロナ禍においては、遠隔操作ロボット「アバター」を活用して福祉施設などにいながら企画展を楽しんだり、作家が自宅にいながら会場にいる人にギャラリートークを行ったり、会場に来ることができない人に会場の様子がわかるように作品やギャラリートークの動画をネット配信したりできることは有益でした。今後は美術館での企画展を継続開催するとともに、創造機会の提供の場「オープンアトリエ」を大分市以外の市町村でも開催するなどして、障がいのある人の芸術文化活動への理解促進を図る活動を県内全域に広げていきます。

# 宮崎県障がい者芸術文化支援センター

〒880-0825 宮崎県宮崎市東大宮4-23-1

TEL 0985-27-2823 FAX 0985-89-6000 MAIL donkoya@jl.moo.jp URL http://donkoya.moo.jp/concept9.html



## 実施団体について

**団体名** 社会福祉法人 ゆくり(アートステーションどんこや)

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他( )

**障害者芸術文化活動支援歴** 27年/1994(平成6)年度より開始

**支援実績** モデル事業/ 2014  2015  2016  
本事業/ 2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 都道府県内の状況

宮崎県では、ごく一部の個人や団体が障がい者による芸術文化活動に盛んに取り組んでいます。広く普及していません。2019(令和元)年度に障害福祉サービス事業所に行った芸術文化活動に関するアンケート調査では、回収率は12%と低かったものの、「芸術文化活動に関心がある」と回答した事業所は40%、そのなかで実際に取り組んでいる事業所は63%。関心はあっても取り組めない理由として、「指導者・適任者がいない」「方法がわからない」「収入になるなら行ってみたい」といった現実

### 今年度の目標

本事業支援ガイドにある目的「より多くの障害者が芸術文化活動に取り組むことができる」をもとに、「障がいのある人の芸術文化活動に取り組める環境が整う」ことを今年度の目標としました。障がいのある当事者や障害福祉サービス事業所で、障がい者芸術文化活動(美術分野)が、もっと身近な活動になる環境をつくること、その環境で芸術文化活動が継続できるように支援することをめざしました。今年度は参加を呼びかけて待つのではなく、

### 取り組み内容

2019年度のアンケート調査先や当センターに相談のあった障害福祉サービス事業所を対象にアウトリーチ先を決め、重度障がい者施設2施設、放課後等デイサービス1事業所の計3カ所を訪問。アーティストに事業所に入ってもらうことで、各事業所の様態に合わせた無理のない支援方法を見つけ、今後の継続的な取り組みへのきっかけづくりになることをめざしました。たとえば、重度障がい者

的な問題、また「芸術文化活動はハードルが高い」といった意識があることが見えてきました。それを踏まえて昨年度は、芸術文化活動の魅力や可能性を知ってもらうきっかけづくりのワークショップやセミナー、作品展を行いました。しかし、当センターの認知度の低さや情報発信の不十分さから、いつも同じ個人や団体からの反応だけになっていたため、引き続き芸術文化活動ができる環境整備の普及や支援が課題でした。

当事者や障害福祉サービス事業所に働きかける(=アウトリーチ)ことで、情報収集や発信を行いました。目標達成の判断材料として、当事者用と支援員用のアンケートを用意。感想や意見だけでなく、芸術文化活動を通して見えた気づきや変化(当事者や支援者が自身の可能性を見出したり、状況が好転する兆しが見えたりなど)といった具体的な記述から、目標達成できたかを判断することにしました。

施設では、事前訪問(アーティストと一緒に、活動見学や当事者と支援員にインタビューなど)を2回行い、情報収集(調査)しました。その結果、当事者が常に支援員のサポートが必要で、天井を向いている方が多いとわかったので、1日目に短時間で色の変化を楽しめるワークショップを行い、2日目にその作品を天井に吊るして展示。当事者用と支援員用のアンケートは後日回収しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談支援	随時受付											
人材育成									視覚障がいと鑑賞交流会①(視覚障がいのある人4人、ガイドヘルパー、学芸員、当センタースタッフで美術鑑賞)	視覚障がいと鑑賞交流会②(視覚障がいのある人4人、学芸員、当センタースタッフで、「①」の振り返り)		
関係者のネットワークづくり			アウトリーチ(アーティスト派遣)の話し合い①	県立美術館訪問	視覚障害者センター訪問	アウトリーチ(アーティスト派遣)の話し合い②						
発表の機会の確保								アウトリーチ(アーティスト派遣)によるワークショップ(3カ所)				事業所巡回作品展(8事業所5カ所)
情報収集・発信			県内福祉施設訪問(普段の様子や取り組み状況などの情報収集、当センターや本事業の取り組み、国文祭・芸文祭みやぎの情報発信など)①				県内福祉施設訪問②(1カ所)					
			SNS更新									
事業評価及び成果報告のとりまとめ								「アウトリーチ(アーティスト派遣ワークショップ)」の事業評価	「視覚障がいと鑑賞交流会」の事業評価			報告書作成



天井にある自分たちの作品を見て喜ぶ参加者



紙の質感が気に入る参加者



身体を使って遊びを楽しむ参加者

## 成果の達成度、今後の展望について

アンケート(当事者用と支援員用の2種)では、当事者用には文字サイズを大きくして漢字にはふりがなを付け、支援員に代筆を頼むなどの工夫を行ったところ、3事業所全体の回収率は当事者48%、支援員63%でした。事業所によって差はありますが、当事者からは「楽しかった」「またやってみたい」のほかに、アーティストに興味を示す質問もありました。支援員からは「固定概念の芸術ではなく、身近なものでも表現を生み出せる可能性を知った」「いつも過ごしている空間に展示したことで、利用者さんの視線の変化を感じた」「日ごろ、療育に参加しない方が

参加していた」「重度障がいがあるために芸術文化活動に対して敬遠気味だった方がアートに触れられてよかった」などの回答が得られました。これら支援員の具体的な記述より、芸術文化活動をその事業所で取り入れられる可能性が見られたので、「障がいのある人の芸術文化活動に取り組める環境が整う」という目標をある程度達成したと考えられます。今後もこの3事業所について継続的な芸術文化活動が行われているかの調査や支援を行い、更にはその環境を他事業所や個人にも広げていきたいと考えています。

# アールブリュット推進センターGently

〒061-0231 北海道石狩郡当別町六軒町70-18 社会福祉法人ゆうゆう内  
TEL 0133-22-2896 FAX 0133-23-0811 MAIL gently@yu-yu.or.jp URL http://gently-artbrut.com/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 ゆうゆう

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者文化活動支援歴 6年/2015(平成27)年度より開始

広域センター実績  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### ブロック内の状況

1道3県のうち、青森県・岩手県に支援センターが設置され、北海道・秋田県が未実施となっています。青森県は2017(平成29)年度より同じ法人が継続的に支援センターを担っています。相談支援・公募展・研修といった事業の基本要素を県内の各機関・専門家と連携することで限られた予算で実現しています。一方でこれまでの視察やアンケート調査により、障害者の芸術活動への理解はまだ

難しい状況にあることがうかがえます。岩手県は2018(平成30)年度に設置されて3年目ですが、県内では以前から障害者の芸術活動への取り組みや理解が根づいており、福祉団体や美術館などと連携しながら事業を実施しています。秋田県では2017年度に一度設置されましたが、2018年度以降は未実施。北海道は設置検討中との回答を得ており、適宜情報交換を行っているところです。

### 今年度の目標

①青森県の「障害者の芸術活動に関心をもつ人は増えたものの、福祉事業所が創作支援や活動を始めるところまで至らない」といった課題に対して、ブロック内の支援センターで共同開催する合同展などの作品発表の場づくりを活用し、福祉関係者に向けて、活動・取り組みの価値や必要性を伝えることを目標に掲げました。②岩手県では作

品調査について学びたいというニーズがあり、ブロック研修において作品調査勉強会として取り上げることにしました。成果目標達成を判断するための指標・基準は、①では入場者数およびアンケート(本展で障害者の芸術やアール・ブリュットについての関心は高まりましたかなど)結果、②では研修参加者の成果発表をもって理解達成としました。

### 取り組み内容

①では、ブロック合同展(2021[令和3]年1月開催)において出展作家たちの創作活動の変遷や始まりに焦点を当てることで、支援者や福祉事業所が日ごろ接している当事者や支援の現場に創作のきっかけを見つけるヒントにしようことをめざしました。また、オンライントークで出展作家の一人が所属する福祉事業所の創作活動を取り上げ、創作活動を取り入れる理由や事業所にとっての価値、意義について実践事例を紹介しました。舞台芸術の発表会「ショウケース」においても、今年度の見どころを紹介

するオンライントークを配信し、個人から大人数グループ、ジャンルも音楽や伝統芸能など多岐に渡る参加者の活動を取り上げながら、それぞれの魅力や価値、意義を紹介しました。②ブロック研修は作品調査をテーマに開催。障害者の作品を専門的に扱う美術館の学芸員と福祉事業所の芸術担当者を講師に招き、調査の視点や目的、障害者の芸術活動において何を大切にしているかなどに注目した講義と、参加者によるディスカッションを行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブロック連絡会議			議題:各支援センターの今年度事業計画の共有・ブロック連携事業の提案				議題:ブロック連携事業の協議、地方公共団体における障害者文化芸術活動推進計画策定の推進に関する研修					議題:各支援センター事業報告と来年度事業に向けた意見収集
ブロック研修							作品調査勉強会(オンライン)	合同展運営チーム				
発表の機会の創出			※日程の見直しを行う	舞台芸術の発表会「ショウケース」開催日程発表 ※コロナ禍により、例年からみでの日程・参加者募集の延期を周知			障害者の文化芸術フェスティバル in北海道ブロック 10月3日(土)~12月20日(日)	ブロック合同展(札幌展) 1月20日(水)~24日(日)	ブロック合同展(青森展) 2月13日(土)~20日(土)	舞台芸術の発表会「ショウケース」 2月28日(日)	※オンラインで実施。公開終了期限なし	
その他(調査など)		道・県・支援センター状況調査							作品調査			報告書作成



ブロック合同展「始まりを探して」札幌展会場風景



ブロック合同展オンライントーク「帯広・愛灯学園の創作活動」



ハンディキャップシアターShow Time(舞台芸術の発表会「アール・ブリュットショウケース2020オンライン」より)

### 成果の達成度、今後の展望について

①では、ブロック合同展の札幌展で入場者数602人に対して福祉分野12人、青森展では入場者数433人に対して福祉分野17人よりアンケート回答を得られ、いずれも関心度は「高まった」「やや高まった」を合わせると100%と高い評価でした。来場した福祉関係者の反応は非常に良かったですが、青森県で開催した昨年度は入場者数428人に対して福祉分野の回答が30人でしたので、新型コロナウイルス感染症の感染予防のために来場を断念した福祉関係者も多かったと推測できます。②では、ブロック研修で参加者が作品調査に関する基本的な考え方や知識を習得できました。最終回のディスカッションで、参加者が講義で学んだことを各自の現場と照らし合せ、理想

とする調査を発表できたことで参加者の理解達成と当センターは判断しました。今年度は感染予防の観点からブロック内における作品調査は限定的にならざるを得ませんでした。ブロック合同展に向けた作家調査などにおいて研修成果が実践活用されました。今年度事業を進めるなかで創作支援に関する研修や講師に関する相談が寄せられるようになり、発表の場づくりや創作支援のスキルなど、次のステップに関するニーズが高まっていると言えます。今後の展望として、引き続き、コロナ禍による難しい局面への対応も予想されますので、各支援センターの状況を汲みながら、今年度のように柔軟かつ効果のある提案をしていきたいと考えています。

# ART(s) さいほく

〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1532-5 まちこうばGROOVIN'内

TEL 0493-81-4597 FAX 0493-81-4597 MAIL arts\_saihoku@subaru-swc.com URL https://www.subaru-swc.com/~groovin/



## 実施団体について

団体名 社会福祉法人 昴

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 2年 / 2019(令和元)年度より開始

広域センター実績  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### ブロック内の状況

2019(令和元)年度まで、当ブロックの広域センターを担っていた東京アール・ブリュットサポートセンターRightsに代わり、今年度に当団体が新たな広域センターになったため、事業開始にあたり、状況把握から始める必要がありました。まず、2019年度までは神奈川(※)・長野県には支援センターが未設置でした。2020(令和2)年度は千葉県の支援センターを新たな団体が担うこととなり、神奈川県では支援センター設置、長野県は東日本台風(2019年)被害の復旧が急務とされ、支援センター設置

は未定でした。また、新型コロナウイルス感染者数が首都圏を中心に多く、活発な取り組みがしばらくの事業スタート。本事業を推進するにあたり、先進的な取り組みを行う支援センターとのネットワーキングやノウハウ共有を促進するとともに、各都県の地域性を踏まえて行政や福祉事業所などとの連携を助言することで、支援センター活動の充実につなげるが必要と考えました。

※神奈川県には2017(平成29)年度に支援センターが設置されたが、その後未設置だった。

### 今年度の目標

3つの成果を重点目標に行いました。①長野県に支援センター設置、②障害のある人が芸術文化活動に取り組みやすくなるように、人材育成研修会やブロック合同作品展を通して、福祉事業所職員など支援者の視野を広げ、普段かかわっている障害のある人の行動や言動が表現活

動になり得ると認識してもらい、③新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、対面でのイベントができるかが不透明なため、オンライン上での展開を視野に入れ、記録を残すためのアーカイブ構築に取り組みました。

### 取り組み内容

①長野県の担当課への現状確認やブロック連絡会議・研修への参加を打診。②人材育成研修会では、障害のある人の表現活動の支援には作品づくりに加え、得意なことへの気づきやその力を活かすことが必要と考え、その一つとして商品化をテーマに実施。Tシャツブランド「ハードコアチョコレート」代表兼デザイナーMUNE氏を講師に迎え、Tシャツ制作について学びました。ブロック合同作品展は、当センターが埼玉県秩父郡横瀬町で継続開催してきた展覧会「アートセッション in」に、ブロック内の支援セ

ンターから企画趣旨に沿った作家を紹介してもらう形で開催しました。「表現のタネたち」という副題をつけた展示1回、オンライン展示1回を開催。③ブロック合同作品展の続編企画として作家5人を取材・撮影。また、福祉事業所関係者や作家が、職員と協働制作した作品や周囲に期待される優等生な表現ではない、その人独特の表現の魅力を語る座談会をYouTubeで公開し、事業成果のアーカイブとしました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブロック連絡会議				議題: ①各支援センターの紹介と事業計画の共有 ②ブロックの事業計画 ③情報・意見交換(コロナ禍における事業実施の工夫など)				議題: ①全国の障害者による文化芸術活動の実態把握に資する基礎調査 ②ブロック合同作品展 ③ブロック研修ヒアリング調査			議題: ①研修(支援ガイドを活用した事業計画と評価指標の作成) ②各支援センターの情報共有	
ブロック研修							商品化研修	計画策定推進研修			支援ガイド研修	
発表の機会創出		合同企画会議(テーマなどについてディスカッション)	合同企画会議(出展作家についての検討など)	作品情報収集、作者・事業所取材			合同企画会議(進捗の確認など)	ブロック合同作品展 11月20日(金)~22日(日)		取材	ブロック合同企画座談会 2月19日(金)	
訪問				各県訪問								
その他(調査など)		支援センター実施状況調査									報告書作成	

千葉県障害者文化芸術活動推進計画策定懇談会



ブロック合同作品展「アートセッション in 横瀬〜表現のタネたち〜」(会場:あしがほ楽校/埼玉県)



アートセッションのなかで行ったパフォーマンス・アート企画「誰かが始めないと始まらない、町を元気にしたい」踊ろう秩父音頭



「生きたキャンバスこそ、『Tシャツ』だ」と話す、人材育成研修会講師のMUNE氏

### 成果の達成度、今後の展望について

①長野県担当者のブロック連絡会議参加がなかったため、未達成。来年度は障害者芸術文化担当課だけではなく、芸術文化担当課へのアプローチや表現活動に取り組む福祉事業所・団体の調査を行う予定。②ブロック合同作品展では、5都県の支援センターの協力を得て、9団体17人の作家が出展。当センターが2018(平成30)年度から開催する展覧会を踏襲し、そのノウハウを活かして開催したため、開催する町の協力(場所提供、地域の団体紹介など)を得られました。支援センターにこのプロセスを共有したことで、地域の文化資源などの活用や地域住民・行政との連携の参考として、活動のヒントになったと考えます。また、人材育成研修会の参加者とブロック合同作品展の出展作家・団体を対象に行ったアンケートでは「作

品だけを評価するのではなく、行為や将来がその人のまわりの人たちの幸せをつくるという当たり前のことを認識させられた」「日常的に行っていることが作品として出展され、利用者に対する保護者や支援者の理解度が増した」といった意見が寄せられました。③オンラインでの取り組みが多かったため、映像での記録が増えました。ブロック合同企画のアーカイブを担うウェブサイトを開設し、映像などを公開。引き続き、収集した映像・画像をアーカイブするとともに、作家を紹介するコンテンツも制作予定。今後も、各支援センターと事業目標や意義を共有のもと、それぞれの強みを活かした取り組み提案や、課題もフォローし合いながら展開していきたいと考えます。

# 東海・北陸ブロック 障害者芸術文化活動広域支援センター

〒943-0834 新潟県上越市西城町2-10-25-307 社会福祉法人みんなでききる  
TEL 025-530-7264 FAX 025-530-7261 MAIL info@niigata-artbrut.net URL https://www.niigata-artbrut.net/



## 実施団体について

- 団体名** 社会福祉法人 みんなでききる
- 団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )
- 障害者芸術文化活動支援歴** 5年/2016(平成28)年度より開始
- 広域センター実績**  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### ブロック内の状況

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、例年までの事業展開から実施方法や内容を変更する必要がありました。特に2020(令和2)年度当初は、県をまたいだ移動が自粛となり、各県への巡回訪問や参加者が一堂に会する集合型の研修会やイベントの開催が困難となりました。各県の巡回を通じて事業を組み立ててきた当センターの事業スキームでは、まったく通用しない状況

になりました。加えて、ブロック内の支援センター6団体のうち3団体は福祉事業所の運営を行っており、それら事業所では利用者の安全配慮の観点から職員により強い行動制限が求められました。そのような状況のなか、ブロック内の支援センターの現状を把握・分析し、コロナ禍における広域センターの役割と効果的な事業を整理し、実施することが急務でした。

### 今年度の目標

最重要目標として、未実施県へのフォローを通じた来年度の2021(令和3)年度中に8県全県において支援センターが設置されることを指標としました。第2にブロック内の支援センター担当職員の資質向上、概ね月に1回の研修会の実施を指標としました。第3にコロナ禍に対応する

新しい事業展開として動画制作を通じた舞台芸術の普及啓発を目的とし、3県の活動紹介を行うことを指標としました。この指標・基準は、事前の支援センター担当職員へのヒアリングおよび予算などを考慮し設定しました。

### 取り組み内容

未実施県へのフォローについては、三重県は年度途中で支援センターを開設する見込みが出たため、資料提供や電話での相談対応を行いました。福井県は2020年10月と2021年3月に県庁および関係団体の巡回を行い、近況の確認を行いました。ブロック内の支援センター担当職員の資質向上については、オンラインで2020年5月より月1回ほど、テストも含めて8回の研修会を開催しました。時間は1回2時間とし、1時間を本事業の支援ガイドの評価

軸(「障害種別を問わず、参加可能な芸術文化活動の環境整備を支援する」など、ブロック内の課題やコロナ禍に対応する内容を選出)を協議題としたブロック連絡会議、次の1時間を研修の時間としました。研修の内容もブロック連絡会議と同様に同評価軸を考慮し、毎回とも講師を選定しました。動画制作は、2020年度は愛知県・静岡県・新潟県の支援センターから推薦のあった舞台芸術にかかわる取り組みを撮影し、YouTubeで公開しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ブロック連絡会議			議題: 各県の状況確認	議題: 障害種別を問わず、参加可能な芸術文化活動の環境整備を支援する	議題: 多様なメディアを活用し、障害者の芸術文化活動を紹介します	議題: 障害者の作品制作や表現の技術向上につながる機会が増える			議題: 地域に障害者の芸術文化活動を応援する人が増える	議題: 障害者の芸術文化活動に関する相談事が解決される	議題: 障害者の作品をレンタル、あるいは販売する		
ブロック研修			議題: 佐賀県芸術活動支援センター(SANC)の取り組みを学ぶ	議題: 福祉事業所における舞台芸術のマネジメント方法を学ぶ	議題: 意見広告「#障害者という言葉」に込められた思いと行動	議題: 遊びと演技と演出		ブロック実践報告会(三重県) 地方公共団体における障害者文化芸術活動推進計画策定の推進に関する研修(石川県)	議題: アーティストとしてのまちとのかかわり方	議題: いろんな声の受け止め方	議題: 命の問いかけに、待ったり、気づいたり		
発表の機会の創出		オンライン発表会 5月14日(木)					ブロック巡回展(愛知県) 10月23日(金)~25日(日)	障害者の文化芸術フェスティバルin 東海・北陸ブロック 11月28日(土)~12月13日(日)	舞台芸術(愛知県) 12月6日(日)		ブロック巡回展(愛知県) 2月9日(火)~14日(日)	ブロック巡回展(富山県) 3月6日(土)~31日(水)	ブロック巡回展(石川県) 3月19日(金)~23日(火)
巡回訪問				富山県		愛知県・静岡県	福井県	石川県・三重県					福井県
動画制作						愛知県・静岡県	新潟県						
その他		ウェブサイトリニューアル											報告書作成



第1回ブロック連絡会議・研修会の様子



テスト研修会: 瑞宝太鼓のミニ公演



「静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーとパフォーミングアーツフェスタ Look@me!」動画QRコード

### 成果の達成度、今後の展望について

未実施県へのフォローを続けたことで、2021年度には全8県で支援センターが開設される見込みとなりました。一方で、2021年度の各県の組織体制や予算規模、キャリアの差異が大きくなるため、支援センター職員の人材育成機関としての広域センターの役割が強くなり重要になります。その点で、第2目標として今年度実施したブロック内の支援センター担当職員の資質向上の取り組みが活用できます。実施方法をオンラインに変更したことにより、研修会を月1回ほど開催できただけではなく、移動のコストや時間を節約することができました。また、月1回の頻度で研修を実施したことで、単発ではなく継続的に評価軸を意識することができ、相談支援や情報発信、権利保護

など支援センターの役割について議論を積み上げることができました。オンラインの活用は、広い東海・北陸ブロックにおいて非常にマッチし、多様な学びやゲストとの交流を図るうえで今後も有効な方法です。動画制作については3件制作できました。また、シナリオの作成や字幕対応など動画を作成するうえでのノウハウも蓄積できました。見た人の反応など誰にでもわかりやすい有効な手段であるとわかりました。2020年度はコロナ禍で活動は制限されましたが、イベント型からより人材育成や新たな事業への挑戦などに広域センターの役割がシフトした1年となりました。

## 障害とアートの相談室

〒630-8044 奈良県奈良市六条西3-25-4

TEL 0742-43-7055 FAX 0742-49-5501 MAIL artsoudan@popo.or.jp URL https://artsoudan.tanpoponoye.org/



### 実施団体について

**団体名** 一般財団法人 たんぽぽの家

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者文化活動支援歴** 45年/1976(昭和51)年度より開始

**広域実績**  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### ブロック内の状況

本事業の前身であるモデル事業時から支援センターを設置している滋賀県や、以前より積極的に障害のある人のアート活動の支援に取り組んできた大阪府や京都府など、先駆的な取り組みを展開している府県が多い一方で、2019(令和元)年度から本格的に支援活動をスタートした和歌山県や兵庫県といった、これからの活動の広がりを模索している地域も存在していることが特徴として挙げられます。また、未実施県の奈良県においては、公募展

やワークショップなど、障害のある人にかかわる文化イベントは継続的に実施してきているものの、アート活動に関する基礎的な調査や相談支援といった細かなサポートに取り組めていないという実情があります。そして、特に今年度は近畿地方において新型コロナウイルス感染症が広がったこともあり、イベントの変更・中止といった影響を受けている団体が多かったように見受けられます。

### 今年度の目標

新型コロナウイルス感染症に焦点を当て、感染症によって障害のある人たちの創作活動がどのような影響を受けているかを把握するとともに、現在の社会状況においてもアート活動を続け、発信していく方法を模索することを目標としました。本目標の達成を判断する指標・基準として

は、明確な数値的基準は設定できていないものの、アンケート調査に対する回答率や、セミナー事業における参加者アンケートの満足度、動画コンテンツの視聴者数などを参考に判断することにしました。

### 取り組み内容

新型コロナウイルス感染症の影響を把握するための方策として、未実施県へのフォローという意味も兼ね、奈良県内の障害のある人を対象としたウェブアンケート「障害のある人のアート活動への新型コロナウイルスの影響に関する調査」を実施しました。これは2020(令和2)年6~7月にかけて実施したもので、奈良県障害福祉課の協力を得つつ、県内の全障害者福祉施設や個人の作家への協力を依頼しました。また、コロナ禍でのアート活動の発信の取り組みとしては、近畿2府4県で取り組まれているパフォーマンスアートを発信するためのオンラインショーケース公

演の配信(YouTubeを活用)や、Zoomを使用したオンラインセミナーの実施、インターネット上で3Dマップを作成できるウェブサービス「Matterport」を活用したオンライン展覧会づくりワークショップなど、さまざまなインターネットを用いた事業の試行をしました。これらの事業を通じ、コロナ禍において、直接の作品鑑賞や対面での人の交流が困難ななかでも、身近な道具や方法を用いることで、表現活動の発信や学びの機会をつくる可能性を模索。今後、それぞれの支援センターや福祉施設などが新たな発信方法を考えていくためのヒントとなることをめざしました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブロック連絡会議				議題:各センターから事業計画・「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」に向けた計画策定の進捗の報告など				議題:計画策定に向けた研修、各センターの取り組み状況の報告・相談など	舞台芸術活動の事例に関するミーティング			
セミナー												計4回: ①「からだであらわす」(演劇やパフォーマンス) ②「たのしむ、つたえる」(日常で表現を発見する工夫や見せ方) ③「はじめる、つづける」(活動開始時の準備や心構え) ④「まもって、ひろめる」(知的財産権)
ショーケース公演						オンラインショーケース公演①	オンラインショーケース公演②	字幕の作成、オリジナルの音声ガイド「おしゃべりガイド」の編集など、アーカイブ動画の制作				アーカイブ動画の公開
奈良県の障害のある人に向けた調査				奈良県の施設、個人に向けたアンケート調査の実施	集計・分析							追跡調査
オープンなアートスペースに関する調査				座談会(アートスペースの実践者へのヒアリング)の実施								アートスペースへの訪問調査
訪問	年間を通じて近畿で行われている障害のある人のアート活動に関するイベント(展覧会、公演、セミナーなど)に参加											



オンラインショーケース公演の収録会場の様子



オンラインセミナーの様子



展覧会づくりワークショップで作成したアトリエの3Dマップ

### 成果の達成度、今後の展望について

ウェブアンケートに関しては、福祉施設からは46件、個人からは5件の回答が得られました。決して多い回答ではないものの、過去に当法人が実施した奈良県内の障害のある人の表現活動に関する調査において、「アート活動を行っている」と回答した福祉施設が52件だったことから比較すると、ある程度の現状の把握にはつながったのではないかと考えられます。オンラインショーケース公演に関しては、2度の配信で660人の視聴者に舞台芸術公演を見てもらうことができ、その後のアーカイブ動画に関しても計12本の動画に429回の視聴があり、全体で1000人程度の観客に作品を届けることができました。上記の結果より、対面での舞台公演の実施が難しいなか、ある

程度広い範囲に発信ができたと言えるのではないのでしょうか。オンラインセミナーには全4回のセミナーに99人が参加。昨年度までのセミナー事業に比べると参加者数は減っており、広報の不足などが課題として残るものの、参加者のアンケートでは25件中23件が「とても満足」と回答し、オンラインであっても効果的な内容のセミナーを実施できたと考えています。対面でのイベント実施が難しい状況は来年度も続くと思われるため、広域センターとしてオンラインイベントの実施やその他の先進的事例の経験を集積しつつ、誰もが気軽に発信に取り組めるようなノウハウの共有をすることで、支援センターへのフォローにつながる事業モデルをつくることができました。

# 中国・四国 Artbrut Support Center

## パスレル passerelle

〒780-8014 高知県高知市塩屋崎町2-12-42

TEL 088-803-4100 FAX 088-803-4420 MAIL passerelle@blue-sky-kochi.com URL https://asc-passerelle.com/



### 実施団体について

団体名 特定非営利活動法人 脳損傷友の会高知青い空

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者芸術文化活動支援歴 1年/2020(令和2)年度より開始

広域センター実績  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### ブロック内の状況

支援センターの設置は、2017(平成29)年度1県、2018(平成30)年度4県、2019(令和元)年度5県、2020(令和2)年度6県(鳥取県・島根県・広島県・徳島県・愛媛県・高知県)と徐々に増加してきました。昨年度までの支援分野は、5県とも美術は行っていたのに対し、舞台芸術は1県のみであり、舞台芸術分野の取り組みが少ない状況がありました。本事業開始から3年間は広域センターが不在だった

ため、情報交換の場がない、先駆的な取り組みを行う団体のノウハウなどを共有する場がない、研修の場がないといった課題があり、昨年度は連携事務局主催によるブロック連絡会議やフォーラムを通じてカバーしているという状況でした。今年度、当センターが広域センターを担うことになり、ブロック内の支援センターと自治体担当者との関係性を構築するところからの事業スタートでした。

### 今年度の目標

重点的に取り組む目標として、①広域センターと支援センター・自治体担当者間、支援センター間で、交流や連携の促進をするとともに、そのためのネットワークを構築すること、②未実施県である岡山県・山口県・香川県への実施に向けた支援として同3県の活動団体に対する相談支援や情報提供、自治体に対する働きかけ、③障害者の活躍の場を広げ、多様な主体との交流を促進するための発表の

機会の確保、以上の3つを掲げました。それぞれの目標達成は、①ブロック連絡会議・研修会の回数と参加率、支援センター・自治体担当者の感想、ブロック連絡会議以外の支援センター・自治体担当者が交流する機会の回数、②相談・情報提供の支援件数、支援センター設置に向けたプロポーザルの公示等実績、③企画実施実績と来場者・応募者数、来場者・応募者の感想から判断することにしました。

### 取り組み内容

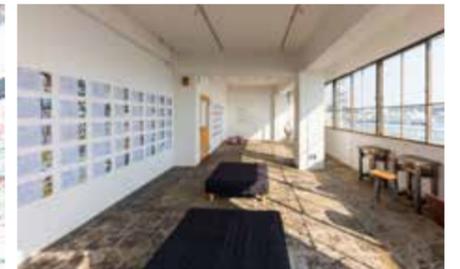
①～③の目標を達成するために、以下の取り組みを行いました。①新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、オンラインと対面のハイブリッド形式でブロック連絡会議・研修会を実施。支援センターや県担当者が気軽に発言しやすいオンラインの交流サロンとして「ふらっとFlat」を開設(以上Zoom、各3回)。往来規制のない県を訪問(4県10回)。②未実施県の活動団体に他県の支援センターを紹介し、事業説明。当該自治体担当者へのヒアリングや働きかけ。支援センター設置に向けた「支援検討委

員会」へ定期的に参加。③未実施県の岡山県にある生活介護事業所の企画を発掘して連携し、事業所以外の人にも見える・かかわれる形にプロデュースした展覧会「なんでそんなんエキスポ」を実施。特設ウェブサイトで事例(=作品)を収集し、ホステルの宿泊ルームを会場としました。最終日には審査会と大賞の発表、審査委員の有識者によるシンポジウムも開催。広報にも注力し、各県の関係施設と福祉事業所(約3800施設)にフライヤーを送付しました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブロック連絡会議				議題:顔合わせ、年間事業計画の共有				議題:年間事業計画の進捗・展望の共有				議題:今年度の振り返り、本事業報告書の内容の共有
ブロック研修								地方公共団体における計画策定に向けた研修			支援ガイドを活用した事業計画と評価指標の作成について	
発表の機会の創出								なんでそんなんエキスポ 11月1日(日)～2021年2月20日(土)			なんでそんなんエキスポ 2月6日(土)～21日(日)	
訪問		香川県			香川県 岡山県	香川県	愛媛県				高知県	香川県
ネットワーク				ふらっとFlat①		ふらっとFlat②				ふらっとFlat③		
評価委員会								議題:事業報告、今後の事業計画、意見交換				議題:事業報告、意見交換



なんでそんなん大賞「オポットくん」



「なんでそんなんエキスポ」応募者一覧



評価委員会の様子

### 成果の達成度、今後の展望について

①～③のそれぞれの成果は、次の通りです。①の取り組みを通じて支援センター・県担当者全員と顔を合わせ話せました。「ふらっとFlat」は回を重ねるごとに参加人数が増加(4人→2人→5人)し、参加者からは「気軽に話せるのがいい」「自県でもこの仕組みを取り入れたい」といった感想が聞かれ、対面での交流が制限されるなか、狭い範囲ながらも交流を深められました。支援センター3カ所、未実施県の岡山県の福祉事業所を訪問し、本事業の説明や情報交換を行ったことで交流を深め、連携の促進に効果がありました。②の取り組みを通じて、未実施県の香川県は来年度、支援センター設置に向けて公募を開始。一方、未実施県の芸術活動に取り組んでいる障害福祉施設と児童福祉施設など活動団体に対する相談支援

や情報提供は2件と少なく、広域センターの認知度を上げるための広報活動が必要です。③「なんでそんなんエキスポ」の来場者数543人、応募者数92件。フライヤー郵送後に応募者が増えたことから、ウェブサイトやSNSでは情報が届かない個人・団体が存在することがうかがえました。本企画では、中間支援という概念を最大限に解釈し、発表の機会の創出はもちろん、あらゆる表現行為に注目し、行為者や表現者のみならず、表現を発見する人という視点を含めて評価する新機軸を打ち立てられました。今まで問題行動として切り捨てられていた行いに愛をもって接せられる人材の育成、萎縮することなく表現活動を楽しめる人材の創出につながる視点を、ブロック内のみならず、全国に発信できたと考えます。

# 九州障害者アートサポートセンター

〒815-0041 福岡県福岡市南区野間1-13-1-602

TEL 092-516-0677 FAX 092-516-0677 MAIL info@kda-support.org URL http://kda-support.org



## 実施団体について

**団体名** 特定非営利活動法人 まる

**団体の種類**  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

**障害者文化活動支援歴** 24年 / 1997(平成9)年度より開始

**広域実績**  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### ブロック内の状況

2020(令和元)年度は長崎県に新たに支援センターが設置され、福岡県では弊団体が支援センターを引き継ぐことになり、九州8県のうち、6県に支援センターが設置されました。各支援センターに対しては、地域の芸術、教育、経済などの領域との協働できる環境を構築していくために、ブロック連絡会議や研修会で、各支援センターと文化施設団体などとのネットワークを強化する必要性がありました。また、全体的に支援する対象分野が美術に偏りが

あるため、各地で舞台芸術活動を広めることを目的とした表現ワークショップの開催ができるように、地元のアーティストと文化施設などと協力して開催できるパッケージプログラムを開発する予定がありました。未実施県の鹿児島県と沖縄県では、支援センター設置に向けての現地調査や芸術文化活動に関心の高い人材や団体のネットワーク構築を図る場の設置が必要と考えています。

### 今年度の目標

広域センターとして九州各県で障害のある人の芸術文化活動をサポートできる環境を構築することを成果目標に掲げました。その成果目標を達成する指標・基準として、①未実施県の鹿児島県・沖縄県に支援センターが来年

度以降に設置されること、そのために中心的に活動を担える団体を見つけること、②各支援センターが、地域の芸術・福祉の団体との協働が生まれるような取り組みをすることを設定しました。

### 取り組み内容

未実施県の鹿児島県・沖縄県では、芸術文化活動に継続的に取り組める環境づくりと参加者同士の横断的なネットワーク構築をめざしてワークショップを開催。内容は、2019(令和元)年度に開催した講座参加者からの要望を受け、鹿児島県では作品創作と展示に関するノウハウ、沖縄県では商品化のプロセスを学ぶとしました。また、2022(令和4)年度に全国障害者芸術・文化祭が開催される沖縄県では、県障害福祉課、支援センターにエントリーの意向を示す福祉事業所、沖縄アーツカウンシル、ワークショップ参加の福祉事業所を訪問調査し、支援センター設置に向けた情報提供やネットワーク構築のサポートを行いました。各支援センターへのサポートとして

は、当センターが昨年度文化施設を対象に実施した「合理的配慮に関するアンケート」結果をもとに、ブロック連絡会議などで情報の提供や交換を行いました。研修会では「支援ガイド」をもとに各地での課題を解決するために、文化施設などと協働した鑑賞ワークショップや発表の場を構築するための取り組みについて学び合いました。九州各地で表現ワークショップを展開していくことを目的に、ワークショップのパッケージプログラムづくりを行いました。ワークショップの内容は地元アーティストと相談して決定するスタイルで、今年度は福岡県で即興演劇の手法を使った身体表現を行いました。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブロック連絡会議				議題:各支援センターの事業計画共有、支援ガイドの説明				議題:障害者文化芸術に関する地方計画の策定状況や策定後の展開 ブロック研修会(全国の障害者による文化芸術活動の実態把握に資する基礎調査中間報告)				議題:各支援センターの相談内容のとりまとめ方、支援ガイドを使用した計画と評価指標、各地での文化施設などの公共団体とのつながりについて
ブロック研修									商品企画プロセスワークショップ(沖縄県) 創作体感&作品展示ワークショップ(鹿児島県)			
発表の機会の創出								表現ワークショップ(舞台芸術)			表現クリエイション(舞台芸術/計5回)	
訪問							展覧会視察(長崎県)	未実施県訪問			支援団体活動取材	
その他(調査など)											報告書作成	



支援センター設置に向けた訪問調査@沖縄



創作体感&作品展示ワークショップ@鹿児島



商品企画プロセスワークショップ@沖縄

### 成果の達成度、今後の展望について

未実施県である鹿児島県と沖縄県で開催したワークショップでは、福祉や芸術文化関係者、行政、民間など参加者同士の横断的なネットワークが生まれ、沖縄県では支援センター開設に向けた情報交換、鹿児島県では行政との協働イベント開催に向けた情報交換が継続的に行われています。同ワークショップ参加者との意見交換やアンケート回答をもとに、課題やニーズを洗い出し、来年度に向けた活動目標へとつなげていきます。また、沖縄県では訪問調査の成果として、支援センターにエントリーの意向を示す福祉事業所と県が協議を進めてきました。来年度設置は実現しなかったものの、2022(令和4)年度設置に向けて行政と福祉団体に対して情報交換や設置に向けた

サポートを続けます。鹿児島県では、訪問調査や講座開催でつながったネットワークを活かして、支援センター設置に向けて意向を示す団体も現れました。その団体への情報提供や行政への継続的なヒアリング調査などが課題として残っていますので、今後もサポートを続けていきます。各支援センターの地域のネットワークを広げていく取り組みに対しては、情報の提供や交換は行ったものの、発展にはつながっておらず、来年度は現地に足を運び、他団体との協働が生まれるフォローアップを行います。表現ワークショップのパッケージプログラムは、今年度の実践を踏まえ、来年度に各地で開催したいです。

# 連携事務局の 取り組み



支援センター、更には広域センターを横断的にサポートする事務局として「連携事務局」が設置されています。初年度から4年に渡って、美術分野は「社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～」が、舞台芸術分野は「社会福祉法人大阪障害者自立支援協会（国際障害者交流センター ビッグ・アイ）」が担っています。ここでは連携事務局の今年度の取り組みを紹介します。

# 社会福祉法人グロー (GLOW)

## ～生きることが光になる～

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2  
TEL 0748-46-8100 FAX 0748-46-8228 MAIL artbrut\_info@glow.or.jp URL http://glow.or.jp/



### 実施団体について

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者文化活動支援 9年/2012(平成24)年度より開始

連携事務局 実績 モデル事業/  2014  2015  2016  
本事業/  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 全国の状況

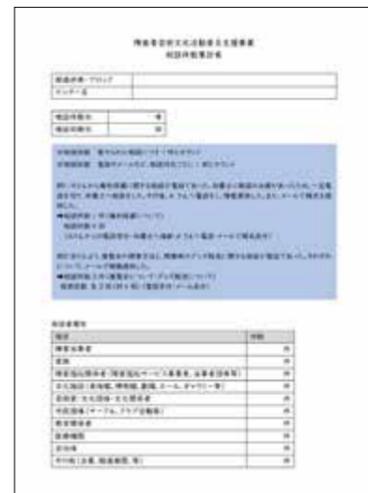
本事業が実施開始となった2017(平成29)年度は、支援センター20都府県(20団体)、広域センター3ブロックでの実施でしたが、着実に実施県が増え、今年度は支援センター35都府県(37団体)、広域センター6ブロックで実施。これらの結果は事業推進に必要性を認識した自治体のイニシアチブが発揮されたことや、広域センターと連携事務局の未実施県へのフォロー業務の成果が表れたことなどがあると考えられます。支援センターでは、発表の機会

や研修など各地で特色ある取り組みを行っていますが、その事例成果の共有が十分に行えていません。また、本事業の成果やこれまでに蓄積した情報がアーカイブされていない現状もあります。相談支援も全支援センターが実施しているものの、事例を共有する場が少なく、他支援センターの事例を参考にすることが困難です。相談件数のカウントや分類、集約方法にばらつきがあり、相談支援の全体概要の把握が課題としてありました。

### 今年度の目標

①ウェブサイトを活用した成果を共有する仕組みとアーカイブの環境が整備されること、②相談支援に関する様式の整備の必要性について支援センターとの共通理解ができることという、2つの成果の共有を今年度の目標としました。その目標達成を判断する指標と基準を、①につい

ては「支援センターがウェブサイトを活用したという事例が生まれること」とし、②については「全支援センターが整理した相談件数集計表様式を活用し、情報が集計されること」としました。



相談件数集計表様式

### 取り組み内容

①ウェブサイト活用については、現状の課題を整理し、改修を行いました。各センターがそれぞれのウェブサイトが発信する情報を収集・発信する仕組みは構築されていましたが、その情報を集積できない仕組みになっていたこと、各センターの取り組みは成果報告書を掲載するのみであったことが課題と考え、各センターから発信された情報を連携事務局でピックアップして掲載することで情報が集積される仕組みを構築しました。取り組み事例については、過年度の事例を内容別に分類して検索可能な形で掲載し、今後も情報を掲載できる仕組みとしました。そのほか、閲覧者が必要とする情報を入手しやすいように、サイト内のデザインや導線を再構築。文字と背景のコントラスト比を十分にもたせたり、キーボードのみの操作でサイトの閲覧を可能にしたりするなど、「JIS X 8341-3:2016」(※)に基づいたアクセシビリティの確保と向上に取り組

み、さまざまな人たちに閲覧してもらえることをめざしました。併せて、関係者ページを作成し、全支援センターで相談事例を共有できる仕組みも構築しました。②相談支援については、アンケート調査を実施し、各支援センターの取り組み状況や件数などの集約方法について現状を把握しました。その結果を踏まえ、相談件数集計表様式とデータベース項目案を作成し、広域センターとの会議で共有、意見交換を行いました。その後、広域センターとの意見交換をもとに修正し、全国連絡会議で支援センターに共有、意見集約を経て、様式を決定。年度末にはその様式を活用して全支援センターの相談件数を集約しました。

※「JIS X 8341-3:2016」とは、正式名称「高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ」。高齢者と障害者を含むすべての利用者が使用する端末やウェブブラウザ、支援技術などに関係なく、ウェブコンテンツを利用できるように定めたウェブアクセシビリティ規格。

### ウェブサイト



トップページ



取り組み事例ページ



取り組み事例検索画面



関連刊行物ページ

### 成果の達成度、今後の展望について

①ウェブサイト活用については、各センターの事例を共有したり、情報をアーカイブしたりできるようにウェブサイトを改修し、全センターへ周知することはできましたが、十分な活用までは至っていません。課題を整理して仕組みを検討することや、制作に当初の予定より時間を要したのが原因です。ピックアップ情報への掲載や相談事例の入力、取り組み事例の収集を効果的に行い、成果の共有につながる効果的な運用方法を今後整備していく必要があります。活用しやすいウェブサイトに向け、各センターから意見聴取し、来年度以降も引き続き見直しを行っていくことが重要です。②相談支援については、相談件数集

計表様式を活用し、各支援センターより情報を収集しました。様式に則った報告がありました。が、「様式の提案や活用が年度途中からであったことから集約が難しい項目がある」との声も聞かれ、全支援センターから同一の集計様式による情報を集約するには至っていません。来年度以降は相談支援状況の整理について支援センターの理解を深め、様式の活用につなげる必要があります。相談支援の全体の状況把握や経年変化なども計れるように相談件数の集約・分析を行い、必要に応じて集約様式の見直しも行っていく必要があります。

# 社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1 国際障害者交流センター ビッグ・アイ内  
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972 MAIL arts@big-i.jp URL https://www.big-i.jp/



## 実施団体について

団体の種類  行政  福祉団体  文化芸術団体  その他 ( )

障害者文化活動支援歴 20年/2001(平成13)年度より開始

連携実績 携局績  
モデル事業 /  2014  2015  2016  
本事業 /  2017  2018  2019  2020

## 2020(令和2)年度の取り組み

### 全国の状況

障害のある人の芸術文化活動の支援はここ数年で国や自治体の取り組みが拡充し、本事業においても美術や舞台芸術など分野を問わず、多様な活動への支援を行うことになりました。広域センターと支援センターの舞台芸術活動支援への取り組みは重要な役割を期待されている一方で、美術分野に比べると、取り組みが十分であるとは言えません。その理由として、広域センターと支援センターの多くは福祉事業所などの福祉団体であるため、「舞台芸術分野の専門人材がない。またはつながりがない」

「活動や発表する場所がない」といった専門性やノウハウ、情報不足などの課題が常に挙げられていたことがあります。今年度は、各センターで舞台芸術活動支援の取り組みを拡充していくことをめざして、まずは各支援センターがそれぞれの地域の舞台芸術活動の現状把握や活動団体、内容を知るところから始め、地域内における支援ニーズの把握やネットワークの構築につなげていく必要があると考えました。

### 今年度の目標

広域センターと支援センターが、それぞれの地域の舞台芸術活動の状況や、地域内で取り組まれている多様な分野、団体、個人の活動を調査することを通じて、各センターが中間支援組織として求められる舞台芸術活動支援に関するニーズを把握するとともに、支援活動において舞台芸術に関する専門性をもつ団体や個人との協働が必要であるという気づきや意識を得ることを目標としまし

た。また、現在、美術分野を対象としている支援センターマニュアルを補完できるコンテンツとして舞台芸術分野の事例を収集することも目標にしました。成果目標の達成を判断する指標・基準として、活動事例件数をセンター数×2事例以上として74事例以上を収集すること、活動事例はとりまとめて情報共有することを掲げました。

地域における障害者による舞台芸術活動好事例	
実施団体名	支援センター名
1. 実施団体について	
<input type="checkbox"/> 福祉センター <input type="checkbox"/> 福祉センター以外 <input type="checkbox"/> 障害者本人 <input type="checkbox"/> その他	
2. 実施場所について	
<input type="checkbox"/> 福祉センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> その他	
3. 実施ジャンルについて	
<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他
4. 実施内容について	
<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他	
5. 実施の経緯について	
<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他	
6. 実施の成果について	
<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他	

1. 実施団体について	<input type="checkbox"/> 福祉センター <input type="checkbox"/> 福祉センター以外 <input type="checkbox"/> 障害者本人 <input type="checkbox"/> その他
2. 実施場所について	<input type="checkbox"/> 福祉センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> その他
3. 実施ジャンルについて	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他
4. 実施内容について	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他
5. 実施の経緯について	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他
6. 実施の成果について	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他

実施団体	<input type="checkbox"/> 福祉センター <input type="checkbox"/> 福祉センター以外 <input type="checkbox"/> 障害者本人 <input type="checkbox"/> その他
実施場所	<input type="checkbox"/> 福祉センター <input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> その他
実施ジャンル	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他
実施内容	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他
実施の経緯	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他
実施の成果	<input type="checkbox"/> 演劇 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 舞踊 <input type="checkbox"/> その他

事例収集シート

## 取り組み内容

「地域における障害のある人による舞台芸術活動の好事例」収集として、支援センターに、地域で舞台芸術活動などに取り組む団体(個人)、その内容などの調査を依頼しました。支援センターが多様な分野や活動、団体(個人)に視野を広げて調査できるように、好事例シートのほかに、活動や取り組みの具体例など収集のポイントをまとめた資料も作成。広域センターには、ブロック内でのとりま

## 成果の達成度、今後の展望について

74事例以上を収集することを目標としていましたが、結果は49事例でした。目標を達成できなかった要因として各センターへの依頼後のフォローが足りなかったことや調査対象になる団体・個人が新型コロナウイルス感染症の影響によって活動できない状況であったことが挙げられます。活動事例の情報共有については、収集した事例をとりまとめ、データベース化・グラフ化しました。収集した事例を分析すると、実施団体、ジャンル、取り組み種別、地域それぞれに偏りがあり、なかでも都市部の活動事例に比べ、山間部における事例数が大幅に少なく、山間部における舞台芸術活動はまだ普及していないことがわかります(「取り組み地域[都市部・山間部]」グラフ参照)。また、鑑賞支援への取り組み事例が少ないことは、収集

とめと情報共有の役割を担ってもらい、ブロック連絡会議などの機会に収集した事例についてディスカッションし、ブロックから推薦する好事例を選定してもらいました。収集した事例は連携事務局でとりまとめて、好事例をデータベース化、項目ごとに集計してグラフ化し、全国の障害のある人の舞台芸術活動の状況や支援ノウハウ、効果的な取り組みを、全センターに共有しました。



「取り組み地域【都市部・山間部】」グラフ



「支援センター以外の実施団体」グラフ

# 連携事務局の年間の取り組み

以下の3つを事業の柱として掲げ、年間の事業に取り組みました。

## 事業の3本柱

### ① 地域の実態・現状把握

オンラインによる定期的な広域センター会議を開催し、広域センターを通じて各支援センターや各ブロックの情報を共有する場とします。これまでそうした機会が少なく、タイミングのよい情報収集ができていなかったためです。

### ② 成果の共有

各支援センターで行っている相談支援や発表の機会、研修など各地の特色ある取り組みの成果や実績を全国で共有し活用できるように情報を収集し、ウェブサイトを改修して公開します。

### ③ 多様なジャンルの支援推進

支援センターが多様な芸術文化ジャンルの支援を行うことができるように、美術分野に比べて支援が広がっていない舞台芸術分野について、各地での現状把握につながる事例の収集に取り組み、多様な芸術文化ジャンルを対象とした支援センターマニュアルの改訂につなげます。

## 事業内容

### ■ 全国連絡会議&オンライン研修の開催

広域センターと支援センター間の情報共有と意見交換を行うほか、知識やノウハウ、先進事例を共有する勉強会を開催する。



### ■ 南東北・北関東ブロックのフォロー

広域センター未設置の南東北・北関東ブロックで、ブロック連絡会議の開催や事業に関する相談などフォロー業務を行う。

### ■ 各ブロックの情報共有

広域センター会議を開催し、広域センターと連携事務局、厚生労働省間の情報共有と意見交換を行う。

### ■ 障害者芸術文化活動普及支援事業支援ガイド

(以下、支援ガイド)の活用促進及び成果報告会

支援センター自身による事業評価実施を推進するため、支援センターや広域センター向けに支援ガイドを活用した事業評価の研修会を開催する。更には支援センターが支援ガイドを活用した成果を共有する報告会を実施する。これらの取り組みの成果は、初版の支援ガイドに追記し、改訂版として公表する。

### ■ リソースのアーカイブ化

相談活動をめぐる現状の集約方法を整理する。過去の好事例や講師情報・刊行物一覧などの情報のアーカイブ化を行う。

### ■ ウェブサイトの活用とリニューアル、SNSの活用

本事業に関する情報を広く、深く共有・発信できるようにウェブサイトを改修する。ウェブサイトほか、SNSで芸術文化活動の情報収集・発信を行う。

### ■ リフレットの作成・活用

本事業を広く周知する目的でリーフレットを作成し、配布する。



### ■ 新型コロナウイルス感染症対策事例の収集と発信

対策事例をとりまとめ、支援センター間で共有できるようにウェブサイト上で発信する。

### ■ 支援センターマニュアルの改訂に向けて

現在の支援センターマニュアルを更に舞台芸術分野についても広げる改訂をめざし、今年度は各地域の舞台芸術活動の事例収集を行う。

### ■ 成果報告書の作成

本事業の全国での実施成果を共有・発信する報告書を取りまとめる。

事業項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全国連絡会議&オンライン研修の開催 担当:ビッグ・アイ				B オンライン研修①	D オンライン研修②			H 第1回全国連絡会議		J 第2回全国連絡会議		
南東北・北関東ブロックのフォロー 担当:ビッグ・アイ						G 南東北・北関東ブロック連絡会議①(ビッグ・アイ)+支援ガイド研修(グロー)		I 南東北・北関東ブロック連絡会議②+研修	舞台芸術事例収集~とりまとめ			連携事務局発行「成果報告書」データ作成フォロー、とりまとめ
各ブロックの情報共有 担当:グロー		A 第1回広域センター会議				F 第2回広域センター会議				K 第3回広域センター会議(ビッグ・アイ)		M 第4回広域センター会議
障害者芸術文化活動普及支援事業支援ガイド(以下、支援ガイド)の活用促進及び成果報告会 担当:グロー				C 支援ガイド研修①	E 支援ガイド研修②							L 成果報告会支援ガイド改訂
リソースのアーカイブ化 担当:グロー					相談支援活動アンケート調査実施	相談件数集計表様式案作成・共有			過去の好事例のアーカイブ化			相談件数集約
ウェブサイトの活用とリニューアル、SNSの活用 担当:グロー/ビッグ・アイ												リニューアルオープン 相談データベースフォーマット共有
リーフレットの作成・活用 担当:ビッグ・アイ					アンケート	検討						作成
新型コロナウイルス感染症対策事例の収集と発信 担当:グロー					対応事例集約実施	対応事例とりまとめ・共有						
支援センターマニュアルの改訂に向けて 担当:ビッグ・アイ						広域センター会議で方針の提案		支援センターに舞台芸術活動のヒアリング				とりまとめ・事例の分析・情報共有
成果報告書の作成 担当:ビッグ・アイ								プランニング・編集会議・デザイン案				原稿作成・編集・デザイン/全センターとりまとめ調整

## 実施概要

### A 第1回広域センター会議

日時 | 2020年5月26日(火) 14:00~15:30

開催方法 | オンライン (Zoom)

参加者 | 20人 (広域センター、連携事務局、厚生労働省)

内容 | 今年度の年間計画・重点項目(厚生労働省)、各ブロックの現状共有・今後の事業について(意見交換、連携事務局より提案)

### B オンライン研修①

日時 | 2020年7月29日(水) 15:00~16:15

開催方法 | オンライン (Zoom)

参加者 | 42人 (支援センター、広域センター、都道府県)

内容 | ・「令和元年度 全国の障害福祉サービス事業所等における文化芸術活動の実態に関する基礎調査のための研究」報告、「令和2年度 全国の障害者による文化芸術活動の実態把握に資する

基礎調査」説明(講師:株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員 大澤真雄氏)

・地域創造の事業のご紹介(講師:一般財団法人地域創造 芸術環境部 企画課長 中西享氏)

・「2019年度 地域の公立文化施設実態調査」公立文化施設/地方公共団体の活動状況について(講師:一般財団法人地域創造 総務部 三田真由美氏)

### C 支援ガイド研修①「支援ガイドの目的と活用方法について」

日時 | 2020年7月31日(金) 13:30~15:30

開催方法 | オンライン (Zoom)

参加者 | 26人 (支援センター、広域センター、都道府県)

内容 | 支援ガイドの概要や構成、評価について(講師:認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 清水潤子氏)

## 実施概要

### D オンライン研修②「オンラインアトリエの取り組み事例」

**日時** | 2020年8月5日 (水) 15:00～16:15

**開催方法** | オンライン (Zoom)

**参加者** | 52人 (支援センター、広域センター、都道府県)

**内容** | 支援センター2カ所からオンラインアトリエの取り組み事例報告 (報告者:岐阜県障がい者芸術文化支援センター [TASCぎふ] 堤鉄博氏、二村元子氏、武藤弘明氏/障害者芸術活動支援センター@宮城 [SOUP] 柴崎由美子氏、坂部認氏)

### E 支援ガイド研修②

#### 「支援ガイド活用に向けたロジックモデル構築研修」

**日時** | 2020年8月19日 (水) 9:30～12:00

**開催方法** | オンライン (Zoom)

**参加者** | 20人 (広域センター、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | 広域センターのロジックモデルづくり、活動や指標の設定など (講師:認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 清水潤子氏、群馬医療福祉大学 社会福祉学部 講師 新藤健太氏)

### F 第2回広域センター会議

**日時** | 2020年9月26日 (土) 10:30～11:30

**開催方法** | オンライン (Zoom)

**参加者** | 15人 (広域センター、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | 相談支援活動アンケートの集計結果の共有、相談件数集計表様式、相談事例の集約項目の提案

### G 南東北・北関東ブロック連絡会議①+支援ガイド研修

**日時** | 2020年9月26日 (土) 13:00～17:00

**開催方法** | オンライン (Zoom)

**参加者** | 24人 (南東北・北関東ブロックの支援センター、都道府県、広域センター、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | 支援ガイドを活用した事業評価と評価指標の作成について (講師:認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 清水潤子氏、群馬医療福祉大学 社会福祉学部 講師 新藤健太氏)

### H 第1回全国連絡会議

**日時** | 2020年10月6日 (火) 14:00～18:00

**開催方法** | オンライン (Zoom) ※ライブ・録画配信

**参加者** | 116人 (支援センター、広域センター、都道府県、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | ●計画策定推進についての報告 (厚生労働省、文化庁、大分県)

※以降、1、2、3については録画を後日配信

1. 「令和元年度 障害者による文化芸術活動の推進に向けた全国の美術館等における実態調査」報告、「令和2年度 障害者による文化芸術活動の推進に向けた劇場・音楽堂等における取組状況等の実態把握」説明 (報告者:文化庁)
2. 障害者の生涯学習支援活動に関する取り組みについて、「令和元年度 生涯学習を通じた共生社会の実現に関する調査研究」報告 (報告者:文部科学省)
3. Open Arts Networkの取り組みについて、「令和元年度 劇場・音楽堂等におけるアクセシビリティ実態調査」報告 (報告者:Open Arts Network)

### I 南東北・北関東ブロック連絡会議②+研修

**日時** | 2020年11月11日 (水) 11:00～16:40

**開催方法** | 対面 (開催場所:イオンコンパス東京八重洲会議室) とオンライン (Zoom)

**参加者** | 10人:対面3人・オンライン7人 (南東北・北関東ブロックの支援センター、都道府県、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | ●ブロック内の取り組みと進捗状況報告

●地方公共団体における計画策定に向けた研修 (ファシリテーター:株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員 大澤寅雄氏、オブザーバー:厚生労働省、文化庁)

### J 第2回全国連絡会議

**日時** | 2020年12月2日 (水) 13:30～17:00

**開催方法** | オンライン (Zoom) ※ライブ・録画配信

**参加者** | 112人 (支援センター、広域センター、都道府県、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | ●セッション1「文化芸術活動の中間支援について考える」/新しい仕組みを試行する中間支援機能～地域アーツカウンシルの取り組みから～ (講師:アーツカウンシル新潟/みやざき プログラムディレクター 杉浦幹男氏)、「文化の生態系」としての障害者の文化芸術活動～7つのブロック研修のヒアリングから～ (講師:株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室 主任研究員 大澤寅雄氏)

●セッション2「障害福祉の現場・支援に文化芸術がもたらすもの」/日常を豊かにするアートとのつき合い方～カプカブでの実践から～ (講師:特定非営利活動法人カプカブ 所長 鈴木勸滋氏)、芸術活動がエンパワメントや関係性の変化をもたらすからくり (講師:九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 中村美亜氏)

●セッション3「全国調査中間報告からみえる課題、可能性について」(パネルディスカッション モデレーター:大澤寅雄氏、パネリスト:杉浦幹男氏、鈴木勸滋氏、中村美亜氏)

### K 第3回広域センター会議

**日時** | 2021年1月20日 (水) 10:00～12:00

**開催方法** | オンライン (Zoom)

**参加者** | 16人 (広域センター、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | 舞台芸術分野の好事例について

### L 成果報告会

**日時** | 2021年3月2日 (火) 13:30～16:00

**開催方法** | オンライン (Zoom)

**参加者** | 75人 (支援センター、広域センター、都道府県、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | 支援ガイドを活用した事業の振り返り (講師:認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 清水潤子氏、群馬医療福祉大学 社会福祉学部 講師 新藤健太氏/事例報告:FACT[福岡県障がい者芸術文化活動支援センター])

### M 第4回広域センター会議

**日時** | 2021年3月2日 (火) 16:30～17:30

**開催方法** | オンライン (Zoom)

**参加者** | 16人 (広域センター、連携事務局、厚生労働省)

**内容** | 今年度事業の振り返り

# 南東北・北関東ブロックのフォロー

全国7ブロックのうち、広域センターが設置されたのは6ブロックでした。

設置されていない「南東北・北関東ブロック」について、連携事務局がフォロー業務を行いました。

## 実施内容

各支援センターに寄せられた障害者個人からの舞台芸術活動の場や障害者の芸術文化活動支援に関連する社会制度についての相談に対応する情報提供を随時行うほか、2回のブロック連絡会議・研修を開催しました。それぞれのブロック連絡会議・研修のねらいは次の通りです。

### ① 第1回ブロック連絡会議・研修

(オンライン開催、概要はP.102 [📌](#) 参照)

「支援ガイドを活用した事業計画と評価指標の作成について」と題して、各支援センターが支援ガイドを活用することによって、事業活動でめざす成果と、成果に導くための取り組み、そのプロセスを振り返り、どう評価するかについての研修を行いました。研修では、支援センターの活動をアウトカムに照らして振り返ったり評価指標を設定したりするグループワークを実施し、各支援センターの活動における実践や事業の振り返り、評価、改善などに活用することを体験しました。



## 今年度のフォロー業務を通してわかったこと (見えてきたこと、新たな情報など)

南東北・北関東ブロックは、広域センターの未設置がこれまでの課題となっていました。ブロック内には広域センターの役割を担えるノウハウや経験のある支援センターが

### ② 第2回ブロック連絡会議・研修

(対面+オンライン開催、概要はP.102 [📌](#) 参照)

最初に各支援センターの活動の充実や近県・ブロック内での協力関係を構築することをめざして、ブロック内の都道府県と支援センターの事業活動について情報共有や意見交換を行う時間を設けました。その後、地方公共団体による「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画」策定につなげるために、令和2年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業「全国の障害者による文化芸術活動の実態把握に資する基礎調査」の中間報告をもとに、全国の障害者による芸術文化活動の実態と現状を把握し、ブロック内の各地域における取り組みや課題などに関する意見交換の場を創出しました。



存在しており、広域センターの役割を担うことについて聞き取りしたところ、取り組みに必要な人材、予算など、活動団体や組織の規模によって難しいことがわかりました。

## 来年度に向けて

まずは、各地で広域センターを担える団体などの情報を集め、広域センター設置に向けた取り組みを行うことですが、未設置となった場合のフォローについて強化すべきであると考えます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、オンラインによる研修も定着してきたこともあ

り、広域センターに協力を仰ぎ、未設置ブロック内の都道府県や支援センター担当者を近隣の広域センターの研修に参加できるように情報提供することでフォローの充実が図れると思います。

# 数値で見る実績

「令和2年度障害者芸術文化活動普及支援事業」において、支援センター37カ所、広域センター6カ所で、地域の障害者の芸術文化活動に関する支援について、数値で表してみました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に新たに始まった「オンラインでの取り組み」も含めてみました。

対象センター(43カ所) | 支援センター | 37カ所 | 広域センター | 6カ所 | 対象期間: 事業開始日から2021年2月28日(日)ころまで

## 相談

相談件数(美術・舞台芸術の両分野)

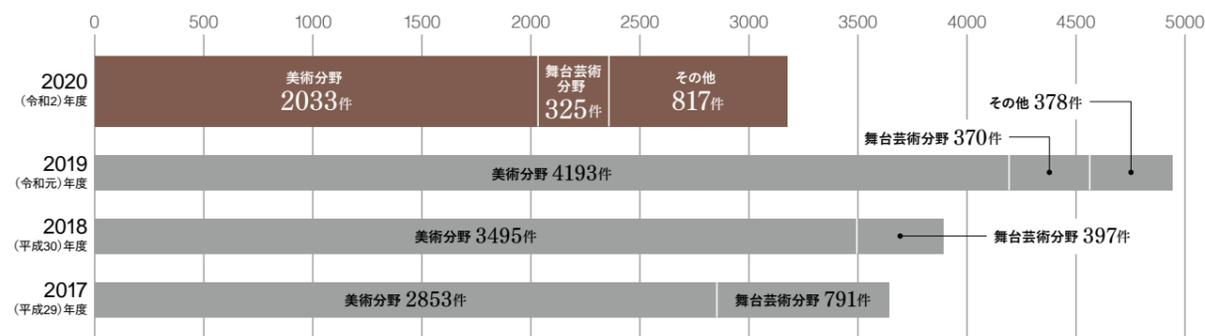
2020(令和2)年度 | 3175件(美術分野 | 2033件 / 舞台芸術分野 | 325件 / その他 | 817件)

2019(令和元)年度 | 4941件(美術分野 | 4193件 / 舞台芸術分野 | 370件 / その他 | 378件)

2018(平成30)年度 | 3892件(美術分野 | 3495件 / 舞台芸術分野 | 397件)

2017(平成29)年度 | 3644件(美術分野 | 2853件 / 舞台芸術分野 | 791件)

※相談に対応した回数でカウントしたセンターあり(2019年度は3カ所、2018年度は1カ所)。



障害のある当事者や支援者による芸術文化活動に関する相談です。美術分野は40のセンター、舞台芸術分野は26のセンターが相談対応しました(うち、件数は全センターがカウント)。相談件数は事業実施年数の長いセンターが多い傾向にあ

ります。また、今年度から相談件数集計表様式を作成し、相談件数のカウント方法を整理しました。2019年度までは回数を報告していた場合もあったため、件数が減ったということが考えられます。

## 研修会

支援に必要な知識や技術、著作権と権利保護関連などや、展覧会の制作を通じて、展示の知識やノウハウを学ぶ実践研修などです。38のセンターが行いました。

Zoomを利用した研修や対面とオンラインのハイブリッド形式、対面での研修会を申込者に後日配信といった方法でのオンライン研修を、26のセンターが行いました(うち、実施回数・参加者数は26、視聴回数は25のセンターがカウント)。なかにはZoomの使い方や相談ができる技術講習会を開催していたセンターもありました。

### 実施回数



### 参加者数



## 展覧会などの美術企画

展覧会や美術活動を体験するワークショップといった美術企画を、38のセンターが開催しました(うち、障害のある人の出展者・ワークショップ参加者数と来場者数は37のセンターがカウント)。

ウェブサイトでの作家・作品紹介や無観客展覧会の動画配信、Zoomを利用した美術活動を体験するワークショップといったオンライン企画に、24のセンターが取り組みました(うち、障害のある人の出展者・ワークショップ参加者数は23、閲覧者数は11、視聴回数は19のセンターがカウント)。

障害のある人が多く出展・参加したセンターは、地域から幅広く作品を募集する公募展や各地で開催するアウトリーチ作品展を開催していました。

## 公演などの舞台芸術企画

舞台公演や舞台芸術活動を体験するワークショップといった舞台芸術企画を、25のセンターが開催しました(うち、障害のある人の出演者・ワークショップ参加者数は23、来場者数は25のセンターがカウント)。

自宅・施設などからZoomで出演・参加、事前に撮影した映像や会場でのパフォーマンスをオンライン配信といったオンライン企画に、22のセンターが取り組みました(うち、障害のある人の出演者・ワークショップ参加者数は21、視聴者数は15、視聴回数は21のセンターがカウント)。

障害のある人が多く出演・参加したセンターでは、舞台芸術体験のワークショップを開催していました。

### 出展もしくはワークショップに参加した障害のある人 来場者数



※事業所・団体数でカウントしたセンターあり(2020年度は3カ所、2019年度・2018年度は1カ所)。

### 出演もしくはワークショップに参加した障害のある人 来場者数



※事業所・団体数でカウントしたセンターあり(2020年度・2019年度は1カ所)。

## 情報発信

テレビ、新聞などのメディアへの掲載、ウェブサイトやSNSなどに関する情報発信の取り組みです。

42のセンターのウェブサイトで、本事業に関する記事が2756件投稿されました。投稿数をカウントしていた39センターのうち、20件以下=14センター、21~50件=11センター、51~80件以上=5センター、81~100件=3センター、100~200件=4センター、201~300件=1センター、301件以上=1センターで、最多の投稿数は919件でした。アクセ

ス数をカウントしていた29のセンターで合計107万2695件のアクセスがありました。

新聞や雑誌、テレビ、ラジオなどに本事業が取り上げられた件数は393件でした。メディア掲載・報道数をカウントしていた41センターのうち、10件以下=30センター、11~20件=6センター、21~30件=2センター、31~40件=2センター、50件以上=1センターで、最多の掲載・報道数は89件でした。

### ウェブサイト 投稿数



※SNSの投稿数を含めているセンターもあり。

### ウェブサイト アクセス数



※SNSのアクセス数を含めているセンターもあり。

### メディア掲載・報道数



### オンラインでの取り組み/YouTube配信例



美術企画 | 展覧会



舞台芸術企画 | パフォーマンスの発表の場

## 全国の障害者数データ

	面積 (km <sup>2</sup> )	総人口 (人)	高齢化率 (%)	障害者数 (人)	身体障害者手帳 交付台帳 登録数 (人) ※	療育手帳交付 台帳登録数 (人) ※	精神障害者 保健福祉手帳交付 台帳登録数 (人)	特定医療費 (指定 難病) 受給者証 所持者数 (人)
全国	377,976	127,138,033	27.9	8,287,032	5,054,188	1,151,284	1,135,450	946,110
北海道	83,424	5,267,762	31.4	332,995	183,616	45,631	49,582	54,166
青森県	9,646	1,275,783	32.7	70,688	36,127	13,484	11,580	9,497
岩手県	15,275	1,235,517	32.8	74,584	41,099	12,283	11,947	9,255
秋田県	11,638	985,416	36.5	75,267	51,460	9,208	7,079	7,520
宮城県	7,282	2,292,385	27.7	94,220	48,198	12,027	15,908	18,087
山形県	9,323	1,082,296	33.1	62,876	40,514	9,007	6,157	7,198
福島県	13,784	1,881,981	30.7	92,481	46,230	18,818	14,056	13,377
茨城県	6,097	2,921,436	28.8	151,956	89,154	24,138	19,087	19,577
栃木県	6,408	1,965,516	28.2	101,946	55,863	18,130	14,041	13,912
群馬県	6,362	1,969,439	29.3	88,150	45,495	15,417	13,768	13,470
埼玉県	3,798	7,390,054	26.2	288,188	135,119	43,248	62,058	47,763
千葉県	5,158	6,319,772	26.9	251,089	121,560	36,846	49,453	43,230
東京都	2,194	13,834,925	22.6	789,734	473,240	93,171	127,505	95,818
神奈川県	2,416	9,209,442	25.0	276,089	98,599	28,258	90,419	58,813
山梨県	4,465	826,579	30.1	45,245	25,790	6,739	8,142	4,574
長野県	13,562	2,087,307	31.2	132,028	72,515	21,602	22,695	15,216
新潟県	12,584	2,236,042	32.0	107,885	60,772	13,381	16,859	16,873
富山県	4,248	1,055,999	31.7	51,124	27,754	8,264	7,311	7,795
石川県	4,186	1,139,612	29.2	53,851	26,590	9,310	8,770	9,181
福井県	4,191	780,053	29.8	46,014	26,188	6,824	7,063	5,939
岐阜県	10,621	2,032,490	29.6	116,274	66,796	19,758	17,934	11,786
静岡県	7,777	3,708,556	29.3	145,012	73,525	21,439	25,316	24,732
愛知県	5,173	7,575,530	24.7	282,114	122,561	40,947	75,345	43,261
三重県	5,774	1,813,859	29.2	116,951	72,024	15,465	15,127	14,335
滋賀県	4,017	1,420,948	25.7	74,718	38,206	14,771	11,175	10,566
京都府	4,612	2,545,899	28.9	122,730	68,878	11,574	20,755	21,523
大阪府	1,905	8,849,635	26.9	352,508	124,806	51,970	99,546	76,186
兵庫県	8,401	5,549,568	28.2	218,320	87,812	39,656	47,664	43,188
奈良県	3,691	1,353,837	30.8	102,431	64,341	13,019	12,897	12,174
和歌山県	4,725	954,258	32.4	63,567	36,539	10,506	8,209	8,313
鳥取県	3,507	561,175	31.5	35,702	18,598	5,664	6,869	4,571
島根県	6,708	679,324	33.8	45,758	24,260	7,819	7,546	6,133
岡山県	7,114	1,903,627	29.7	75,318	31,283	12,141	15,207	16,687
広島県	8,479	2,826,858	28.9	116,173	44,197	15,666	34,826	21,484
山口県	6,113	1,369,882	33.9	85,641	48,990	12,906	11,575	12,170
徳島県	4,147	742,505	32.7	55,364	34,676	8,519	5,627	6,542
香川県	1,877	981,280	30.7	48,010	25,111	7,837	6,179	8,883
愛媛県	5,676	1,369,131	32.3	78,780	42,249	14,809	10,678	11,044
高知県	7,104	709,230	34.6	43,967	25,889	6,594	5,842	5,642
福岡県	4,987	5,129,841	27.2	220,191	104,416	28,072	49,931	37,772
佐賀県	2,441	823,810	29.7	63,804	41,343	9,427	6,506	6,528
長崎県	4,131	1,350,769	32.1	77,245	36,627	15,752	12,190	12,676
熊本県	7,409	1,769,880	30.7	103,606	57,683	12,963	18,015	14,945
大分県	6,341	1,151,229	32.3	72,333	39,472	10,897	11,313	10,651
宮崎県	7,735	1,095,903	31.7	72,435	42,598	11,933	9,303	8,601
鹿児島県	9,187	1,630,146	31.5	113,038	64,500	20,696	14,097	13,745
沖縄県	2,283	1,481,547	21.8	94,010	53,990	17,011	12,298	10,711

※について | 全国総数には指定都市及び中核都市を含む

●面積 | 国土交通省国土地理院：令和3年全国都道府県市区町村別面積調(令和3年1月1日時点)

●人口・高齢化率 | 総務省：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(令和2年1月1日時点)

●障害者数 | 厚生労働省：令和元年度福祉行政報告例/身体障害者手帳交付台帳登録数、療育手帳交付台帳登録数

令和元年度衛生行政報告例/精神障害者保健福祉手帳交付台帳登録数、特定医療費(指定難病)受給者証所持者数

## 令和2年度 障害者芸術文化活動普及支援事業 報告書

2021(令和3)年3月31日

### 企画・発行

令和2年度障害者芸術文化活動普及支援事業連携事務局

<http://renkei-sgsm.net/>

美術分野 | 社会福祉法人 グロー (GLOW) ～生きることが光になる～

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦4837-2

TEL: 0748-46-8100 FAX: 0748-46-8228

MAIL: [artbrut\\_info@glow.or.jp](mailto:artbrut_info@glow.or.jp) URL: <http://glow.or.jp/>

舞台芸術分野 | 社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会 (国際障害者交流センター ビッグ・アイ)

〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台1-8-1

TEL: 072-290-0962 FAX: 072-290-0972

MAIL: [arts@big-ijp](mailto:arts@big-ijp) URL: <https://big-ijp/>

### 連携事務局

西川賢司、松井裕紀、山口有子 (社会福祉法人 グロー [GLOW] ～生きることが光になる～)

鈴木京子、島中英明、須賀正智 (社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会)

### 発行責任者

牛谷正人 (社会福祉法人 グロー [GLOW] ～生きることが光になる～ 理事長)

里中 亨 (社会福祉法人 大阪障害者自立支援協会 理事長)

### デザイン

LABORATORIES

### 編集

『engawa』今井浩一

小森利絵

### 写真協力

アートセンター集、YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター、新潟県障害者芸術文化活動支援センター、Aichi Artbrut Network Center (AANC)、島根県障がい者文化芸術活動支援センター アートベースしまねいろ、愛媛県障がい者アートサポートセンター、藁工ミュージアム 分室、FACT (福岡県障がい者芸術文化活動支援センター)、Saga ArtBrut Network Center (SANC)、おおいた障がい者芸術文化支援センター、宮崎県障がい者芸術文化支援センター、中国・四国 Artbrut Support Center passerelle

### 印刷・製本

株式会社シュービ

### 助成

厚生労働省 令和2年度 障害者芸術文化活動普及支援事業